

第八十九回帝國議會 勞働組合法案委員會會議錄(速記)第二回

付託議案
勞働組合法案(政府提出)(第一八號)
昭和二十年十二月十二日(水曜日)午前
十時二十五分開議
出席委員左ノ如シ
委員長 添田敏一郎君
委員 小野 義一君 川崎巳之太郎君
小林鐵太郎君 下出 義雄君
長井 源君 野田 武夫君
野本吉兵衛君 廣野規矩太郎君
關田 重清君 松村 光三君
村松 久義君 藤澤 雄次君
吉川 大介君 船田 中君
菅野和太郎君 星島 二郎君
信正 義雄君 山口喜久一郎君
本多 市郎君 山崎 常吉君
正木 清君 山崎 常吉君
同日委員羽田武副郎君、今井新造君、喜多壯一郎君及村松久義君辭任ニ付其ノ補闕トシテ逢澤寛君、小山亮君、永山忠則君及藤澤雄次君ヲ議長ニ於テ選定セリ

同日理事喜多壯一郎君ノ補闕トシテ永山忠則君理事ニ當選セリ
出席國務大臣左ノ如シ
厚生大臣 芦田 均君
大藏大臣 子爵 渡澤 敏三君
出席政府委員左ノ如シ
大藏省外務局長 野田 卯一君
厚生省勞務局長 高橋 麗彌君
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
勞働組合法案(政府提出)

○添田委員長 開會ヲ致シマス——村松久義君
○村松委員 進歩的ナリト稱スル勞働組合法案ヲ提案サレマシテ、私共喜ンデ居ル一入デアリマス、確カニ進歩的デアリコトハ是ハ言フマデモアリマセウガ、唯進歩的ト云フ意味ガ、必ズシモ其ノ言葉ノ持ツテ居リマスル總テノ意味ニ於テ肯定シ得ルカドウカ、是ハ相當疑問ノ點ガアルト存ジマス、但シ昭和六年ニ政府ヨリ提案セラレマシタル勞働組合法案ニ比較シテノ話デアツテ、必ズシモ現在ノ日本經濟ノ變化ニ相應シタルモノデアリカドウカニ關シテハ、是カラ大臣ニ種々御伺ヒ致シテ見タイト思フデアリマス、要スルニ昭和六年カラ今日マデ十幾年、其ノ間ニ經濟ハ基本的ノ變化ガアリマシタ、戰爭、更ニ其ノ後ニ於ケル我々ノ直面致ス日本經濟ノ再建ノ問題、此ノ經濟ノ進展ト申シマス、變化ニ相應シテ組合法案ガ成長致シタルデアレバ、是ハ確カニ進歩的デアリカ、悲シイカナ本法ハ、昭和六年當時ノ勞働問題ニ關スル觀念ヲ一歩モ出テ居ナイヤウナ感シガスル、唯當時否ニセラレタル所ノ團體交渉權ナリ、或ハ罷免權ト云フモノガ復活セラレタト云フデケデアツテ、現在ノ根本的ニ變化シタル經濟基盤ニ、果シテ相應シテ居ルカドウカト云フコトガ、嚴正ニ批判セラレナケレバナラヌトス様ニ私ハ考ヘマス、之ヲ批判致シマスル私ノ立場ハ、勿論資本家側デモナイ、又勞働者側デモナイ、

謂ハバ消費者、或ハ生活者、全國民ガ消費者デアリ、生活者デアルト云フ全國民ノ立場ニ於テ、之ヲ批判スル必ザアルト思ヒマス、大臣モ御承知デゴザイマセウガ、日本ニハ今日マデ消費者、或ハ生活者ノ批判ト云フモノガ、一切ノ社會運動ニナカツタト云フ事實ハ肯定ナサルコト存ジマス、昭和六年ノアノ當時ヲ顧ミテ見マスレバ、資本家側ハ要スルニ勞働組合法案ヲ單ナル惡ルベキモノトシテ今日マデ排斥シテ居ル事實、サウシテ又勞働者側ニ於テハ組合或ハ組合運動ト云フモノヲ、單ニ戰爭ノ手段ト云ツタヤウナ風ニ解シテ居ツタノデアツテ、私共全國民ノ立場、消費者、生活者ノ立場ニ於テ之ヲ見マスルナラバ、正シイ勞働問題ノ解釋ヲ持ツテ居タヤウニハ之ヲ見受ケテ居ナカツタノデアリマス、當時ノ爭議ノ狀況ヲ考ヘテ見マスルコト、事實ニ於テ組合運動、或ハ爭議ト云フモノモ、勞働者自ラノ運動ニナツテ居ラナカツタト云フ事實ハ間違ヒガナイデアリマス、極端ニ言ヒマスナラバ、勞働運動家ノ運動トモ考ヘラレル節ガ相當ニアツタノデアリマシテ、ソレ故ニ當時ノ勞働組合法案ニ對スル考ヘ方デ云フモノハ、一部ハ惡レ、一部ハ之ヲ強行セントスル、何カシラソコニ一ツノ階級戰爭ノ手段トシテ組合運動ト云フ觀念ガ、力強ク印象付ケラレテ居ル、斯様ニ考ヘラレノデアリマス、ソコデ私ハ最初ニ、本勞働組合法案ヲ御提案ニナリマシタ政府ガ、ドンナ勞働觀、動勞觀——理想案

デモ結構デアリマス、或ハ現狀ニ即シタル所ノ過渡的ナル勞働觀デモ結構デアリマスガ、ドンナ動勞觀、ドンナ勞働觀ヲ持ツテ、殊ニ資本ニ關聯スル範圍ニ於テドンナ風ナ御考ヘヲ持ツテ本法案ヲ御提案ニナツタノデアリカ、之ヲ最初ニ御聽キ致シタイト存ジマス
○齊田國務大臣 只今村松君ノ御發言ニナリマシタ日本勞働運動ノ經過、之ニ對スル資本家側ノ態度並ニ消費者側ノ態度、一向取上ゲラレテ居ナイト云フ風ナ御觀察ニ付テハ、私モ同感デアリマシテ、至ク御話ノ通りダト思ヒマス、一口デ申セバ、昭和六年初メテ政府ノ勞働組合法案ガ提出サレテ、審議未了ニ終リ、サウシテ今日マデ勞働組合法案何等ノ具體的進歩ヲ遂ゲナカツタト云フコトハ、畢竟勞働運動ニシテモ、或ハ資本家側ノ企業體制ノ基本ニシテモ、或ハ又一般大衆ガ勞働問題ヲ取扱フ態度ニ於テモ、足ガ地ニ付カナ形デヤツテ來タト云フ結果デアルト思ヒマス、然ラバ今日此ノ進歩的ナル勞働組合法案ニ相應シキ總テノ客觀的條件ガ國內ニ醸成ツレテ居ルカドウカト云フ點ニ關シテ、私自身モ資本家側ノ心構ヘ、勞働組合運動ノ現狀、是等ノ問題ニ對スル國民ノ心構ヘ、何レモ十分ナ發展ヲ示シテ居ナイト思ヒマス、併シナガラ此ノ狀況ヲ此ノ儘自然ノ推移ニ任ズベキデナク、或ル一定ノ標準ヲ早ク天下ニ示シテ、我々ノ向フベキ目標ハ斯ウ云フ方面ニアルノ程度ノ指導ヲ國民ニ行フコトガ、此ノ

際ニ於ケル政府當然ノ任務デアル、斯様ニ考ヘマシテ此ノ法案ヲ作成シタルデアリマス、諸外國ノ立法例等ヲ見マシテモ、「イギリス」、「アメリカ」等ノ勞働組合ニ關スル法制ハ、實質ニ於テ今回提案致シマシタ法案ト左程ノ逕庭ハナイ、謂ハバ世界ノ先進國ニ於ケル勞働立法ノ模範ニ達シタ案デアルト考ヘテ居リマス、問題ハ此ノ一ツノ枠ノ中ニ十分充足セラルベキ要件ヲ如何ニ速カニ作り上ゲルカト云フコトニ懸ツテ居ルノデアリマスガ、其ノ點ハ獨リ政府ノ努力デハ出來ナイコトデアリマシテ、勞働側ニ於テモ、又事業主ノ側ニ於テモ、或ハ又之ニ對スル社會一般ノ心構ヘニ於テモ、今後打ツベキ手ハ澤山ニ殘サレテ居ル、斯様ニ私ハ考ヘテ居リマス
○村松委員 御説明ニ相成リマシタ點ハ其ノ通り私ハ了承致シマスガ、私ノ問ヒ方ガ下手ナンデアリマセウカ、其ノ點ニ付テ逸脫ナサレタヤウニ考ヘマスノデ、モウ一度簡單ニ申上ゲマスガ、私ノ御聽キシテ居ルハ、本法ヲ提案ニナラレタル其ノ根柢ヲ成ス勞働觀、動勞觀ヲドンナ風ニ御考ヘニナルカ、勞資對立ト云フ宿命的ノ運命ノ下ニ於テ、動勞觀ヲ御考ヘニナツテ居ルカ、或ハ又勞資一體、或ハ勞資ノ協同體ト云ツタヤウナ、大キナ理想ノ下ニ御出シニナツテ居ルカドウカ、其ノ勞働觀ノ、本法提案ノ根柢ヲ成シマスル御理想デモ結構デアリマス、或ハ現狀ニ即シタル所ノ過渡的ナル御考ヘデモ結構デアリマス、其ノ點ヲ明カニシ

テ職キタイ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス

○青田國務大臣 御答ヘ致シマス、村松君ガヨク御承知ノ通り、「ヨーロッパ」ニ於ケル産業革命以後ノ勞務運動ハ「イギリス」ニ於テモ、又「ドイツ」其ノ他ノ大陸諸國ニ於テモ、ヒタ向キニ階級闘争ノ運動ヲ興リ立テルヤウナ方向ニ向ツテ來テ居ツタノデアツテ、少クモ第一次世界大戰ニ至ルマデノ社會運動ハ、社會主義運動ノ眼目トシテ階級闘争ノ觀念ニ左右サレテ來タノデアリマス、ソレニ對スル反動ハ戰後ニ於ケル「ナチス」ノ思想トナリ、或ハ「イタリア」ニ於ケル組合國家ノ運動トナツテ、ドナラカト言ヘバ、強權ヲ以テ自發的ナル勞務運動ヲ抑壓シタ形ニナツテ居リマス、其ノ形勢ガ今回ノ第二次世界大戰ニ依ツテ忌憚ナク缺陷ヲ暴露シテ、遂ニ「ナチス」運動、「ファッシ」運動ガ斯様ナ慘メナ失敗ニ終ツタコトハ御承知ノ通りデアリマス、隨テ新シキ世界ノ勞務觀ハ、此ノ過去ノ二ツノ失敗ニ顧ミテ、新シキ舞臺ニ飛躍シテ行カナクテハナライ、其ノ背後ヲ成ス思想ハ、學者ノ説ヲ聽ケバ色々離カシイ言葉ヲ發表サレテ居ルデアリマセウガ、我々素人ノ一應ノ心構ヘトシテハ、此ノ十九世紀ノ階級闘争ノ思想竝ニ其ノ後ニ現ハレタル「ファッシ」ニ依リ強權ノ思想、ソレ等ノモノノ犯シ來ツタ過チヲ能ク反省シテ、勞務階級モ、或ハ資本家階級モ、政府自體ノ心構ヘモ、國民大衆ノ之ニ對スル態度モ、此ノ凡ニル階級ヲ打ツテ一丸トシタル精神ノ上ニ樹立サレナケレバナラヌデアリマス、隨テ本法ノ第一條ニ示シテ居リマスル目的ニ於テモ、決シテハ勞務者ノ立場ヲノミ擁護スル

ト云フコトニ盡キテ居ルノデハナイノデアツテ、原案ニ現ハレテ居リマシタ社會的、經濟的、政治的地位ノ向上ヲ圖リ、而シテ文化ノ發展ト經濟ノ興隆ニ寄與スベキデアルト云フコトハ、之ヲ事業主ノ側カラ見テモ、國家ノ側カラ見テモ、勞務階級ノ權利、利益ノ擁護ト同時ニ、勞務階級自體モ亦社會國家ノ文化、經濟ノ興隆ニ寄與スベキモノデアルト云フ意味ヲ示シテ居ルノデアリマシテ、第一條第一項ノ精神ハ其ノ間ニ何等階級のナ利害關係、階級的ナ「イデオロギー」ヲ含ンデ居ルモノデアリマセウ、此ノ意味ニ於テモ本法案ハ寧ろ新シク一步ヲ踏出シテ居ルモノデアリ、從來ノ勞務法制ノ觀念ヨリモ更ニ積極的ナ精神ヲ茲ニ盛込シタモノデアリ、斯様ニ私ハ信ジテ居リマス

○村松委員 難カシイ點上ノ意見ヲ私展開シヨウトハ思ヒマセウ、只今ノ當議的ノ御考ヘノ程度デ満足致シマスガ、要スルニ只今ノ御答ヲ私展開シマスルト、資本家側モ勞務者側モ相提攜シテ産業ノ興隆ト云フ點ニ集中シ現ハレルヤウニト云フ御希望ノヤウニ私拜聴致シマシタ、ソレハソレデ分リマス、ソコデ本法案ノ構成ヲ見テ居リマス、要スルニ資本家側ニ對シテモ産業ノ興隆ニ努ムベキ一ツノ要諦ソスベキデハナカッタカ、何カシラ勞務者側ノ方バカリ規定致シマシテ、産業方面ニ對スル資本家側ニ對スル所ノ要諦ト云フモノハ、唯第一條ニ産業ノ興隆トアリ、サウシテ只今ノ御説明ノ範圍ニ於テ、成程ソレハサウ云フ點デアラウト云フヤウニシカ分ラヌデアリマセウガ、ソレハソレトシテ、若シ本當ニ階級闘争ト云フノデハナク、勞資ガ産業ノ興隆ニ一體トナツテ盡スベキ要

請、盡スベキ義務ヲ其ノ中ニ盛ラレテ居ルトスラバ、是ハモウ一步進ンデ日本ノ經濟産業ト云フモノガ、御承知ノヤウニ半封建的ナ言ハレテ居ル、此ノ半封建的ナ言ハル、産業關係ヲ根本的ニ規定スル、サウシテ産業自體ヲ民主主義化シテ行クト云フ方向ニ御進ミニナリ、併セテ勞務者側ノ地位向上、産業興隆ト云フ任務ヲ課セラレラバ、私成程ト思ヒマスルケレドモ、本法ニ於テハ産業ノ民主主義化ニ關シテハ殆ド何等調ツテ居ル所ハナイノデアリマス、此ノ際日本ノ經濟ノ狀況ヲ考ヘテ見ルト、是非非常ニ特殊ナルデアリマス、先程大臣ハ此ノ法案ハ先進諸國ニ比較シテ何等進歩ナイモノデアルト言フ、其ノ先進諸國ガ法律ノ上ニ於テハ或ハ進歩ガナイカモ知レヌガ、法律ハソレハ過去ニ於テ作ツタノデアリマスガ、戰後ト云フ新シイ經濟ニ突入致シマシタ所ノ各國ハ、法律ノ有無ニ拘ハズ新シイ勞務運動ニマデ今發展セントシテ居ルノデアリマス、ソレハ「アメリカ」例ニ取ツテ申上ゲルマデモノナク、單ナル此ノ程度ニ終ツタハ居ナイノデス、寧ろモウ産業方面ニ對シテ民主主義化ノ運動ガ進ンデ來ル、生活者トシテ消費者トシテ全國民的立場ニ於テ政策ガ進行セラレテ居ル、何年モ前ニ作ツタ法案ハ是ハ別デアリマスガ、現状ハ少クモ此ノ法案程度ニ於テハナイ、勞務運動ノ實際ハサウデハナイノデアリマス、ソコニ御留意ナサルナラバ、私ハ本法案ガ世界ノ現在ノ勞務運動ノ現狀カラ見テ、決シテ進歩的デハナイ、寧ろ産業方面ニ對シテモ民主主義化運動カ此ノ法案ノ中ニ盛ラレ、而モ産業ノ興隆ト云フコトヲ勞務者ノミニ課スルノデハナ

ク、資本家側ニモ課シテ行クト云フ方針デ此ノ法案ヲ作ツタ御考ヘニナリマスルナラバ、ドウシテモサウ云フ方面ニ對シテ大キナ攻勢ガ展開サレナケレバナラヌコトハ是ハ理ノ當然、大臣ノ仰シタル所カラ結論シ得ルノデハナイカト存ジマス、本法案ハソレガ認メラレマセウガ、若シ大臣ガ日本産業ノ民主主義化ノ御理想、御構想ト云フヤウナモノヲ御持チデアリマスナラバ、此ノ際ニ於テ簡單デ結構デアリヤスカラ、其ノ方向ダケデモ一ツ御示シヲ願ヒタイト存ジマス

○青田國務大臣 只今村松君ノ御話ノ點ハ御尤モデアリマス、私モ全然同感デアリマスガ、此ノ組合法ニ關スル限リ、資本家ガ勞務ニ關係スル部門ヲ規定シタモノデアリマシテ、其ノ點ニ於テハ勞務組合ノ團結ヲ助成シ、勞務委員會ニ民主主義的ナ機構ヲ盛込シタト云フ點ニ於テ、略々資本家ノ勞務問題ニ關スル部門ハ網羅シテ居ルト考ヘテ居ルノデアリマス、産業ノ民主化其ノ他企業ノ形態問題、勞務者ノ企業參加問題、是等問題ニ付テハ自ラ之ヲ取扱フベキモノデアツテ、勞務法制トシテハ資本家ノ執ルベキ種々ノ措置ニ付テ、略々漏レナク規定ガ出來テ居ルノデハナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、産業ノ民主化ニ付キマシテハ昨日御委員カラ質問ガアリマシタ、其ノ時二十二分ハ參リマセウガ、私ノ考ヘテ居ル大體ノ筋道ヲ答辯致シマシタ、今朝ノ新聞紙ニモ、其ノ梗概ハ掲載サレテ居ルノデアリマス、村松君ニ對シテ之ヲ御答ヘスルニバ、昨日ノ答辯ヲ繰返ス程度ニ止マルカト思ヒマス

カラ、其ノ點ハ後日速記録ニ付テ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス

○村松委員 本法案ガ産業ニ於ケル勞務ニ關スル部分ノミヲ取上ゲタノデアルト云フ御言葉、勞務トハ一體何ゾヤト云フコトガ今度ハ問題ニナツテ來ル、例ヘバ勞務能率ノ増進等ハ、是ハドウ云フ風ニシテ解決スルカト云フヤウナ問題ガ直チニ起ル、生活上ノ問題ダケデハナイ、ソシテ本法案ガ産業ノ興隆ニ資セントスルト云フ、産業、興隆ニ資セントスル時ニ、勞務能率ノ問題ガ問題ニナラヌ筈ハナイノデアル、其ノ勞務ノ能率ガ企業參加ナリ、或ハ生産責任ノ問題ニ觸レズシテ解決スルコトモナイノデアリマス、或ハ又勞賃ノ契約ニ致シマシテモ、其ノ産業内部ノ經營ト無關係ニ是ガ決定セラレル管モナイノデアツテ、抽象的ニ勞務ダケヲ取上ゲタト云ヘバ、言葉トシテハ結構デアリマスルケレドモ、實際ニ勞務協約ヲ締結シマスル際ニ、其ノ企業内部ニ何等關係ナシニ孤立シタル勞務ヲ考ヘルト云フコトハ、私共ノ觀念トシテハ出來ナイノデアリマス、隨テ本當ニ勞務ト云フ方面ヲ追究シテ、其ノ範圍ヲ論ジテ參リマスルナラバ、ドウシテモ産業内部ノ經營ノ問題ニ「タツチ」セズニ是ガ考ヘラレル筈ガナイ、斯様ニ私ハ考ヘル、併シハ此ノ法案ニ於テ決定スルノデハナシニ、他ノ方面ニ於テ別ナ一ツノ指導ヲシヨウト、斯ウ言ハレルノデアリマスルカラ、私ハ其ノ別ナ指導トハ何ゾヤト云フコトモ實ハ御聽キシタイ、併シ結局ニ於テハ「産業ノ民主主義化」ノ方面ト關聯シ、ソレガ昨日御答辯ヲナスツタノデ諒承セイト云フコトデアリマスカラ、私ハ此ノ問題ハ一應此處デ打切りマシ

テ、次ニ關聯シテ參リマスルカラ、後
ニ只今ノ昨日ノ云々ト云フコトニ付テ
モ申上ゲテ見タイト思ヒマス

ソコデ私ノ議論ハ先私ノ話ノ中ニ
出テ居リマシヤウニ、現在ノ日本ノ經
濟ト云フモノハ、過去ノ昭和六年當時
ノ經濟デハ最早ナリ、詰リ經濟ノ進展
ト申シマスカ、變貌ト申シマスルカ、
戰爭及敗戦、一切ノ産業ガ破壊シ盡
サレタト云フ此ノ根柢ニ立ツテ、經濟
ノ再建ヲ圖ラナレバナラナイト云
フ、其ノ經濟ノ再建ト云フコトト關聯
シテ、本法案ノ進歩的ナル内容ヲ一ツ
檢討シナレバナラヌト思ヒマスル
ガ、是モ或ハ昨日角君トノ話ニ何カ御
觸レニナツタヤウニモ思ヒマスルカ
ラ、私ハ昨シヨトハ申上ゲマセウガ、
現在ノ日本經濟ノ特質ト申シマスル
ト、甚ダ大體ニ實ニナリマスルケ
レドモ、私共生活者、消費者トシテノ
立場カラ考ヘテ參リマス、現在ノ日本
ノ中心的生活問題ハ何カト官ヘバ、
結局對内的ナ階級問題ト云フヨリハ、
ヤツバリ敗戦ニ依ツテ破壊シ盡サレテ
居ル産業ノ回復ト云フコト、其ノ産業
ノ回復ニ依ツテ生活者、消費者ガ其ノ
經濟ヲ再建シ得ルヤウ、左様ナ所ニア
ルノデハナイカト思ヒマス、進シテ申
上ゲマス、現在ハ國內ノ問題ト云
フヨリハ、日本ノ經濟ノ在リヤウハ國
際的ノ民族問題、斯ウ表現シタ方ガ
宜イカト思ヒマス、人口問題、食糧
問題ニ現ハレテ居リマスルヤウニ、
失ハレタ領土ト資源ト云フコトカラ
來ル生活物資ノ不足ト云フ問題、此
ノ問題ガ中心デアルト思ヒマス、其
ノ際ニ國內的ニ若シ階級的ノ對立ガ
アル、而モ産業内部ニ於テ利害ノ對
立ガアルト云フノデハ、ドウモ國民

的ノ立場ニ於テハ斷ニ落チナイ所ガア
ルノデアリマス、曾テハ資本ト勞働ト
云フモノハ完全ナ對立ト言ハレテ居
ツタヤウニ思ヒマスルガ、現在ノ日本
ノ何トシテモ産業ノ再建ヲシナレバ
ナラヌト云フ立場カラ考ヘテ來ルト、
或ル場合ニハ寧ろ利害ガ相反スルノデ
ハナクテ、利害ガ共通ダト云フヤウニ
考ヘラレテ來ルノデアリマス、從來ノ
ヤウニ利害ガ相反スルモノデアルト云
フコトヲ前提トシテ考ヘラレテ居ツタ
ヤウナ、サウ云フコトガ清算セラレ
テ、相共ニ産業ノ興隆ニ向ツテ行クヤ
ウニ、勞資雙方ガ一體トシテ規定セラ
レ、政策セラレ、政治セラレテ行ク
云フコトガナレバ、本當ノ經濟ノ再
建ト云フモノハ出來ナイノデヤナイ
カ、サウ云フ押迫ツタ所ノ現狀ニアル
ノデハナイカト思フノデアリマス、勿
論勞働ト云フ方面ニ關聯シテノミ之ヲ
抽出シテ規定ナサルノモ宜シデアリ
マセウケレドモ、併シソレデハ何カシ
ラ片手落ダ、モット産業興隆ニ導キ得
ルヤウナ其ノ態勢ヲ勞資合セテ一體ト
シテ、之ヲ政策シテ行クト云フ、ソレ
ガナカツタナラバ勞働組合法ハ、結局
勞働者自身ノ要求サヘ満足ニ充シ得ナ
イヤウナ破目ニ陥ツテ來ルコトガ、私
共ノ眼ノ前ニチラツイテ居ルノデアリ
マス、或ハ勞働者ノ要求ハ、洵ニ結構
ダ、尤モダ、併シ其ノ尤モナ要求ヲ現
在ノ生産ノ上ヲナイ、現在ノ破壊シ盡
サレタ産業ニ要求ヲ貫徹シテ行クト云
フト、其ノ産業自體ガ滅ビテシマフト
云フヤウナ、非常ニ切羽詰ツタ問題ガ
眼前ニアルノデアリマスルカラ、何ト
シテモ勞資ヲ一體トシテ、産業興隆ノ
方向ニ足並ヲ揃ヘテ進メテ行クト云フ
ヤウナ其ノ御用意ガナレバ、折角ノ

進步的ナル勞働組合法案モ、勞働者ノ
産業興隆ニ貢獻スルコトニ於テハ、極
メテ稀薄ナル貢獻シカナイノデアリナ
イカト云フコトヲ恨レルノデアリマス、
結局私ノ考ヘテ居リマスル問題トシマ
シテハ、例ヘバ現在ノ産業資本ト云フ
モノハ、軍需産業カラ百「パーセント」
平和産業ニ轉換シナレバナラヌガ、
其ノ轉換ノ資材ナリ或ハ資金ナリ――
資金サヘモ實ハ非常ニ困難ニ陥ツテ居
リマス、金融資本家ニ於テハ戰時利得
モ相當ニアツタ管デアル、或ハ社内留
保モ極メテ多シ、併シ彼等ハ政府ノ補
償ガドウモハツキリシナイノデ、カ
ラモウ現在金融ガ出來ナイノダト云
テ金融サヘモ阻止シテ居リマスガ、此
ノ金融ト云フ方面一ツ考ヘテ見マシ
テ、勞資ガ一體トナツテ此ノ金融方面
ニ對シテ力ヲ向ケテ行キ、此ノ金融問
題解決ノ爲ニ一體トナツテ進シテ行ク
ト云フヤウニ、寧ろ利害ノ共通ナルモ
ノガアル、其ノ寧ろ共通ナル利害ト云
フモノハ何處カラ起ルカト云ヘバ、勞
資ガ一體トナツテ産業ノ興隆ニ資スル
ト云フ所ニ初メテ起ツテ來ル問題ナ
デアリマス、勞務者ノ方面カラダケ規
定シマシタカラト云ツテ、何カ勞務者
ノ生活ノ改善モ出來ルカノ如ク、或ハ
産業ノ興隆ガ出來ルカノ如ク御考ヘニ
ナリ、サウシテ産業方面ノ方ハ一ツ他
ノ面カラ指導シテ行クノダト云フ、其
ノ産業方面ヲ他ノ面カラドウ御指導
ナサルカ分リマセウケレドモ、ソレハ
産業興隆ト云フ大キナ眼目ヲ以テスル
所ノ本法案ニ取ツテ、何カ非常ニ空虚
ナ感シラセザルヲ得ナイノデアリマ
ス、隨テ私ハ是レ以上別ニ議論シヨ
ウトハ思ヒマセウケレドモ、要スルニ
此ノ際ニ於テハ勞資ト云フモノノ對内

的ノ問題ヲ解決スルト云フヨリモ、寧
ろ一歩進シテ勞資ヲ一體トシテ、其ノ
對外的ノ問題ニ向ツテ進ミ得ルヤウニ
本法案ガ向ツテ居ツタナラバ、ヨリ進
歩的ニアルノデハナカツタラウカト云
フコトヲ痛感シマス、願ハクハ一ツ
本法案ノ運用ニ於キマシテ、徹底的ニ
斯ウ云フ方向ニ力ヲ注イデ戦キタイト
云フコトヲ希望セザルヲ得ナイノデア
リマス、ソコデ若シ出來マスナラバ、
現在ノ此ノ狀況ニアリマス日本經濟再
建ノ國家的ノ方針ト云フモノハドンナ
モノデアルカ、是ハ後ニモドナダカ御
問ヒニナルコトニナツテ居ルヤウデア
リマスガ、是ガドンナモノデアルカ、
日本經濟再建ノ方式ト云フヤウナモ
ノ、或ハ所管迄デアルトモ考ヘラレ
マスルガ、御話下サルコトガ出來レバ
御明シヲ願ヒタイト思ヒマスガ、如何
デゴザイマスカ

○田田國務大臣 段々村松君カラ御述
ベニナリマシタ勞資一體ノ産業體系、
之ヲ基本トスル我ガ國經濟再建ノ問
題、何レモ極メテ有益ニ拜聴致シマシ
タ、大體ノ御考ヘハ私共モ以テ感ジテ
居ルコトデアリマシテ、同感ノ點バカ
リデアリマス、唯是等ノ問題ヲナゼ此
ノ法案ノ上ニ現ハスコトノ出來ナカツ
タカト云フ點ハ、先程申上ゲマシタ通
リ、勞働組合法案ハ専業主ノ勞働部門
ニ關スル規定ヲ行ツテ居ルノデアツ
テ、ソレ以外ノ問題ハ自他ノ法律ナ
リ政策ニ依ツテ規定セラルベキモノデ
アルト云フ私ノ考ヘハ、一應御諒願
ヒタイト思フノデアリマス、例ヘバ勞
働者ノ就業時間ニ付テハ、工場法ニ規
定シテ居ル所モアリ、又資金ノ問題ニ
付テハ資金統制令其ノ他ニ依ツテ規定
セラレテ居リマス、勞働者、企業者ノ

利害ガ渾然一體デアル、勞働ノ平和ナ
クシテ事業ハ榮エナイ、事業ノ繁榮ナ
クシテ完全就業ハ考ヘラレナイト云フ
コトハ、寧ろ政治教育或ハ政治方針ト
シテ示サルベキモノデアツテ、自覺シ
タル勞働者ハ必ズ此ノ點ヲ知ツテ居
ル、自覺シタル産業家ハ必ズ此ノ點ヲ
了解ヲ持ツテ居ル、斯様ニ考ヘマス、
サウ云フ問題ハ自他ノ部門ニ於テ規
定シ、或ハ指導セラルベキモノデア
ル、斯様ニ一應私共ハ考ヘテ、勞働組
合法ノ中ニハ其ノ程度ノ規定ヲ設ケナ
カツタ次第デアリマス、今後ノ日本再
建ノ經濟政策ヲドウスルカト云フコト
ハ、村松君モ既ニ御考ヘニナツテ居
デアリマセウガ、是ハ我々ノ當面シテ
居ル一番困難ノ問題デアリマス、併シ
ナガラ現下ノ狀態ニ於キマシテ、少ク
トモ聯合軍司令部ガ日本國內ニ存在ス
ル限り、我ガ國ノ經濟生活ハ「ボツダ
ム」宣言ノ條項ニ定メテアル規定以外
ニ出ルコトガ頗ル困難デアリマス、彼
等ノ言フ如ク、日本國民ニ對シテ最低
生活ノ保障ヲ與ヘルト云フ趣意ヲ明カ
ニ致シテ居ルノデアリマシテ、今後我
ガ國ニ課セラルベキ賠償ノ問題並ニ聯
合軍占領費用ノ問題、在外資產ノ賠償
引當、若シハ沒收ニ依ル善後策ノ問
題、是等ノ問題ヲ算ヘテ見レバ、前述
ニ幾多ノ難關ガ横イツテ居ルコトハ今
カラ覺悟シテ掛ラナレバナラヌ、其
ノ範圍内ニ於テ我々國民ノ經濟生活ノ
安定ヲ圖ラウト云フニハ、一應開始産
業ニ十分ノ保護助成ヲ與ヘテ、サウシ
テ先ツ以テ八千萬ノ國民ガ衣食ニ不
由ノナイヤウニ、住ムニ家ヲ持ツヤウ
ニ、サウシテ健全ナル國民精神ノ下ニ
將來ノ民族トシテ生成發展ノ道ヲ進
テ行タト云フ大體ノ方針ヲ以テ、各方

利得ガ渾然一體デアル、勞働ノ平和ナ
クシテ事業ハ榮エナイ、事業ノ繁榮ナ
クシテ完全就業ハ考ヘラレナイト云フ
コトハ、寧ろ政治教育或ハ政治方針ト
シテ示サルベキモノデアツテ、自覺シ
タル勞働者ハ必ズ此ノ點ヲ知ツテ居
ル、自覺シタル産業家ハ必ズ此ノ點ヲ
了解ヲ持ツテ居ル、斯様ニ考ヘマス、
サウ云フ問題ハ自他ノ部門ニ於テ規
定シ、或ハ指導セラルベキモノデア
ル、斯様ニ一應私共ハ考ヘテ、勞働組
合法ノ中ニハ其ノ程度ノ規定ヲ設ケナ
カツタ次第デアリマス、今後ノ日本再
建ノ經濟政策ヲドウスルカト云フコト
ハ、村松君モ既ニ御考ヘニナツテ居
デアリマセウガ、是ハ我々ノ當面シテ
居ル一番困難ノ問題デアリマス、併シ
ナガラ現下ノ狀態ニ於キマシテ、少ク
トモ聯合軍司令部ガ日本國內ニ存在ス
ル限り、我ガ國ノ經濟生活ハ「ボツダ
ム」宣言ノ條項ニ定メテアル規定以外
ニ出ルコトガ頗ル困難デアリマス、彼
等ノ言フ如ク、日本國民ニ對シテ最低
生活ノ保障ヲ與ヘルト云フ趣意ヲ明カ
ニ致シテ居ルノデアリマシテ、今後我
ガ國ニ課セラルベキ賠償ノ問題並ニ聯
合軍占領費用ノ問題、在外資產ノ賠償
引當、若シハ沒收ニ依ル善後策ノ問
題、是等ノ問題ヲ算ヘテ見レバ、前述
ニ幾多ノ難關ガ横イツテ居ルコトハ今
カラ覺悟シテ掛ラナレバナラヌ、其
ノ範圍内ニ於テ我々國民ノ經濟生活ノ
安定ヲ圖ラウト云フニハ、一應開始産
業ニ十分ノ保護助成ヲ與ヘテ、サウシ
テ先ツ以テ八千萬ノ國民ガ衣食ニ不
由ノナイヤウニ、住ムニ家ヲ持ツヤウ
ニ、サウシテ健全ナル國民精神ノ下ニ
將來ノ民族トシテ生成發展ノ道ヲ進
テ行タト云フ大體ノ方針ヲ以テ、各方

國ニ施設ヲスル以外ニ途ハナイノデハアルマイカ、斯様ニ考ヘテ居リマス、併シハ私ノ頭ニ持ツテ居ル考ヘ方デアリマシテ、内閣ノ全體ノ方針トシテ徹底のニ具體策ヲ立テタト云フ程度ニハナツテ居ナイノデアリマス、此ノ點ヲ御諒承願ヒマス

○村松委員 成ベク私組合法案自體ニ即シテ御尋ネラシテ見ヨウト考ヘテ居リマシタノガ、經濟再建ノ方式ナドト相當脱線ヲ致シマシタ、然ルニ詳シイ御考ヘヲ拜聴致シテ感謝ニ堪ヘマセ

ス、具體のニ引展シテ個々のニ御諒ヲシテ見タイト思フ、先程私勞働者ノ責任ノ問題ニ關シテ申上ゲテ居タノデアリマス、勞働ト云フモノニ關聯シテノミ本法ヲ取上ゲタイト仰シタルノデスガ、是ハドウシテモ私辦ニ落チマセヌ、一體會社ガドンナ成績ヲ擧ゲテ居ルノデ、又其ノ成績ト云フモノガ勞働者ノ勞働ニ依リ「コスト」ガ低下ヲシテ居ルカ居ラヌノカ、又勞賃ヲドノ程度ニ要求シテ行ケバ此ノ產業ガ成立ツテ行クノカ、是レ以上ニ要求シタナラバ此ノ產業ガ潰レルノカドウカト云フヤウナコトハ、是ハ單ニ產業内部ニアリマスルケレドモ、經營ト云フモノカラ離レタ勞務ト云フ側デケテ擷ンデ規定シタノデハ、是ハドウシテモ分ラヌ

管デアリマス、詰リ私共ノ一番考ヘマスノハ、何ト言フテモ資本ノ最大限度ノ活動力モ期待スルガ、勞働ノ力ト云フモノヲ本當ニ活力シテ行クト云フ爲ニハ、勞働ガ經營ノ中ニ入ル、或ハ深ク「タツチ」スルト云フコトガナケレバ出來ナイノデハナイカト思フノデアリマシテ、經營ト云フモノト勞働ト云フモノガ何カ別個ニアルヤウナ御考ヘ方デ、勞働ノ側デケテ規定スルノデ、其ノ方

面デケテ規定シタノダト云フ御考ニスガ、ドウモ承服ガ出來ナイノデアリマス、寧ろ具體のニ之ヲ御尋ネスルナラバ、勞働協約ノ中ニ經營參加ト云フヤウナ方面モ盛り得ルカドウカ、斯ウ御尋ネシタ方ガヨリ具體的デナイカト思ヒマスガ、御意見ハ如何デアリマス

○青田國務大臣 御答ヘラ致シマス、勞働協約ノ内容トシテ勞働者ノ企業參加ヲ認メルコトガ出來ルカドウカト云フコトデアリマシタガ、其ノ點ハ全ク自由デアツテ、何トデモ雙方ノ合意ニ依ツテ定メルコトガ出來ルヤウニ致シテ居リマス

○村松委員 其ノ御答ヘハ私ハ満足致シマス、モウ一遍別ノ方面カラ考ヘテ見マス、今日ノ經濟情勢ノ中、殊ニ食糧ナラ食糧ト云フ點ヲ取ツテ考ヘテ見マス、其ノ食糧ノ問題ヲ解決スルト云フコトハ、勞賃ノ關聯ノ中ニ於テハ解決出來ナイ問題ガ寧ろ多イノデアリマシテ、是ハ御承知ノ通り、新聞ニ現在ノ生活問題ノ中心トスル賃金ノ値上問題ガ盛ニアル、此ノ間モ私考ヘタ

ノデスガ、北海道ノ鐵道從業員ノ要求、米ノ四合配給、其ノ他賃金ノ何倍ノ値上、年末賞與ノ何倍ノ給與、色々アリマシタガ、其ノ中デ四合ノ配給ト云フヤウナ要求ハ、是ハ私共トシテ無理カラヌコトデアリ、余ク其ノ通りダト思ヒマス、思ヒマスガ、倍々之ヲ此ノ勞働組合ノ範圍ニ於テ一體トウ解決シ得ルカ、賃金ノ値上ト云フコトハ、是ハ昭和六年當時ノノ經濟情勢ノ下ニ於テナラバ、賃金ノ値上デケテ解決出來タ、隨テ賃金ノ増額ニ應ジ得ルヤウナ產業ノ利潤ノアリマスル場合ニ於テハ、是ハモウ賃金ノ値上デケテ解決

シ得ル、併シ今度ノ問題ハ別ナンデス、直接ニ一ツ賃金ノ値上デケテ云フヨリモ、米ヲ提供セヨ、斯ウ云フ問題ガアルノデアリマシテ、私ハ是ハ現在自由ニ勞働協約ヲ締結シ得ルノダト云フ御意見、サウシテ其ノ自由ニ締結シ得ルト云フコトデケテ問題ハ解決シナイノデハナイカト思ヒマス、他ノ面ニ於テ別ノ指導ヲナサルコト云フ、寧ろ其ノ方面ヲ活力サレル、四合ノ配給ト云フコトニナラバ、私ハ此ノ際ニ於テハ何ト云フテモ石炭勞務者ニ對シテ政府ガ御執リニナラントスルヤウナ勞働者ノ生活改善、勞働條件ノ維持改善ニ關スル全面的ノ方法ヲ御執リニナラナケレ

バ、勞賃ノ間デケテ解決シヨウト云フヤウナコトデケテ出來ナイ現在ノ經濟情勢デアル、斯ウ考ヘラレルノデアリマスガ、左様ナ食糧ノ直接國家的ノ供給ノヤウナ問題ニ關シマシテハ、ドシナ風ニ御考ヘニナツテ居ラレマス、御意見ヲ漏ラシテ戴キタイト思ヒマス

○青田國務大臣 日本ノ產業並ニ勞働狀態今御達ベニナツタ通りデアリマシテ、消ニ困難ナ事態ニアリマス、併シナガラ終戰直後ノ社會情勢ガ斯クノ如ク混亂シテ居ル際ニ、賃金若シハ利潤其ノ他ノ問題ヲ、永見透シノ下ニ恒久對策トシテ今日直ニ實行スルコトハ極メテ困難デアリマス、不幸ニシテ此ノ極メテ困難ノ其ノ儘ニシテ置イテ、或ハ食糧狀況ヲ今日ノ儘ニシテ、將來スシキニ互ル賃金、利潤、資本等ノ問題ヲ安定スル策ヲ直ニ實行スルト云フコトハ、容易ナラヌコトダト云フ點ニ付テハ村松君モ十分御承知ニナツテ居ルコトト思ヒマスガ、當面總テノ道ハ食糧ニ通ズル中シマスカ、

勞働問題モ工業ノ能率ノ問題モ總テ要ツテ食糧ニアルト云フコトガ現状デアリマス、其ノ事ハ今期議會始マツテ以來各方面ノ論議ノ的トナツテ居ルコトデアリマスカラ、私カラ詳細ヲ申上ゲル必要モナイト思ヒマス、出來ルナラバ三合ノ配給、四合ノ配給、更ニ進シテ配給ナキ自由ナ食糧獲得ノ途ヲ講ズルコトガ理想的デアリマスケレドモ、經營ツテ無イ袖ハ振ラレナイト云フ爲ニ、斯様ナ配給ヲ繼續シテ來テ居ルノデアリマス、併シナガラ私ノ考ヘル所デハ、多少デモ食糧ニ餘裕ガ出來タナラバ、先ヅ以テ勞働者ノ食糧増配ヲ行フベキモノデアリ、ソレデナケレバ產業ノ立直シハ出來ナイシ、國民ノ生活安定ハ到底期待出來ナイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマシテ、其ノ點ニ關スル厚生省ノ發言權ハ今後トモ十分ニ主張シテ行キタイト考ヘテ居リマス

○村松委員 御趣旨ヲ承致シマシタ、唯尙分ニ現在國家の權力ノ下ニ取上ゲラレテ居ルモノガ山アルノデアリマシテ、是ハ當ニ食糧デケテハナイノデス、食糧ハ配給ト云フコトガハツキリ國家的のニモ取上ゲラレテ居ルノデアリマシテ、勞賃ノ範圍内デケテハ解決セラレナイノデアリマシテ、若シ勞賃ノ範圍内デケテ解決ヲ任セテシマツテ濟マシテ居ラレト、是ハ何ニモナラヌ、賃金ノ値上デケニ於キマシテモ、是ハ又別ノ意味ニ於キマシテ別ノ經濟問題ヲ惹起スノデアリマスガ、斯様ニシテ場合ニ依ツテハ勞賃デケノ範圍ニ解決ヲ一任シタト云ツタヤウナコトデハ、實際ニ於テ「パン」ヲ求メテ石ヲ與ヘラレタト云ツタヤウナコトニ終ルノデアリマスカラ、其ノ點ハ此ノ法案デケテソレデ勞賃問題ガ解決スルカノ如ク御考

ヘニナラナイデ、國家的の權力ノ中ニ取上ゲラレテ居ル各種ノ問題ガアル、ソレガ勞働條件ヲ規定スルノデアリマスカラ、其ノ點ニモ一ツ深ク思ヒヲ致サレテ、今後ノ政策ヲ一ツ推進シテ戴キタイト思フノデアリマス

更ニモウ一ツ別ノ觀點カラ考ヘテ見マス、言フマデモナク今日ハ大量ノ失業者ノ時デアリマス、此ノ失業問題ニ關シテ「アメリカ」大統領「トルーマン」氏ノ放送ヲ聽イタノデアリマスガ、八月ノ末頃ノ放送デアリマシタガ、要スルニ現在大統領ハ、數週間ノ勞働爭議ニ關シテハ非常ナ憂慮ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ放送シテ居リマス、是ハ勞働者ニ對シテ呼掛ケタノデハナクシテ、消費者タル全國民ニ呼掛ケテ居ル言葉デアリマスガ、其ノ中ニ、自分ハ、數週間ノ勞働爭議ヲ憂慮シテ居ル、是等ノ困難ハ產業ノ再轉換政策ノ遂行ヲ妨害スルモノデアリ、即チ歸還軍人及ビ軍需工業ノ失業者ノ平和時代ノ職業ヘノ復歸ガ、之ニ依ツテ大ニ遲延スルノデアリ、我々ハモツト物解リガ良ク、合理的デアリ、他人ノ立場ニ理解ヲ持チ、相互ノ利益並ニ公平ヲ基礎トスル解決策ヲ圖ルナラバ、困難ノ問題ト云フモノハナイト云フコトガ出來ル、是ハ「アメリカ」ノ勞働運動ニ對スル觀念ガ、戰後ノ特殊事情ト云フコトニ依ツテ非常ニ變化ラシテ居ルコトヲ示シテ居ルト思ヒマス、隨テ「トルーマン」大統領ノ打ツ手ハ何デアルカト云ヘバ、賃金値上ゲノ問題ノ前ニ、下院ノ支出委員會ニ向ツテ完全權法案ヲ出シテ居リマス、完全權法案ヲ前提トシテ次ノ勞働問題ヲ考ヘテ行クト云フ、是ハ寧ろ當然デハナイカト思ヒマス、我ガ日本ニ於テモ失

業者一千三百萬人と言ハレル、是ハ厚生省ノ御計算ハ違フヤウデアリマスガ、電ニ一時デモ職ヲ離レル者ガ千三百萬人アル、何カ失業問題ニ對スル手ヲ打タナケレバ、單ニ勞務内部ニテ解決シ勞働問題ノ維持改善ト云フモノヲ任シタダケデソレデ宜イナド云フノデアレバ、是非常ナ失業軍人復員者、之ヲ平和産業ニ導クコトノ大キナ妨害ニナルコトハ、是ハ言フマデモナインデアリマス、斯様ナ點ニ付テ、是ハ勿論聯合軍ノ強イ理解ヲ得ナケレバナラヌコトデアリマセウガ、失業對策ニ對シテモ相當ニ一ツ進ンデ御考ヘニナリマセウト、唯是ダケデハ却ツテ失業對策ノ邪魔ニナル場合モアルノデアリマス、左様ナ點ニ付テノ御意見ヲ一ツ同ツテ置キタイノデアリマス

○西田國務大臣 御話ノ通り失業問題ハ、現在ノ日本ガ當面シテ居ル最も重要ナ問題デアリマス、此ノコトニ付テハ朝野共ニ非常ナ關心ヲ有ツテ種々研究サレテ居ルノデアリマスガ、失業對策トシテ最後ノ目標ハ完全雇傭ニアルコトハ、各國トモ皆一致シテ居ル點デアリマス、其ノ完全雇傭ノ計畫如何ニシテ實現シ得ルカト云フ問題ガ殘サレテ居ル、隨テ政府ト致シマシテハ差當リ失業率ガ約四萬萬人ニ達シテ居ルト云フ基礎ノ下ニ種々ノ案ヲ考ヘテ居ルノデアリマスガ、何ヨリモ先ヅ各人ガ勞働意欲ヲ昂揚スルコトガ先決問題デアツテ、現在ノ如ク人ヲ求メテ居ル事業ノ方ガ、職ヲ得ラレナイ勞働者ヨリモ遙カニ多イト云フコトハ、何トシテモ甚ダ當面ノ現象デアリマス、世間デ所謂失業問題ト稱スルモノハ、多クノ場合職業ヲ得ントシテ職場ヲ持チ得ナイト云フノガ、本當ノ意味

ニ於ケル失業デアツテ、人ヲ求メル所ハ多數ニアルニ拘ラズ、一向勞働ニ就カントスル希望者ガナイ、サウシテ一方ニハ街頭ニ職ヲ離レル者ガ群ヲナシテ居ルト云フコトハ、何トシテモ我が國獨特ノ不思議ナ現象デアルト考ヘザルヲ得ナイノデアリマス、隨テ失業對策ノ第一ハ、勞働意欲ヲ昂揚ニアリト云フコトハ間違ヒデハナイト思フ、第二ニハ之ニ事業ヲ與ヘル、此ノ點ニ付テ本會議ニ於テモ簡單ニ御話ヲ致シマシタ如ク、一面ニ於テハ河川、道路ノ大築造ヲヤツテ、之ニ延人員約七億人ノ勞働力ヲ吸收スル案モ進行中デアリマス、又開拓並ニ干拓事業ヲ起シテ、此處ニ延人員約十一萬人ノ勞働力ヲ吸收シヨウ、サウシテ開墾サレタ土地、干拓サレタ土地ニ少クモ五十萬乃至七、八十萬ノ農家ヲ移シ計畫ヲ實行シヨウト云フ風ナ案モアリマス、尙ホ其ノ他水力電氣ノ開發事業デアルトカ、或ハ水産業ノ跳躍的發展デアルトカ、各方面ニ考ヘラレテ居ル仕事モナイデアリマセウ、次第ニ具體的ナ考察ヲ立テテ、折角此ノ失業率救済ニ當リタイト思フテ居リマス、併シナガラソレデモ尙ホ失業率ヲ全部安定シタ仕事ニ振向ケ得ルカドウカニ付テハ、必ズシモ自信ハアリマセウ、サウ云フ場合ニドウスルカ、其ノ場合ニハ生活ニ窮シタル者ニ對シテ或ハ社會保險ナリ、若シハ餘程困難ノド底ニアル所謂「カールド」階級以下ニ對シテハ、今日行ハレツ、アル救済制度ヲモツト強化シテ、國家トシテ一層手厚イ保護ノ手ヲ伸バサナケレバナラヌト云フ考ヘノ下ニ、目下大藏省トモ豫算ノ交渉ノ致シマシテ、相當額ノ國庫負擔ヲ以テ是等ノ案ヲ實行スルコトニ進行致シテ居ル

次デアリマス

○村松委員 段々伺ヒマシタガ、要スルニ失業問題ノ解決デハナイ、失業救済ノ問題ノミヲ離シタヤウニ考ヘルノデアリマス、第一ニ生産意欲ヲ昂揚スルノダ、産業ナキ生産意欲ノ昂揚モ私共ノ考ヘラレナイ、第一ニ生産意欲ヲ昂揚シテ、次ニ事業ヲ與ヘルノデハ、マルデ逆ノヤウナ感ジガスル、問題ハ私ハ此ノ法案ヲ今マデ産業ノ民主化ノ方面カラ伺ツタ、或ハ勞賃ノ引上ダケデハナシニ、別ニ一ツ國家的ナ配給事務、其ノ方面モ共ニ考慮シナケレバナラヌト伺ツタ、又勞賃ノ對内關係ダケニ此ノ解決ヲ任セテ居ツテハナラヌノダト云フコトモ伺ツタ、ソシテ今最後ニ失業問題モ伺ツタノデアリマスガ、問題ハ勞働方面ノ側ダケカラ考ヘルト云フ考ヘ方ダケデハ、是ハ現在ノ日本ノ經濟ノ實情ニ少クとも即シテハ居ラナイ、此ノ實情カラ判斷シテ行タ時ニハ、是ダケデ濟マシテ居レナイト云フコト、ソシテ今マデ伺ツタコトガ共ニ考慮サレテ行タト云フノデナケレバ、如何ニモ勞働政策ガ餘リ片斷ニ陥ルノダ、片斷ニナツテシマフノダ、其ノ片斷ノコトガ延ビテハ勞働組合運動ノ成功サヘモ阻害スルヤウナコトニナルノデハナイカト云フ虞カラ私伺ツタノデアリマスガ、色々御答辯ヲ戴キマシテ満足スルコトモアリ、満足セザル點モアリ、其ノ儘ノ狀態デ私ハ次ノ勞働協約ノ締結ノ基準ノ問題ニ入ツテ參リタイト思ヒマス

第一ニ勞働協約ノ締結スル場合ハドウ云フ基準ヲ持ツテナスベキカ、政府ハドウ云フコトヲ理想トシテ居ラレルカヲ伺ヒタイノデアリマスガ、時間モナイノデ私モ個々のニ御伺ヒヲ致シマ

ス、第一ハ最低賃金ノ統制令ハ多少訂正シテ存續ナサルト聞イテ居リマス、最高賃金ノ制定モナサルト伺ヒマスガ、此ノ公定賃金トノ關係ハドウ云フ風ニナリマスカ、勞働協約ガ公定賃金ト無關係ニ協定セラレテ宜イモノカドウカ、若シ左様ナ場合ニ於テ政府ハドウ云フ態度ヲ執ラレルノデアルカ、伺ツテ置キタイト思ヒマス

○高橋政府委員 村松委員ニ御答ヘ致シマス、公定賃金ノ範圍内デ容認サレルコトニナルト思ヒマス

○村松委員 若シ範圍外ノ場合ニアツテハ、ドウ云フ態度ヲ執ラレルノデアリマスカ、本法案ニ何カ規定ガゴザイマスカ

○高橋政府委員 本法案ニハ其ノ點ニ付テ何等規定ハゴザイマセウ、當然ノ解釋ト致シマシテ無効ニナルト考ヘマス

○村松委員 無効ト承知シテ宜シイノデスネ、モウ一ツハ物價政策ノ上カラ云ツテ、此ノ勞働協約ハ物價ヲ引上ゲルト云フコトガ極メテ明瞭ダト云フヤウナ場合ニハドウ云フコトニナルノデスカ、此ノ勞働協約定ラシタ、其ノ賃金ガ物價政策全體カラ見テドウシテモ物價ヲ引上ゲルノダ、引上ゲル效果ヲ持ツノダ、ソシテ一面ニ於テハ「インフレーション」對策ハドウシテモシナケレバナラヌト云フ場合ニ、國策トシテノ物價政策ト云フモノト相背馳スルヤウナ場合ニハドウ云フコトニナルカ

○高橋政府委員 國策ト反シテ非常ニ物價ヲ引上ゲルト云フ風ナ結果ヲ招來スルヤウナ場合ニ於テハ、此ノ三十二條ニ「勞働委員會ハ行政官廳ニ建議スルコトヲ得」ト云フ風ナ色々ノコトヲ決メテ居リマスガ、此ノ三十二條等ノ

活用ニ依ツテ善處致シタイト考ヘテ居リマス

○村松委員 現在私ガソレヲ御尋ネシタノハ、「インフレーション」ノ對策問題トシテ非常ニ重大ナ問題デアルト云フ見地カラデアリマス、モウ一ツハ現在私ハ物價ヲ引上ゲズシテ勞賃ノ値上ゲノ出來ルコトハナイト云フ考ヘ方ニアリノデアリマス、是ハモウ事實ノ問題デアリマスガ、現在ノ狀態ニ於テ少クとも時間當リノ生産量ノ増加ト云フモノハナイノデアル、事實モウ輸送ノ隘路、資材難、其ノ他色々ノ方面カラ見マシテ、時間當リノ生産量ノ増加ト云フモノハ、現在ノ企業ノ中ニハアリマセウ、隨テ若シ勞賃ノ引上ゲガ行ハレルトスルナラバ、是ハ必ズ其ノ産業ニ於テ造リ出シテ來ル製品ノ價格ヲ引上ゲルコトニ依ツテノミ引合フト云フヤウナ狀態デアル、其ノ事ガ進ンデ參リマス、全體ノ物價政策ニ非常ニ大キイ影響ガアル、此ノ點ハ現在「アメリカ」ニ於テ非常ニ問題ニナツテ居ル點デアツテ、而モ日本ニ於テハ何ト云ツテモ生活ヲスルノニハ、現在ノ賃金條給ヲ以テシテハヤリ切レナイ筈デア

ル、三倍ノ増額ヲ要求スルノモ正當カモ知レナイ、又一部デ要求シテ居ルヤウナ五倍ノ要求ト云フモノモ當然カモ知レナイ、サウシナケレバ生活ハ引合ハナイ、併シ生活ガ引合ハナイト云フノデ賃金ノ値上ゲガ許サレバ、是ハモウ必ズ物價ヲ引上ゲザルヲ得ナイト云フ狀態ニナツテ來ルノデアリマスカラ、サウ云フ意味ニ於テ若シ單ニ是ハ勞務關係ダケダト云ツテ、對内的ニ解決ヲ任シテ居ツタノデハ駄目ナンデ、モウ少シ物價政策ノ方カラ勞働協約ノ基準ナラ基準ト云フモノニ關シテ、モツト

明確ナル指示ガアツテモ宜ササウモト考ヘマス、現ニ「アメリカ」ニ於テノヤリ方ナンデスケレドモ、場合ニ依ツテハ物價ノ引上ゲテモ勞賃ノ引上ゲハ宜シ、但シソレハ三ツノ場合ニ限ルンデ、此ノ三ツノ場合ダケハ物價ノ引上ゲテモ許ス、其ノ他ノ場合ニ於テハ物價ノ引上ゲヲ惹起ス、或ハ其ノ産業内部ニ於テ價格ノ引上ゲヲ惹起スヤウナ勞賃ノ値上ゲハ絕對ニ許サナイ、是デコソ國ヲ果デテ「インフレ」對策、物價對策ヲ云フモト勞働協約ト云フモノガ「マツチ」シテ行クノデアリマス、ソレヲ基準ナシニ唯勞働協約ハ自主的ダト云フダケデアリマシテハ、「アメリカ」デモ心配シテ居ルヤウナ一ツノ産業與盛ニ對シテ、大キナ妨害ヲナス場合モアル、斯様ニ點ニ關シマシテハ此ノ勞働法規ノ中ニ具體的ニ規定ハ出來スマイケレドモ、運用ニ當ツテハ只今ノ三十二條結構セウ、一ツ餘程見透シヲ立テテ運轉ヲナサザナイト、大キナ失敗ヲ齎シテ來ルコト云フコトヲ私憂慮シテ御聽キシタノデアリマス

ソレカラ勞働協約ノ締結ノ基準ニ關シマシテ、モウ一ツ點キタイコトガアリマス、ソレハ個々ノ事業經營ガ成立タナイヤウナ資金ノ契約ヲシタ場合ニ、是ハ放任ナシマス、ソレトモ又今ノ三十二條デ之ヲ無効トナサルノデアリマス、或ハ當然無効デナクテモ、之ヲ訂正スルコトヲ要求スルコト云フヤウナ處置ニ出ラレルノデアリマスカ、之ヲ同ツテ置キタイ

○高橋政府委員 個々ノ工場ニ於テ勞働者側カラ資金ノ要求スル、ソレヲ容レバ其ノ産業ガ潰滅ニ瀕スルコト云フヤウナ無理ナ要求ヲナルコト云フ場合ヲ想像致シマス、其ノ場合ニ於キマ

テハ使用者ノ方カラ勞働委員會ニ申シ出テ調停ヲ依頼シテ、合理的ナ決定ニ基イテ其ノ問題ヲ解決シテ行クト云フ風ニ指導シテ行キタイ、斯ウ云フ風ニ存ジテ居リマス

○村松委員 勞務者ニ生活ヲ維持スルダケノ勞賃ヲ絕對ニ與ヘナケレバナラヌコトハ言フマデモナイノデアリマスカ、サウ云フコトト對照シ、ソレナラバ産業ノ適正利潤ト云フヤウナモノ付テ御考ヘニナツテ居ラレマス、如何デアリマセウカ

○青田國務大臣 産業ノ適正利潤ヲドノ點ニ置クカト云フ御質問デアリマシタ、是ハ經濟政策ノ根本ヲナス問題デアリマス、其ノ點ハ例ヘバ銀行ノ預金、或ハ公債ノ利率、其ノ他諸種ノ産業ト相關聯シテ考ヘラルベキ問題デアリマシテ、單ニ工場ノ勞務關係其ノ他ノ問題ニ關聯シテノミ決定スルコトハ非常ニ困難デアルト思ヒマス、サウ云フ問題ハ關係各方面ト十分協議ヲ遂ゲタ上デ、此ノ三十二條ノ適用アル場合ニ適當ナ措置ヲ執リタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○村松委員 サウナツテ來マス三十條ト云フノハ、非常ニ有力ト申シマセウカ、凡ニル場合ニ適用セラレルノデアリマス、此ノ適用ノ範圍ハ只今マデノ御説明ニ依ルト、私共ノ豫想外ノ實ニ廣範圍且ツ有力ナモノトナリナゲアリマスガ、何カ是デケデハ足リナイモノガアル、或ハコンナモノガ無暗ニ發動サレテハ大變ダト云フヤウナ場合モアルノデアリマス、此ノ點ハ一ツ將來ノ運用ノ面ニ當テレ方キガ、本當ニ事理ニ透徹シテ運用ノ方針ヲ堅持セラレシコトヲ希望致スノデアリマス、ソレカラ問題ハ別ニナリマス

ガ、此ノ組合法案ニハ農村ニ於ケル小作人組合ヲ包含セラレマス、カ

○青田國務大臣 小作人組合ハ勞働組合法ノ中ニ包含シテ居リマセヌ

○村松委員 農業及ビ水産業ノ勞働者ハドウデアリマセウカ

○高橋政府委員 本法ノ第三條ノ定義ニ「賃金、給料其ノ他之ニ準ズル收入ニ依リ生活スル者」ト出テ居リマス、農業、水産業ニ従事スル者ノ中、只今御質問ノアリマシタ日本ノ小作人ハ此ノ範圍ニ入ラヌト思ヒマス、只今大臣カラ御答辯ノアツタ通りデアリマスカ、併シナガラ作男ト云フヤウナ賃金、給料ニ依ツテ生活スルコト云フ形態ノ農業ノ勞働者ハ入ルコトニナリマス、又右ニ準ズルヤウナ水産業ニ従フ勞働者モ入ルコト思ヒマス

○村松委員 水産業ノ勞働者ガ入ツテ小作人カ入ラナイノハドウ云フ事情ニ依ルノデアリマセウカ

○青田國務大臣 御承知ノ通り本法ニ於テ勞働者ト謂フ中ノ主ナルモノハ、雇傭關係ニ立ツテ居ル者ガ多ク、ノデアリマシテ、小作人ハ雇傭關係トハ見ナイノデアリマス、隨ツテ工場其ノ他ノ一定ノ場所ニ於テ勞力ヲ賣ルト云ヒマスカ、サウ云フ立場ニ居ル者ト、小作人ノ立場トハ、其ノ形態ヲ異ニシテ居ルヤウニ考ヘラレマス、小作人ハ本法ノ勞働組合ノ中ニハ含ンデ居ナイ、斯様ニ解釋シテ居ル點デゴザイマス

○村松委員 法律的ニ雇傭アルトカ賃借アルトカ云フコトハ、是ハ區別ガアルト思ヒマス、賃借ハ、是ハ一定ノ場所ニ於テ、或ハ一定ノ經濟關係ニ於テ、結局勞働ヲ賣ツテ行クト云フ形ニナツテ居ルコトハ、モウ小作人ハ間接ヒナイノデアリマス、雇傭關係デ

ナクシテ或ハ奴隸關係カモ知レマセヌ、ソコマデ言ハレテ居ルノデアリマシテ、是ハ共ニ保護シテ差支ヘナイノデヤナイカト云フ風ニ考ヘラレル、同ジ經濟的ノ基礎ニ立チ、同ジ經濟的ノ條件ニ立ツテ居ル、法律的ニハ雇傭ト賃借トハ違フト云ヘバソレマデデアリマスガ、サウ云フコトニコダハラズニ、第三條ノ「其ノ他之ニ準ズル收入」ト云ツタヤウナ所ニ包含セシメテ之ヲ解釋セラレテハドウデゴザイマセウカ

○青田國務大臣 村松君ノ御説ニモ無論ソレ、理由ハアルト思ヒマス、併シ又一步他ノ觀點カラ見レバ、大體小作人ノ收入ト云フモノハ、年ノ要因其ノ他ニ依ツテ小作ノ收穫ガ皆無アル時ニハ、無論之ニ對シテ小作料ヲ納付スル必要モナシ、又作柄ノ當否ニ依ツテ、ソレノ收穫ニ準ジテ報酬ヲ受取ルコトエナツテ居ルノデアリマスカ、サウ云フ點カラ見マシテモ、工場勞働者トハ著シク異ツテ居ルヤウニ思ヒマス、又地主ト小作ノ關係ハ數百年ニ亘ツテ續イテ居ルモノモアリ、其ノ他地域のノ團結精神其ノ他ニ於テモ、小作トカ自作トカ地主ト云フ精神ヲ離レテ、地方的ニ一貫シテ團結精神ヲ保持扶助ノ精神モアルト云フヤウナコトヲ考ヘテ見マス、工場勞働者ト地方ノ農村トノ間ニハ、餘程生活條件ヲ異ニシテ居ル點モアリマス、此ノ勞働組合法ニ依ツテ直グ其ノ農小作人ノ今日ノ境涯ニ適當デアルカドウカト云フコトモ、餘程考ヘル餘地ガアルト思ヒマス、斯様ニ私共考ヘテ居リマス

○村松委員 只今ノ御説明ハ私満足出來マセヌ、唯議論ハ致シタデアリマセウカ、此ノ程度ニ致シマスガ、ソレハ大臣非常ニ御考ヘ連ビデヤナイカト思

ヒマス、先程來ノ工場勞働者ニ對スル御説明、サウシテ勞働組合法案ノ精神ト、只今御説明ノ小作人ニ對スル場合ハコロツト變ジテ居ル、サウ云フ考ヘ方デハ先程ノ説明ガ本當デアツタノカ、或ハ今度ノ小作人組合ヲ認メザル理由ガ本當デアルノカ、何カ知其處ニビツタリシナイモノヲ私共感ジマスガ、是レ以上ニハ追究致シマセヌ、要スルニ私共本法案ヲ作リ放シテ、自主的ノ名ニ於テ之ヲ突ツ放サレテ行カレ

ルノデハ實效ハ舉ラナイ、一ツ勞働問題ト云フモノヲモツト廣イ見地カラ御考ヘニナリ、廣イ見地カラ政策スルコトニ依ツテノミ是ガ生キテ來ルノデアリマスカラシテ、サウ云フ意味ニ於テハサウ云フ視野ニ於テ、サウ云フ考ヘ方ニ於テ今後ノ運轉ヲ一ツ是非ヤツテ戴キタイト云フ見地カラ、サウシテ私ノ立場ハ消費者ノ立場ニ於テ、之ヲ希望スル意味ニ於テ御質疑申上ゲタ次第デアリマス、ドウカ一ツ日本再建ノ方式ヲバ、廣イ視野ニ於テ進メテ戴キタイト云フコトヲ希望致シマシテ、私ノ質疑ヲ是デ終リマス

○山崎(常)委員 委員長、議事進行ニ關シテ……思ヒマスノニ本勞働組合法ハ本議會ノ三大法案ノ最モ大切ナ一ツデアリマス、私共ハ本法案ノ特別委員トセラレタコトヲ無上ノ光榮トシテ居ル者デアリマス、同時ニ此ノ法案ガ我が國ノ勞働問題ヲ解決スルノニ、歴史ノ使命ヲ持ツタ大法案デアルコトハ申上ゲルマデモナイコトデアリマス、ノニ拘ラズ本委員會開會以來ノ特別委員ノ出席ハ、實ニ不成績デアルト云フコトヲ委員長モ御認メノコトデア

ルト思ヒマス、願ハクハ此ノ法案ヲ慎重審議スル上ニ於キマシテ、委員長並

ニ理事ノ諸君ガ、本委員會ノ特別委員ヲ極力出席スベク御努力ヲ賜ハリタイ、斯様ニ思ヒマス、是ハ議事ノ進行上、又本案ヲ重大法案トシテ取扱ヒ、進行スル上ニ於テ、非常ニ重大ナ問題ダト思ヒマス、致テ之ヲ委員長ニ御忠告申上ゲル次第アリマス

○添田委員長 一寸山崎君ニ御答ヘシマスガ、御同感デス、實ハ昨日以來其ノコトニ付テハ私モ非常ニ憂慮シマシテ、出來得ル限り手ヲ盡シテ居ルノデアリマスガ、尙ホ皆サンカラモ一ツ御協力願フテ、此ノ委員ノ人ニ成ベク定刻ヨリ出席スルヤウニ御勸メシテ戴キタイ、私共モ極力其ノ方面ニハ努メル積リデスガ、是ハ皆サント御一緒ニ願ヒタイト思フテ居リマスカラ、一ツ宜シク御願ヒ致シマス——是デ休憩ヲ致シマシテ、午後一時カラ開會スルコトニ致シマス

午前十一時五十三分休會

午後一時二十九分開議

○添田委員長 開會致シマス——正本君

○正木委員 我ハ質問ニ入ルニ先ダツテ、此ノ法案ニ對スル社會黨トシテノ立場、並ニ委員トシテノ私ノ立場ヲ明カニシタイト思フノデアリマス、結論カラ申上ゲマス、社會黨並ニ委員トシテノ私ハ、此ノ法案ヲ全面的ニ賛成シ支持スル者デアリマス、其ノ由ツテ來ル原因ハ、我が國ガ完全ニ融解ニ敗北致シマシタ、而シテ我が國ハ「ボツダム」宣言ヲ受諾致シタノデアリマス、此ノ「ボツダム」宣言ヲ受諾致シマシタ利那ニ於テ、我が日本國ト云フモノノ内部ニ於ケル政治經濟ノ面ニハ、大キナ一大變革ガ實サレタノデアリマス、

極端ニ申上ゲマスルナラバ、一大革命ガ來テ居ルノデアリマス、隨テ此ノ大キナ變革期ニ於テ、從來日本ノ政治經濟ヲ支配シテ居リマシタ極少數ノ封建的ナ思想ト、封建的ナ基礎ノ上ニ立ツタ人々ガ、好ムト好マザルトニ拘ラズ、「ボツダム」宣言ノ條項ノ中ニ明カニ示サレテアリマスルヤウニ、政治上ニ於ケル所ノ民主主義ノ徹底化、經濟上ニ於ケル所ノ産業ノ民主主義ノ徹底化ガ行ハサレル運命ニ置カレテ居ルノデアリマス、隨テ現内閣ノ性格思想ガドノヤウナモノデアラウトモ、他動的ナ力ニ依ツテ今議會ニ政治經濟ニ於ケル民主主義ノ徹底化ノ爲ニ出サレタノガ、本法案デアリ、農地調整法案デアリ、或ハ選舉法ノ改正案デアルト斯ウ規定致シテ居リマス、ソコデ經濟民主主義化ノ爲ニ出サレマシタ勞働組合法案ノ意圖スル所ハ、今日ノ段階ニ於テ我が國ヲ救ヒ、我が民族ヲ救フ爲ニ果スベキ産業ノ面ニ於ケル勞働者ノ、國家的ナ、社會的ナ、政治的ナ地位ト云フモノヲ一ツノ法ノ中ニ現ハシ、而モ其ノ勞働者ソレ自體ノ日本ノ社會の經濟上ニ於ケル役割ヲ此ノ法ノ上ニ於テ明記サレテアル譯デアリマス、斯カル觀點ニ立ツテ我ガ黨並ニ私ハ此ノ法案ヲ絕對賛成シ支持シタイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、併シナガラ此ノ勞働組合法ソレ自體ヲ考ヘタ場合ニ於テハ、問題ハ或ル一定ノモノニ極限サレノデアリマス、只今私ガ申上ゲタ經濟上ニ於ケル民主主義ノ徹底化、政治上ニ於ケル民主主義ノ徹底化ヲ具現スル爲ニハ、私ハ委員長ニモ要求致シテアリマシタヤウニ、總理大臣ノ御出席モ願ハナケレバナライシ、商工大臣ノ御出席モ願ハナケレバナライシ、大藏大臣ノ御出席モ願ハナケレバナライシ、コトニナル譯デアリマス、ソコデ厚生省ニ關スル限リニ於キマシテハ、只今厚生大臣ガ御出席ニナツテ居リマセヌデ、私ハ御出席ニナツテ居ル政府委員トノ間ニ質疑ヲ重ネテ見タイ、斯ウ思フノデアリマス、ソコデ勞働組合法ノ各條項ニ付テ質疑ヲ重ネテ參リマス、第四條第一ツ御伺ヒテ致シマス、第四條ニ於テハ、組合ヲ結成シ、又ハ組合ニ加入出來ザル所ノ官吏ヲ明カニ規定サレテアリマス、其ノ他ノ官吏ニ付キマシテハ、勞働組合ノ結成並ニ加入ヲ認メテ居ルノデアリマス、此ノ「官吏、待遇官更及公吏其ノ他國又ハ公共團體ニ使用セラル、者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得」此ノ「別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得」ト云フコトニ付テハ、恐ラク勅令ヲ出サレルト思フノデアリマス、其ノ具體的內容如何、是非非常ニ全國ノ官吏ノ諸君ガ多大ノ注意ヲ拂フテ居ル所デアリマス、隨テ其ノ具體的內容ニ付テ御發表ヲ願ヒタイト存ジマス

○高橋政府委員 正木委員ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、第四條第二項ノ「別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得」此ノ規定ノ內容ニ付テ御説明申上ゲタイト思ヒマス、本命令ノ內容ハ未ダ確定シテ居ラナイ譯デアリマス、何レ閣議決定ヲ經、其ノ他ノ手續ヲ經テ決定ニナルト思ヒマスガ、一應今事務當局デ考ヘテ居ル所ヲ申上ゲタイト存ジマス、第一ハ爭議行為ノ關係デゴザイマス、爭議行為ノ關係ニ付テハ二點デカハ規定致シタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、其ノ內容ヲ申上ゲマス、勞働組合ノ組合員タル官吏、公吏、其ノ他國又ハ公共團體ニ使用セラル、者ハ、調停又ハ仲裁ニ付シ、而モ調停又ハ仲裁ガ出來ナイ場合ノ外ハ爭議行為ガ出來ナイト云フコトヲ第一ニ規定致シタイト存ジマス、第二ノ點ハ、前申シマシタモノガ爭議行為ヲナシ、又ハナサントスルルアル場合ニハ、行政官廳ハ之ニ對シテ必要ヲ認メタル場合ニ於テハ、中止命令其ノ他必要ナル命令ヲ發シ得ルト云フコトヲ規定致シタイト存ジテ居リマス、ソレカラ第三ニハ前項ノモノニ對シテ、政治運動ニ付テハ勞働委員會ノ決議ニ依ツテ行政官廳ニ於テ禁止ハ制限スルコトガ出來ルト云フハ少クモ決メタル必要ガアルノデアリマス、爾餘ノ點ニ付キマシテハ、勞働組合運動ヲ助成促進スルト云フ趣旨ヲ重シツ、モ、尙且ツ官吏其ノ他國公共團體ニ使用セラル、者ノ本質ヲ考ヘテ、制限ヲ置ク必要ガアレバ置イテ行キタイト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○正木委員 次ハ十三條デアリマス、「福利事業ノ爲メ特設シタル基金ヲ他ノ目的ノ爲メニ流用セントスルキハ總會ノ決議ヲ經ベシ」ト斯ウ規定シテアリマス、是ハ全國ノ勸勞階級ガ非常ニ聽カント欲シテ居リマス、一點デアリマス、特ニ私御伺ヒスルノデアリマスガ、他ノ目的ニ流用スルト云フコトガ、總會ノ決議ニ依ツテ意思ガ決定サレタ場合ニハ、流用出來ルノデアリマス、其ノ場合ニ於ケル流用ノ目的ガ、爭議ノ基金又ハ政治資金ニ流用スルト云フ決議ヲナシテモ差支ヘナイカドウカ、勸勞階級ハサウ考ヘテ居ルガ、其ノ考ヘ方デ宜イノカドウカ、其ノ點ヲ先ツ御伺ヒシマス

○高橋政府委員 正木委員ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、第十三條ノ「福利事業ノ爲メ特設シタル基金」ヲ、爭議基金若シクハ政治資金ニ總會ノ決議ヲ經テ流用出來ルカト云フ御質問デゴザイマスガ、本法ノ規定スル所ハ、出來ルト云フ風ニ解釋シテ居リマス、併シナガラ第一條並ニ第二條ノ制限ノアルコトヲ御承知置キテ願ヒタイト思ヒマス

○正木委員 次ハ第十五條デアリマス「勞働組合法令ニ違反シ安寧秩序ヲ紊リタルトキハ勞働委員會ノ申立ニ依リ裁判所ハ勞働組合ノ解散ヲ爲スコトヲ得」ト、斯ウ規定サレテ居ルノデアリマスガ、私二十五年間ノ勞働運動ヲ通ジテ感ズル事柄ハ、此ノ安寧秩序ナルモノノ定義デアリマス、此ノ安寧秩序ナルモノハ思想的ニ一ツニ私ハ解釋出來ルト思ヒマス、封建的ナ反動的ナ思想ニ立ツタ少數ノ支配者の思想カラ見タ安寧秩序及ヒ勸勞階級的ナ解放戰線ニ立ツテ居ル所カラ見タ安寧秩序、私ハ此ノ二ツノ大キナ違ヒガアルノデハナカラウカト考ヘマスガ、當局ガ考ヘテ居ラレマス安寧秩序トハ如何ナルモノデアルカ、簡單ニ申上ゲマスルナラバ、安寧秩序ニ對スル定義ノ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○高橋政府委員 正木委員ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、安寧秩序ト申シマスノハ、公共ノ安全、經濟、社會、國家ノ正常ナル秩序ノ意味デアリマシテ、廣ク人心ヲ惑亂致シ、混亂ニ陥レルコトガ即チ之ヲ紊スト云フ意味ニ解釋致シテ居リマス、サウシテ只今御質問ノ官ガ推察ニ之ヲ解釋スル風ナコトハ致サズ、公正ナ見地ニ於テ致シタイト思フテ居リマス、而モ是モ最後ノ認定權

ハ裁判所ニアリ、而モ其ノ前提トシテ
勞働委員會ノ申立テガアルト云フ慎重
ナ手續ガアリマス、此ノ手續ニ依
リマシテモ最後ノ結論ハ非常ニ公正ナ
モノニナル、斯ウ云フヤウニ思フテ居
リマス

○正木委員 重ネテ御伺ヒ致シマス
ガ、私ハ具體的ノ事例ヲ取ツテ申上ゲタ
方宜シト思フ、例ヘバ國鐵以外ノ
東京都内及ビ其ノ近郊ノ郊外電車ノ全
體業員ガ、總「ストライキ」ヲ行ツタ
時、ドウ云フ風ナ處置ヲ御執リニナル
カ、又ハ或ル一定地區ノ鐵道業員ガ、
從業員ノ要求ノ不當ナリトシテ勞働委
員會ガ之ヲ否決シテ勞働爭議ヲ斷行シ
タ場合ニ、此ノ安寧秩序ナルモノハド
ウ云フ形デ其ノ行動ノ上ニ表現シテ來
ルノカ、之ヲ具體的ニ承ツタ方宜シ
イト思ヒマスガ、如何デアリマスカ
○齋田國務大臣 御答ヘ致シマス、今
例ヲ御事ニ付キマシテハ、特ニ爭議調
停法ノ爭議ニ付キマシテハ、特ニ爭議調
停法ナルモノヲ、現行ノモノヲ改メテ、
一層完備スル期シタモノトシテ近ク提案
スルコトニナツテ居リマスガ、其ノ中
ニ勞働爭議ノ事前調停ヲ制度化スル
共ニ、強制調停ノ範圍ヲ今ヨリモ擴大
ニ擴大致シタイト思フテ居リマス、更
ニ爭議行為ノ禁止、又ハ中止命令ヲモ
出シ得ルヤウニ考案ヲ致シタイ、斯等
ニ考ヘテ居リマス、併シナガラ只今ノ
立法ニ於テハ、此ノ爭議調停機關ガ即
刻ニ發動スルヤウナコトハ出來マセヌ
カラ、其ノ立法ガ出來ヌマデハ一定
ノ期間ヲ待タナケレバナラヌカト思ヒ
マス、總體業員ノ時ニドウスルカト云
フノ御質問ニ對シテハ、東京都其ノ他
ノ交通機關ヲ掌握シテ居ル方面ニ於テ
ハ、或ハ臨時ニ市內カラ有志者ヲ募ツ

テ、交通機關ヲ運轉シナケレバナラヌ
ヤウニ必要モ起ルカト思ヒマスガ、ソ
レハ別ニ今政府ガ計畫的ニ考ヘテ居ル
コトデアリマス、其ノ緊急ノ場合
ニ應ジテ、サウ云フ風ナ對策モ執リ得
ルト云フ理論ヲ申上ゲル程度ノコトデ
アリマス

○正木委員 此ノ第十五條ニ依ツテ政
府ノ意圖致シテ居リマス爭議調停法ノ
改正案ノ骨子ナルモノノ全貌ガ私ニハ
分ツタノデアリマス、一方ニ勞働組合
法ヲ作ツテ、勞働者ノ自由ノ集團結
業ヲ認メ、サウシテ國家ト民族ノ
福祉ノ爲ニ果スベキ大キナ使命ヲ規定
シテ置キナガラ、爭議調停法ノ改正案
ノ中ニ、今厚生大臣ガ申サレタヤウナ
コトガ具體的ニ現ハレルスルナラ
バ、是ハ全國ノ勞働者階級ニ取ツテハ
大キナ關心事デナケレバナラナイノデ
アリマスガ、其ノ法案ガ出マシタ時ニ
私ハ質問ヲ致スコトニ致シマシテ、其
ノ次ノ質問ニ移リタイト思フノデアリ
マス、第四章ノ勞働委員會ノコトデア
リマスガ、簡單ニ御伺ヒ致シマス、此
ノ第二十六條ノ目的ハ、使用者ヲ代表
スル者、或ハ勞働者ヲ代表スル者、或
ハ使用者、及ビ勞働者ノ同意ヲ得テ行
政官廳ガ委嘱スベキモノ、此ノ三ツニ
分レテ居リマス、ソコデ此ノ法ノ非常
ニ進歩的ナル點ハ、使用者團體ヲ推選
ケタ者、勞働團體ヲ推選ケタ受ケタ者、
又ハ勞資ノ同意ヲ得タ者ヲ行政官廳ガ
推選スルコト云フ建前ニ、ナツテ居リ
マス、洵ニ結構デアリタイト思フノデア
リマス、ソコデ一ツ私希望ガアルノデ
アリマス、要スルニ使用者團體ヲ推選
ニ蓋シテ出來マス委員ノ場合ニ於キマ
シテ、此ノ立法ノ建前、動勞階級ノ今
ノ民族更生ノ爲ニ果サナケレバナラナ

イ社會的、經濟的ナ重大ナ使命ニ鑑ミ
ズ、使用者團體ガ從來ノ觀念ニ立脚シ
タ反動的ナ考ヘ方カラ、若シ代表ヲ推
選シテ來ルヤウナ場合ガアツタ、假定
致シタ場合ニ於テハ、此ノ勞働委員會
ノ運用ト云フモノニ大キナ困難ヲ科
ルコトハ出來ナイノデアリ、委員會
ガ自體ニ大キナ感情論、階級的ナ對立
ガ惹起サレル虞アル、私ハ斯ウ考ヘ
マス、此ノ點ニ付テハ此ノ委員會ノ運
用ニ當リテ、篤ト厚生大臣ニ御答ヘ置
キテ願ヒタイ、斯ウ云フ希望ヲ申上
ゲタイノデアリマス

○高橋政府委員 御答ヘ致シマス、第
一點ノ御希望ニ付キマシテ、行政官廳
ノ自由裁量ノ許サレル範圍ニ於キマシ
テ、此ノ勞働委員會ヲ適正ニ、而モ圓
滑ニ運用シ得ルヤウナ規定ヲ委嘱スル

ヤウニ致シタイト思ヒマス、第二點ノ
問題デゴザイマスガ、私ノ想像スル範
圍ハ、此ノ委嘱ハ勞働者ヲ代表スルモ
ノハ、勞働組合ノ推選ニ基イテアルノ
デアリ、又使用者ヲ代表スルモノハ、
使用者團體ノ推選ニ基イテアルノデア
リマスカラ、サウ云フ御質問ノヤウナ
場合ハ起リ得ナイノデアリ、斯ウ
云フ風ニ考ヘテ居リマス、言葉ヲ換ヘ
テ言ヒマス、勞働者、勞働組合、若
シクハ使用者團體ノ意思ニ反シテ委
嘱スルコト云フ風ナコトハ一寸アリ得
ナイ、斯ウ云フ風ニ思ヒマス

○添田委員長 一寸途中デスガ、理事
ノ喜多壯一郎君ガ本日委員ヲ辭任セラ
レマシタノデ、其ノ補闕トシテ永山忠
則君ガ委員ニ選定セラレマシタ、就テ
ハ理事ノ補闕選舉ヲ行ハナケレバナラ
ヌ譯デアリマスガ、先例ニ依ツテ委員
長ヨリ指名スルコトニ致シタイト思ヒ
マス、御異議ハアリマセズセウカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○添田委員長 御異議ナシト認メマ
ス、ソレデハ永山忠則君ヲ理事ニ御願
ヒテ致シマス、正木君

○正木委員 私人質問ノ點ハ、私ノ申
上ゲ方ガ惡カクカト思フノデアリマス
ガ、私ハ第三者ノ推選ノ問題ニ觸レタ
ノデアリマス、勞働團體ガ承認シタ場
合デモ、使用者團體側ガ之ヲ拒否シタ
場合ニハドウナルノカ、逆ニ使用者側ガ
推選シタモノヲ勞働者團體ガ拒否シタ
場合ノ御取扱ヒヲドウスルノカ、此ノ
點ヲ御伺ヒシタイノデアリマス

○高橋政府委員 私人陳述ヒデ失禮致
シマシタ、御尋ネノヤウナ場合ニ於キ
マシテハ、本文ニ示シテアリマスヤウ
ニ、雙方ニ同意ヲ得タルコトニナツ
テ居リマスノデ、中々第三者ヲ委嘱スル

ルト云フコトガ出來ナイダラウト思ヒ
マス、併シナガラソレハ誠意ヲ持ツテ、
行政官廳ハ兩方ノ同意ヲ得ルヤウナ着
手凡ユル手段、方法ヲ講ジテ得ルヤウ
ニ努力致シタイト思ヒマス、サウシテ
尙且ドウシテモ同意ヲ得ラナイ、而
モ一方勞働爭議ハ類型シテ來テ居リマ
シテ、勞働委員會ノ構成ヲ臨時モ忽セ
ニ出來ナイト云フ場合ニハ、前段申上
ゲマシタ誠意手段ヲ盡シタ後、行政
官廳ノ公正ナル判斷ニ基イテ、之ヲ委
嘱スベキモノト考ヘテ居リマス

○正木委員 私人考ヘハ、第三項ニ中
央勞働委員會及地方勞働委員會トス
トアリマシテ、特別ノ必要アル時ハ一
定地區、又ハ事項ニ付キ、特別ナ勞働
委員會ヲ設ケルコトヲ得ル、斯ウ規定
サレテ居ルノデアリマス、之ニ付テモ
全國ノ勞働階級ハ、多大ナ關心ヲ持ツ
テ居ル譯デアリマス、例ヘバ地區ノ非
常ニ廣イ北海道アルトカ、其ノ他ノ
地區ニ於テハ、現在モ一ツノ勞働委員
會トシテハ、恐ラク勞働委員會ソレ自
體ガ、私ハ完全ニ其ノ機能ヲ發揮出來
ナイノデアリカト云フ心配ヲ持ツテ
居リマス、ソコデ特別ノ必要アル時ハ
一定ノ地區ト云フヤウニ規定サレテア
リマスガ、之ニ付テ當局ハ深ク具體
的ニ何カ御考ヘニナツタコトガアルノ
カドウカ、此ノ點ヲ明カニシテ置ヒタ
イト思ヒマス

○高橋政府委員 特別ノ必要アル時ハ
一定ノ地域、斯ウ云フ風ニ非常ニ融通
無礙ノ點キ方ヲシテ居ルノデアリマ
ス、隨ヒマシテ一應ハ動員署ノ地區ト
云フモノヲ一定ノ地區ト考ヘテ居リマ
スガ、其ノ邊ハ融通無礙ニ、必要アル
時ハ、只今御尋ニナリマシタヤウニ、
北海道ハ非常ニ廣イノデアリマスカ

○高橋政府委員 特別ノ必要アル時ハ
一定ノ地域、斯ウ云フ風ニ非常ニ融通
無礙ノ點キ方ヲシテ居ルノデアリマ
ス、隨ヒマシテ一應ハ動員署ノ地區ト
云フモノヲ一定ノ地區ト考ヘテ居リマ
スガ、其ノ邊ハ融通無礙ニ、必要アル
時ハ、只今御尋ニナリマシタヤウニ、
北海道ハ非常ニ廣イノデアリマスカ

○高橋政府委員 特別ノ必要アル時ハ
一定ノ地域、斯ウ云フ風ニ非常ニ融通
無礙ノ點キ方ヲシテ居ルノデアリマ
ス、隨ヒマシテ一應ハ動員署ノ地區ト
云フモノヲ一定ノ地區ト考ヘテ居リマ
スガ、其ノ邊ハ融通無礙ニ、必要アル
時ハ、只今御尋ニナリマシタヤウニ、
北海道ハ非常ニ廣イノデアリマスカ

○高橋政府委員 特別ノ必要アル時ハ
一定ノ地域、斯ウ云フ風ニ非常ニ融通
無礙ノ點キ方ヲシテ居ルノデアリマ
ス、隨ヒマシテ一應ハ動員署ノ地區ト
云フモノヲ一定ノ地區ト考ヘテ居リマ
スガ、其ノ邊ハ融通無礙ニ、必要アル
時ハ、只今御尋ニナリマシタヤウニ、
北海道ハ非常ニ廣イノデアリマスカ

○高橋政府委員 特別ノ必要アル時ハ
一定ノ地域、斯ウ云フ風ニ非常ニ融通
無礙ノ點キ方ヲシテ居ルノデアリマ
ス、隨ヒマシテ一應ハ動員署ノ地區ト
云フモノヲ一定ノ地區ト考ヘテ居リマ
スガ、其ノ邊ハ融通無礙ニ、必要アル
時ハ、只今御尋ニナリマシタヤウニ、
北海道ハ非常ニ廣イノデアリマスカ

ヲ、其ノ北海道ノ下ニアル勞務トノ間ニ或ル地域ヲ限ツテ、更ニ中間的ニ考ヘルト云フコトモ考ヘテ居リマス、其ノ他其ノ邊ハ必要ニ應ジテ融通無礙ニヤツテ参リタイト考ヘテ居リマス

○正木委員 此ノ委員會ガ圖説ノ誤謬サレバカサレナイカト云フコトハ、此ノ勞務組合法ノ生死ニ係ルコトデアリマスガ、此ノ委員會ノ非常ニ重要ナコトハ、第二十七條デアラウカト私ハ考ヘテ居ルデアリマス、此ノ第二十七條ノ各條項ヲ見マス、勞務委員會ノ持所ノ權限ト云フモノハ非常ニ大キイデアリマス、而モ其ノ委員會ガ權限ヲ完全ニ果シ、其ノナサナケレバナライニ至ラズ、非常ニ多イデアリマス、例ヘバ勞務爭議ニ關スル統計ノ作成、或ハ勞務爭議ノ調査、四時交渉ノ斡旋、其ノ他勞務爭議ノ豫防、勞務爭議ノ調停及ビ仲裁等々デアリマスガ、ソコデ私ノ御伺ヒシタイコトハ、現實ハ全國ニ勞務爭議ガ、今後ハ非常ニ多ク出テ來ルト思フデアリマスガ、ソレガ爲ニハ勞務爭議ノ適正ナ調停及ビ勞務事情ノ調査機關ト云フコトガ必要ニナツテ來ルコトハ、是ハ議論ノ餘地ガナカラウト思フデアリマス、唯私ガ政府ニ御伺ヒシタイコトハ、ソノヤウナ機關ヲ御作リナル考ヘテ持ツテ居ラレバ、又其ノ機關ノ中デ働タ人々ハドウ云フヲ以テ構成スルト云フヤウニ考ヘテ居ラレバ、此ノ點ヲ御伺ヒテシマス

○高橋政府委員 第二十七條ニ付キマシテ勞務委員會ノ大イナル權限ノ行使ヲ適正ナラシメシガ爲ニ、委員會ニ調査機關ノ他ノ事務局ヲ設クルノ必要ト、如何ナル人ヲ以テ構成スルヤトノ御質問デゴザイマスガ、中央勞務委員

會ノ下ニ相當組織キ、而モ附テ組織サレタ事務局ヲ設置スベシト云フ風ナコトガ、勞務法ニ規定委員會ノ答申ニモアルコトハ御承知ノ通りデゴザイマス、旁々少クモ中央勞務委員會ノ事務局——其ノ中デ調査モ致ス譯デアリマスガ、相當有力ナ諸君ノ良イ事務局ヲ置キタイと思ツテ居リマス、出來レバ地方ノ勞務委員會モ之ニ準ズル者ヲ置キタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、其ノ具體的ノ内容ハ未ダ的確ナラザル點ガアリマス、此處デハ説明ヲ差控ヘタイト思ヒマス、第二點ノ如何ナル人ヲ以テ構成スルカト云フ問題デスガ、是ハ出來ルダケ勞務關係ニ知識經驗ヲ持ツテ居リ、而モ有能ナル人ヲ以テ構成シタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘル次第デアリマス

○正木委員 一應ハ明カニナツタノデアリマス、私或ハ大變ニ心配シ過ギルト思ハレバカモ知レマセウガ、此ノ機關ヲ構成スル人々ハ、此ノ機關ノ中デ熱意ヲ以テ働タ人々デナケレバナライコトハ、議論ノ餘地ガアリマセウ、唯從來政府ノ執リ來シタ總テノ事柄ヲ見テ居リマス、極端カハ知レマセウガ、協調會ノナ、而モ厚生省ノ出店ノナニ依ツテ若シ此ノ機關ガ確立サレタトスルナラバ、ソレハ私ハ科學ニ立脚シタ冷徹ナ勞務事情ノ調査ガ出來ナイノデハナイカト云フ心配ヲ持ツテ居ルノデアリマス、隨テ私ハ重ネテ聽キタイコトハ從來執リ來シタ政府ノヤウナコトデハナク、飽クマデ民間人ヲ主體トシ、資本家側モ勞務者側モ納得シ得ルヤウナ人物ノ配置ヲナスベキデアル、斯ウ考ヘルガ、此ノ點ニ對スル御答辭ヲ大臣カラ願ツテ置イタガハツキリスルノデハナイカト思ヒマ

スルノデ、大臣カラ御答辭ヲ願ヒタイト思ヒマス

○青木國務大臣 只今正木君ノ御述べニナリマス、點ハ私モ全然同意デアリマス、長イ間世間ヲ渡人ワシテ、暫ク振リニ役人ニナツテ見テ一應其ノ感ヲ深クスルノデアリマシテ、私ノ御約束ナシ得ル點ハ精々御話ノヤウナ方針デ此ノ機關ニ適材ヲ活動サセルヤウニ致シタイト云フコトデアリマス

○正木委員 私が是カラ質問致シマス點ハ、大臣カラ御答辭ヲ願ヒタイト思フデアリマス、先ヅ第一ニ御伺ヒ致シマス點ハ、法ノ第二十三條デアリマス、第二十五條ノ規定ヲ見マス、云フ以上ノ數ノ勞務者ガ、一ノ勞務關係ノ適用ヲ受クルニ至ツタ時ハ、他ノ者モ此ノ協約ノ適用ヲ受ケルノダ、斯ウ云フ規定ニナツテ居リマス、モウツハ第三十三條デアツタカト記憶致シマス、組織ノナイ場合ニハ委員會ノ權限ニ基キテ其ノ實情ヲ調査シテ、改善ノ具體案ヲ行政官廳ニ建議スルコトガ出來ル、斯ウナツテ居リマス、此ノ二條ハ具體的ニ御伺ヒ致サケレバナライ點ハ、此ノ委員會ノ委員ガ政府ニ參考書ヲ提出スルモ、此ノ中ニ全國ノ日僱勞務者ノ土木、建築、港灣小運送、貨物自動車、陸上小運搬、男女ノ總計ノ統計ヲ得タノデアリマスガ、之ヲ見マス、百六十八萬六千五百三十五デアルカドウカハ私若干疑問ニ思ヒマス、更ニ是ト關聯シテ考ヘナケレバナライコトハ、現在就職シテ居リマズル百六十八萬——其ノ數字デ私ハ一應抑ヘマス、今政府ガ發表致シテ居リ

マスル千數百萬ノ失業者ノ今後ノ救済目標トナルベキモノハ何カト云ヘバ、政府ガ近日發表致シマシタヤウニ「デム」デアルトカ、道路デアルトカ、農村ニ於ケル問題デアルトカ種々ノモノヲ發表致シマシタ、是等ニ動員サレマスル所ノ勞務者ノ數ト云フモノハ、是ハ莫大ナ數ニ上リマス、是等ノ人々モ私ハ日僱勞務者トハ何ゾヤト云フ定義ヲ下シタ場合ニ、一應私ハ日僱勞務者ノ定義ノ中ニ加ハルモノデアリマス、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマスガ、之ニ對スル當局ノ御見解ヲ先ヅ御伺ヒ致シマス

○青木國務大臣 小澤君ノ數トシテ只今正木君カラ舉ゲラレタ一千三百萬餘ノ數字ハ、正確ナ意味ニ於ケル失業者ノ數デハアリマス、國內ニ於ケル復員カラ一時職ニ離レタ者、又海外ヨリ復員シテ來タ陸海軍將兵、軍屬及ビ之ニ伴隨シテ海外ニ駐在シテ居ツタ者ノ引揚數、其ノ全部ヲ含メテ言フデアリマス、ソレ等ノ者ノ過半ハ少クモ或ハ農村ニ歸リ、或ハ從來從事シテ居ツタ職ニ復歸シ得ル者デアツテ、差當リノ失業者ノ數ハ各府縣等ヨリノ報道ニ依リマス、概數四百萬ト云フ推定ヲ下シテ居ルノデアリマス、其ノ四百萬ノ中、ドレダケガ現實ニ職場ヲ見付ケ得ルカト云フコトニナルノデアリマシテ、只今御引キニナツタ百六十何萬ト云フ數字ト四百萬ト云フ數字ト對照ノ上デ御考ヘテ願ヒタイ、左様ニ思ヒマス、ソコデドノ程度マデ、之ヲ日僱勞務者ト言フカト云フコトニナルト、非常ニ區別ノ困難ナ場合ガアルト、例ヘバ農村ニ多少ノ勞力ガ餘ツテ

居ル、附近ニ河川ノ改修工事ガ行ハレルト云フノデ、小作業ヲ營ム一部分農民ノ人ガ、河川ノ工事ニ出テ働クト云フ場合モ可ナリノ數ニ上ルト思フデアリマス、又事實農村ニ於テ小作サヘモ出來ナイト云ツタヤウナ農業勞務者モ、是ハ極メテ少數デト思ヒマスガ、サウ云フ種類ノ人ハ明白ニ日僱勞務ト云フモノニ選ルト思ヒマス、唯其ノ線ヲ何處ニ引クカト云フコトニナリマス、場所ニ應ジテ職業ノ種類ニ依ツテ、可ナリ困難ナ問題ガ起ル、ソコハ取扱者ノ常識ニ依ツテ個々ノ場合ニ當ツテ判斷スルノ外ハナイノデアリマシテ、之ヲ抽象的ニ今ドウ云フ風ニ定義スルカト云フコトニナルト、一寸私トシテハ答辭ニ困難問題デアリマス

○正木委員 ソコデ重ネテ御伺ヒスルデアリマス、此ノ百六十萬人ノ日僱勞務者ト、今大臣ガ申サレタ四百萬人ノ日僱勞務者、サウスルト五百數十萬人ノ屋外勞務者ニ對スル勞務行政、此ノ點ニ付テ御伺ヒテ進メテ行キタイト思フデアリマス、適日私ハ意外ナ御相談ヲ中央デ受ケタノデアリマス、ソレハ從來厚生省ガ監督致シテ居リマシタ勞務報國會ナルモノガ解體サレテ、其ノ勞務報國會ト稱シ、似通ツタ所ノ財團法人組織ニ依リ勞務協會ナルモノガ中央ニ出來タ、而モ此ノ勞務協會ニ對シテハ、政府ガ一箇年間數百萬圓ノ助成ヲ支出シテアルト云フ、而モ此ノ勞務協會ノ事業ノ内容ヲ見マス、例ヘテ言フナラバ厚生省ノ原案ニ依リマス、失業保險ガ實施サレタ場合ニハ、國家ノ代行機關トシテ此ノ勞務協會ニヤラセルノデアアル、又日僱勞務者ノ作

樂衣、地下足袋其ノ他作業上ニ於ケル一切ノ必要物資ハ、此ノ勞務協會ヲシテ一元の配給セシメルノダト云フコト、ソレカラ勞務者ノ募集モ此ノ勞務協會ヲシテ一元のニヤシメルノダ、マダ深山ゴザイマス、更ニ此ノ勞務協會ヲシテ共済組合ヲ結成セシメテ、勞働者ノ共済施設モヤルノダト云フコトガ規定サレテアツタノデアリマス、私ハ實ハ非常ニ驚イタノデアリマス、政府ハ勞務組合法ナルモノヲ今議會ニ提出セントシテ居ル政府ノ意圖ガ何處ニアラウトモ、他動の力ニ依ツテ提出セザルヲ得ナイ時機ニアルニ拘ラズ、勞務組合ノ精神ト根本的ニ相反スル所ハ、私ノ實情ヲ以テ言ハセルナラバ、反動の、官僚的の、斯様な財團法人ヲ聲明ナク戴イテ居ル所ノ厚生省ガ、何故ニ致サケレバナラナイノカト云フ所ニ、私ハ非常ニ疑問ヲ抱ケト同時ニ、中央ニ於テ私ハ猛烈ニ反對運動ヲ展開シタノデアリマス、北海道ニ對シテモ、北海道廳カラ勞務協會ノ支店設置ノ御相談ヲ受ケタ時、私ハ是ノ反社會的ナ性質ヲ明白ニ説明シテ、北海道廳ニ於テハ、率先シテ作ルヤウナ行動ニ出ザランコトヲ強く要望スト共ニ、其ノ會合ニ出テ來テ居リマシタ各種ノ職能ノ代表者ノ多クノ諸君モ、モッ勞務協會ヲ厭ミ、今又斯様な反動の官僚的ナ勞務協會ノ設置ヲスルト云フコトニハ反對デアルト云フ意思表示ヲ明カニシテ、北海道ニ於テハ、流石トナツタノデアリマス、ソコデ私ノ御伺ヒシタイ點ハ、過日モ本會議ニ於テ、同僚河野君ガ質問致シマシタニ對シテ、厚生大臣ハ解散ヲスルト斯様な言ハレタヤウニ、私ハ斷キ取ツタノデアリマス、其ノ通りデア

ルカドウカ、若シ解散スルト云フノデアリナラバ、解散ヲ致サケレバナラナイ大キナ理由ガナケレバ、ナリマセヌ、厚生省カラ配付コレマシタ書類ヲ見マスト、全國各地ニ相當ニ此ノ支部ガ結成サレテ居リマス、實ハ其ノ事業ニ著手シテ居ル向キアルノデアリマス、又之ヲ逆ニ勞働者側カラ見マシタ場合ハ、斯ウ云フ事實ノ根本ニ觸レテ非常ニ問題ヲ惹起シテ居リマス、仙臺ニ於テ然リ、東京都下ニ於テ然リデアリマスガ、此ノ勞務協會ノ反動性ノ中デ、最も反動のナモノハ何カト云フト、勞務供給事業ノ助長デアリマス、茲ニ反動性ガアルト共ニ官僚的の所ガアル、勞務供給事業ノ助長、是ハ何ダト云フト、從來トモ最も日本社會ニ於テ奴隸の典型的ナ立場ニ置カレタ此ノ日僑勞務者ヲ、民主主義革命ノ過程ニ於テスラ、依然トシテ奴隸のナ立場ニ置カウトスル勞務供給事業者、此ノ表デ見マスト、勞務供給者ハ七千八百四十四名アリマス、女ニシテ一萬七千八百四十二名、合計九萬七千、約十萬人ノ都市ニ於ケル勞務供給ノ親方ノ餌食ニスルト云フ所ニ、此ノ反動性ガアルノデス、宮城縣ナドデハ、五割モ頭ヲ制シラレテ居リマス、進駐軍ニ僱キニ參リマス勞務者ニ對シテ、此ノ勞務供給業者ガ、勞務協會ノ名ニ依ツテ、賃金ノ立止拂ヲ致シマス、其ノ時デモ天引五割ヲ制シテ居リマス、東京都下ニ於テモ然リ、而モ是等ノ日僑勞務者ニ物資ヲ一元の配給スル場合ニ、從來ノ勞務供給業者及ビ資本家ガ如何ナル配給方法ヲヤツタカト云フコトハ、是ハ私ガ今此處デ論ズルマデモナク、勞務協會ガ其ノ見本ヲ示シテ居ルノデアリマス、私ハ之ヲ廢止スル、解散

ヲスルト云フ御決心ヲサツタ大臣ハ、恐ラク此ノ勞務協會ト云フモノガ、日本ノ産業民主主義革命ノ、發展過程ニ於ケル障礙ト云フモノニ御氣付キニナツタト思フデ、解散ヲナサル御決心ニナツタト思フデアリマスガ、全國數百萬ノ日僑勞務者、實ニ交換ヘテ言フナラバ、自由勞働者ハ此ノ勞務協會ニ對シテ非常ニ關心ト、決死の闘争ヲ發展スル熱勢ヲ今將ニ盛ヘントシテ居ルノデアリマス、ドウカ本會議場ヲ通ジテ、大臣ノ御口カラ勞務協會ノ解散スル、何故ニ解散スルノダト云フ所ノ理由ヲ明カニシテ戴キタイ、斯様ニ存ジマス

○青田國務大臣 殿時中ノ勞務協會ガ、終戰同時ニ勞務協會ノ形ニ變テ來タ、サウシテ相當多數ノ日僑勞務者ノ勞務供給、其ノ他ノ問題ニ關シテ居ツタコトハ、私モ能ク研究ハ致シマセンデシタガ、就任以來種々調査シナイ機關デアアルノト考ヘマシテ、勞務組合法提出以前ニ勞務協會解散ノ決定ヲ致シマシタ、此ノ點ハ決定済ノ政府ノ方針ト御、知下スツテ間違ヒアリマセヌ、唯今後日僑勞務者ノ就職斡旋其ノ他ニ付テ、現在ノ勤務等ノ機關ニ依ツテ果シテ遺棄ナク運用ガ出來ルカドウカ、殊ニ將來失業救済ノ事業ガ必然的ニ強化サレナケレバナラナイ時デアリマスカラ、ドウ云フ方向ニ如何ニ機關ヲ強化スレバ宜イカト云フコトヲ只今研究中デアリマス、勞務協會ノ解散ト新シキ機關ノ運用トノ間ニ時日カ餘リ短シナイヤウニ、適當ニ處置ヲ講ジタイ思フ折角努力中デアリマス

○正木委員 能ク分リマシタ、ソコデ私ハ私ノ經驗ヲ通ジテ大臣ニ私ノ愚見ヲ申上ゲルコトガ非常ニ參考ニナラウト思フノデ申上ゲタイと思ヒマス、私ハ昭和ノ經濟「バニツク」時代ニ於テ、三年間自由勞働者ノ中ニ身ヲ落シテ、自由勞働者ト共ニ稼ギマシタ、隨テ其ノ當時ニ於ケル職業紹介ノ機構、構成、運用モ能ク存ジテ居リマス、此ノ勞務協會ノ通過ヲ出シテ厚生省ノ原案ニ依リマス、職業紹介法ヲ改正シテ勞務者ノ供給調整、仕事ノ斡旋等ハ一切勞務協會ヲ以テヤラセルト云フコトニナツテ居ツタノデスガ、是ハ解散致シマスカラヤラセナナリマス、ソコデ先ヅ第一ニナサケレバナラナイコトハ是デス、全國數百萬ノ日僑勞働者ト規定サルハ、人ガ、各地區のニ業種別的ニ勞務組合ヲ結成シテ、此ノ日僑勞働組合ガ、全體ノ責任ヲ擔持スル義務ノ上ニ於テ果スト云フコトハ、是ハ實際問題トシテ中々困難デス、ソレハ東京デモ出來マセウ、各縣トモ出來マセウガ、是程困難ナ、是程複雑多岐ナ勞働者ノ集團ト云フモノハアリマセウカラ、私ハ名譽ト責任ヲ持ツテ果スト云フ勞務組合ガ出來ルマデニハ、相當ノ年數ガ掛ルト思ヒマス、ソコデ私ノ考ヘ方ト致シマシタハ、職業紹介法ヲ改正スルノデハナクシテ、只今ノ動員署ハ一般知識階級其ノ他ヲ取扱フ機關トシテ、昔ニ對シテ日僑勞働者ノ爲メ職業紹介所ノ動員署デモ結構デスガ、其ノ機關ヲ別個ニ獨立シテ依ルベキデアアル、サウシテ出來タ此ノ獨立シタ機關ニ、政府側ノ意思、ソレカラ使用者側ノ意思、勞働者側ノ意思ヲ代表スル所ハ、此ノ勞務組合法規定サレテアリマス、此ノ勞務委員會ト云フモノワの確ニ利用シ、運用スルトニ依ツテ、私ハ或ル

程度ノ實績ヲ舉ゲルコトダケハ間違ヒナイト云フ考ヘ方ヲ持ツテ居リマス、更ニ一勞務者トシテ問題ニナリマスルコトハ作業衣、地下足袋、其ノ他ノ物資ノ配給ノ問題デアリマス、之ヲ公平ニ配給スルカ、不公平ニ配給スルカト云フコトハ、一ニ懸ツテ勞働者欲ノ上ニ於テ重大ナ關係ヲ持チマス、ソコデ之ヲ名譽ト責任ヲ持ツテ果セル勞務組合ガ出來ナイ以前ニ、此ノ勞務供給業者ニ渡セバ、是ハ問題ガ起ルコトハ火ヲ賭ルヨリモ明カデアリマス、ソコデ政府ノ機關デアアル此ノ動員署、要スルニ日僑勞務者ノ取扱ヒマスル動員署ト云フ一ツノ政府ノ公的ナ機關ヲ作ツテ、此ノ勞務委員會ト同ジ形ノ機關ヲソレニ入レテ、此處デ適切ニ勞働者ノ登錄ヲナサセ、其ノ登錄ノ上ニ立ツテ一切ノ物資ヲ配給スルト云フ途ヲ購ズルナラバ、私ハ非常ニ圓滿ニ責任ヲ持ツテ仕事ガ出來ルノデハナイカ、斯ウ云フヤウニ考ヘマス、ソコデ私ノ希望ハ、中央、地方ニ急速ニ是等ニ對スル機關ヲ先ヅ御作リニナル必要ガアルト思フノデアリマスガ、之ニ對スル大臣ノ御所見ハドウデスカ

○青田國務大臣 正木君ノ建設的ナ御意見、計畫ハ頗ル有益ニ拜聴致シマシタ、此ノ問題ハ只今急速ニ具體案ヲ作ルコトニナツテ居リマスカラ、十分御意見ノ程ヲ參酌致シマシテ、一日モ早く勞務供給ニ遺憾ナキヲ期シタイと思ツテ居リマス

○正木委員 實ハ實ハ大臣ニオイデラ願フテ、物價問題ト賃金ノ問題ニ付テ、根本的ナ政府ノ方針ト云フモノヲ明カニシヨウト思フタノデアリマスガ、賃金問題ハ厚生省カラ職イテ責ヒタイト云フコトヲ只今官ツテ來タノデ

アリマス、ケレドモ大蔵大臣ノ御出席ハ委員長カラ是非御願ヒテ致シタイト思ヒマス、厚生大臣ニドノ程度マデ御伺ヒシテ宜シイノカ、私ニハハツキリ致シマセヌガ、問題ハ是デス、此ノ法ノ生命トモ言ハルベキ勞働能率ヲ増進シテ、平和産業ノ維持ニ協力スルノダト云フコトガ、端のニ言フト是ノ大キナ使命デアリマスガ、ソレガ爲ニハ團體保障スル、交渉權モ認メル、サウシテ勞働者ノ地位ノ向上ヲ圖ラナケレバ、イケンナイノダ、是ガ狙ヒデス、併シナガラ具體的ノ實際問題トシテ、讀賣爭議ガ團體交渉權ヲ獲得致シマシタ、相當大額ノ賃金ノ値上ガアツタト思フノデス、全國到處ニ爭議ガ頻發致シテ居リマシテ、團體交渉權ヲ獲得シテ居ルト思フノデス、併シナガラソレカラ一步入ツテ、此ノ法文ニ明記サレテアリマス所ノ協約締結、是ガ果シテ政府ガ意圖スルヤウニスラノト、資本家側モ納得シ、勞働組合側モ納得スルヤウナ協約ガ成立ツカドウカト云フ問題デアリマス、此ノ點ニ付テハ午前中ニ同僚ノ議員カラモ本質の二觸レタノデアリマスガ、私ハ法ノ上ニハサウ云フコトガ明記サレテ居ツテモ、實際問題トシテハ是ハ不可能ニ近イ問題ダト思フ、ナゼカナレバ、本日ノ賃金二十圓ハ明日ノ貨幣價值判斷カラ見テ安當ナラスト云フノガ、今日ノ日本ノ物價ノ暴落デアリマス、ソコデ此ノ勞働協約ノ原始的ナ、初步的ナ勞働者ノ要求ト云フモノハ、賃金ノ値上デガ主體ニナリマス、此ノ賃金ノ値上デガ主體ニナツテ、自己ノ生活ノ或ル一定ノ限度ノ安定ヲ圖ルト共ニ、更に進ンデ其ノ經濟形態ノ中ヘノ参加、同時ニ人格平等ニ立ツテ發言權ノ要求、斯ウ云フ形ニナツテ

行キマスコトハ、爭論ノ「エー・ビー・シー」デアリマス、ソコデ私ハ此ノ法ヲ的確ニ運用シテ行キマス場合ニ、一體政府ガ意圖シテ居リマスル、大蔵大臣モ本議會ノ委員會ニ於テ官吏及ビ勞働者ノ賃金、俸給ハ大幅ニ引上ゲルノダ、斯ウ言ハレマス、厚生大臣モ言ハレタヤウニ記憶シテ居リマスルガ、物價關係ト賃金關係トニ對スル政府ノ方針ハ一體何處ニアルノダ、此ノ本質的ナ問題ガ明カニナラナケレバ、私ハ益々日本ノ勞資關係ト云フモノハ對立ガ激化シ、混亂ニ次グ混亂ヲ重ネルコトニナルト云フ見透シヲ持ツテ居ルノデアリマス、是ハ大蔵大臣ニモ聽キマスルガ、私ハ厚生大臣トシテノ御方針ヲ重ネテ聽イテ置キタイト思ヒマス

○齊田國務大臣 御話ノ點ハ私モ同様ニ非常ナ重大問題トシテ痛心致シテ居リマス、御承知ノ通り我が國ノ財界ノ現狀、政治的ナ情勢カラ判斷致シマシテ、不幸ニシテ物價及ビ賃金ヲ安定スルノニ、前途幾多ノ障礙アル、隨テ果シテ如何ナル對策ニ依ツテ「インフレーション」ヲ完全ニ防止シ得ルカ、又物價騰貴ノ趨勢ヲドウスレバ完全ニ抑ヘ得ルカト云フコトハ、朝野等シク考ヘ且ツ慎重ニ居ル所デアツテ、而モ何人モ的確ナ方法ニ付テノ具體案ヲ明示シ得ナイ理由ガソコニアルト思ヒマス、私個人トシテノ考ヘハ、要スルニ今回「インフレーション」激化ノ根本ハ、食糧、物價ノ騰貴ニアル、食糧、殊ニ主要食糧品ノ騰貴ガ「インフレーション」ノ根本ノ問題ニナツテ居ル、勞務ヲ得ルコトノ困難モ亦食糧問題デアアル、多數ノ失業若シテ勞働意欲ヲ失ハシメテ居ルノモ、皆彼等ガ食糧品

ノ騰貴カラ生活ヲ變ゲト云フコトデ、工場乃至日給勞働者ニナル希望者カ少イ、石炭ノ騰貴者ガナイノモ食糧問題ト云フコトデアツテ、要スルニ問題ハ食糧不足及ビ食糧物價ノ騰貴ガ「インフレーション」ノ根本ヲナシテ居ル、賃金制度ノ困難ノ所以モ亦ソコニアルト考ヘマス、隨テ同僚ノ一員トシテ、農林當局等ニ對シマシテモ、食糧問題ノ解決ガ今日ノ急務中ノ急務デアルト云フ風ニ力ヲ致シマシテ、何トカコ、デ一轉換ヲ圖ラナケレバナラヌト感シテ居リマス、厚生省ハ厚生事務ニ關スル限リ他力本願ノ點ガ多イノデアリマシテ、自分デ食糧ヲドウスルコトモ出來マセヌ、自分デ必要ナ物資ヲ集メル權限モ持ツテ居リマセヌ、サウ云フ點ガ甚ダ微力、力ノ足りナイコトヲ痛感スルノデスガ、併シ出來得ル範圍ニ於テ此ノ問題ノ解決ニ當リタイ、賃金ノ問題ニ付テモ御承知ノ通り賃金ガ先ニ上ツテ物價ガ上ルノデハナイ、諸物價ガ上ルカラ賃金増加ノ運動ガ起ルノダ、是ガ實情ダト思ヒマス、隨テ賃金制度如何ニ依ツテ「インフレーション」ガ促進サレルト云フノハ結果論デアツテ、現實ニ於テ賃金ガ上ツテ然レバニ物價ガ上ルコト云フコトハ起ツテ居ラナイ、如何ナル國ニ於テモ必ズ物價ガ騰貴スルカラ賃金ノ増加ガ行ハレル、其ノ意味ニ於テ月給生活者、日給生活者ガ常ニ「インフレーション」ノ最モ大キナ犧牲者ニナル、最モ早ク生活難ニ迫込マレルト私ハ見テ居ル、サウ云フ譯デ、獨ガ先カ那ガ先キカト云フ問題ニナリマスガ、賃金問題ノ解決ニ於テモ今日ノ如キ過渡期、殊ニ「インフレーション」ノ相當拍車ヲ掛ケラレタル今日ニ於テ、非常ナ困難ノ度ヲ加ヘテ居ルト

思ヒマス、隨テ其ノ程度々々生活費、物價ト配合セテ、或ル程度ノ賃金ヲ決メテ行ハト云フ外ニ、私トシテハ今日然リ持テナイノデアリマス、何カ良イ案ガアリマシタラ、ドウカ御教ヘテ願ヒタイト思ヒマス

○正木委員 私ハ花ヨリ團子デスカラ、早速具體的ナ問題ニ付テ論ジテ見タイト思フノデスガ、今大臣ガ明確ニ指摘サレタヤウニ、私ハ此ノ根本的ナ解決策ガ現政府アリヤ、斯ウ云フ質問ヲシタ場合ニ、恐ラク後デ出席サレル大蔵大臣ト雖モ、明確ニハ之ニ對シテ御答ヘガ出來ナイト思ヒマス、恐ラク大臣ト同ジ程度ノ御答辭シカ出來ナイト思フ、ソコデ私ハ此ノ法ダケニ局限致スノデアリマスガ、サウ致シマスト毎日ノ新聞ヲ見テモ、十ヤ二十ノ「ストライキ」起キテ居ナイコトハアリマセヌ、京成電車ナドハ無賃デ大家ニ奉仕スルコト云フ新戰術ヲ執ツテ「ストライキ」ニ入ツタヤウデアリマス、サウシテ賃金ハ三倍、五倍ノ値上ヲ要求致シテ居リマス、ソコデ現在政府ガ公的ナ機關ヲ通ジテ配給シテ居リマスル主食糧、其ノ他味噌ニシテモ醬油ニシテモ、過日同僚西尾君ノ質問ニ對スル大臣ノ御答辭ニ於テ明カニナツテ居リマスルヤウニ、漸ク生命ヲ維持スルコトハ出來ルガ、ソレニ依ツテ或ル一定ノ職場ニ從事シテ、民族更生ノ爲ニ起チ上レルモノデハナイノデアリマス、ソコデ大ナリ小ナリ關ヤラナケレバ行ケナイ、其ノ關ヤツテスラ完全ニ働キ得ル主食物ガ手ニ入ラナイト云フノガ現狀デアリマス、ソコデ私ハ色々ノ數字のナ統計ヲ御目ニ掛ケルコトモ差支ヘナイト思ヒマスガ、時間ガ掛リマスカラソレハ止メマス、唯問

題ニナルノハ此ノ勞働委員會ノ運用デアリマス、勞働者新階級ハ生キルト云フコトガ原則デアリマスカラ、少數ノ支那階級ガドウヤウニ考ヘルトモ、産業民衆化ヲ通ジテ、自己ノ生活ヲ守ル爲ニハ賃金三倍ノ値上ヲ要求、五倍ノ値上ヲ要求ノ基礎ハ、表面ニ現ハレタ政府ノ公定價格ノ價格基準デハナクテ、自分ノ一箇月ニ掛ル全體ノ生活費ガ基準ニナリマス、ソコデ其ノ基準ニ基キテ三倍ノ要求ヲシ、五倍ノ要求ヲシ、倍ノ要求ヲ致シタ場合ニ、此ノ勞働委員會ノ執ラレマスル調停及ビ仲裁、是カラ出ルデアラウ所ノ爭議調停法ノ改廢等ハ、至大ナ關係ヲ持ツノデス、又持タザルヲ得ナイノデス、隨テ私ハ今ノ内閣ノ性格カラ見テ、根本的ナ問題ハ解決出來ナイデアハナイカ、出來ル自信ハ恐ラクナイデアアラウト云フ私ハ見透シヲ持ツテ居ルノデス、ト云フコトハ是ハ非常ニ御謙ヒノ方ガアルト思ヒマスガ、結論ヲ申シマス、「ボツダム」宣言ヲ受諾シタ利那ニ於テ、日本ノ黨義民主主義ノ面ニ於テハ、私ヲ以テ實ハシムレバ資本主義社會主義カ、理念トシテ此ノ線マデハツキリ來テ居リマス、資本主義ノ界限ニ立ツテ、現在ノ國難ヲ突破スルコトガ果シテ出來ルデアラウカドウカ、出來ルトスルナラバ然ラバ具體的ニドウシテ出來ルノカ、社會主義的ナ理念ニ立ツテ現ハレテ來ルカ、恐ラク問題ノ本質ハ此處マデ掘下ゲナケレバ、實際ノコトガ明瞭ニナラナイノデアハナイカト私ハ考ヘテ居リマス、思想ニ於テ此ノ資本主義社會主義カ、此ノ理念ノ上ニ於テ今日日本ノ國情カラ考ヘテ見タ時ニ、ドウ線デ資本主義ト妥協シツ、此ノ行詰ツタ所ノ

食糧増産ノ問題、失業ノ問題、住宅ノ問題等ヲ解決スルコトガ出來ルノデアラウカ、此處ガ私ハ亦種ノ所デハナイカト考ヘマス、隨テ大臣ハ理念的ニ、思想的ニ表明シテ自由主義者デアルト私ハ承ツテ居ルノデアリマス、自由主義ニモ「プロレタリア」的ニ見テ主義モアリマスレバ、「ブルジョア」的ニ見テ自由主義モアルノデアリマス、「プロレタリア」的ナ自由主義ノ範圍ノ中デ、此ノ本質ノ問題ガ果シテ無出來ルカ、茲ニ大キナ問題ガ我サレテ居ルカト思フノデアリマスルガ、大臣ノ今抱イテ居ル勞働行政ヲ過シテノ問題ノ方向ニ付テ、此ノ機會ニ重ツテ置キタイト思フノデアリマス

○青田國務大臣 只今ノ正木君ノ課題ハ、日本ノ今後ノ動向ニ關シテハ根本的ナ大問題デアリマス、私ノ見ル所ニ依レバ、社會主義國家ト雖モ色シナ形デ現ハレル、必ズシモ現在「ソヴェエト」聯邦ガ執ツテ居ル政治、社會制度ノミガ社會主義國家デアルトハ言ヘナイト思フ、例ヘバ「イギリス」ノ勞働黨内閣ガ廣汎ナル國有政策ヲ採リテ、既ニ政權ヲ握ツタ歴史カラ言ヘバ、一九二四年以來可ナリノ經驗ヲ重ネテ來タ、或ル期間ニ於ケル「イギリス」ノ政治ハ、社會主義政策ニ依ツテ行ハレテ居ツタトモ言ヘマセウ、現在「イギリス」ニ付テモ或ル程度社會主義國家デアルト言ヘナイトハナイト思ヒマス、又「ドイツ」ノ「ナチス」ノ或ル期間ニ於テ、國家社會主義ノ政策ガ相繼行サレテ居ツタ、是モ或ル意味ニ於テ社會主義國家デアツタト言ヘナイトハナイト思フ、隨テ丁度民主主義ガ世界各國、其ノ國々ニ依ツテ特異トスル民主主義形態ヲ現ハシテ居ルト同

ジヤウニ、少クモ過去二十年間ノ歴史ヲ御覽ニナルナラバ、「ソヴェエト」ニハ「ソヴェエト」式ノ社會主義ヲ行ハルベキ系統ガアツタ、アノ「ソヴェエト」社會主義ヲ何處ノ國ニ持ツテ行ツテモアノ體ヲ持ツテ出來タト思ヒマセウ、ソレト同ジヤウニ社會主義國家ニ雖モ、其ノ國々ニ依ツテ自ラ異ナク形ヲ持ツテ現ハレテ來ルノデアリマス、「ドイツ」ニハ「ドイツ」式ノ國家社會主義ヲ行ハルベキ系統ガアツタ、サウ云フ意味ニ於テ今日本ノ社會主義ガドウラ度マデ採用サレルカ、今後ノ經過ニ依ツテ外ハアリマセウガ、ガシ今後ノ日本ノ經濟社會制度ノ上ニ社會化ガ行ハレルトスルナラバ、ヤハリ日本民族ノ傳統ト、日本國有ノ特質ノ上ニ禁キ上テラレタモノデナケレバ斷續ノ見込ハナイ、斯様ニ私ハ思フノデアリマス、然ラバ今日ノ日本ガ直ニ社會主義國家トシテ立ツベキノ基礎ガアリ、準備ガアルカト云フ點ニ於テ、マダソコマデハ行ツテ居ナイ、何トナレバ所謂社會主義國家ナルモノガ體格ニ採用サレルトシテモ、ヤハリ其ノ基礎トナルモノハ個人デアアル、個人ノ個性、特性、此ノ基礎ガ確ニ出來ナケレバ社會主義國家ノ採用ハ決シテ完全ニ行ハレナイ、不幸ニシテ今日マデノ日本ハ、マダ本當ニ自由主義ノ何タルカサヘモ該シナイ程度ノモノデアアル、自由主義ノ體格ヲ經テシテ、イキナリ社會主義國家ノ實現シテモ、果シテ社會主義國家ノ理想ガ圓滑ニ行ハレルカドウカ、動モスレバ斯様國家ニ於テハ變ラニ意者ガ得ワシ、動勢欲ヲ持ツ者ガ意氣ヲ起シタルコト云フコトデ、其ノ社會進步ガ或ハ遲滞シ、停止スルカモ知レナイ危險ガ多分ニアル、故ニ今日

ノ日本ニ於テハ所謂社會主義ト云ヒマスガ、從來ノ資本主義ノ幾多ノ缺點ヲ糾正シテ、新勢力ヲ起シ、是正シ、社會主義ノ特色トナルモノヲ取入レテ、然ル後ニ參ルニ此ノ正シキ資本主義、修正資本主義ノ途ヲ歩イテ行クコトガ適正デハナイカ、斯様ニ私ハ感ジテ居ル次第デアリマス

○正木委員 只今大臣ノ御答辭ニ依リマシテ、私モ大體現在ノ日本トシテハ其ノ線ヲ行キヨリ仕方ガナイノデハナイカ、ソコデ勞働組合運動ヲ通ジテ全國的ニ現ハレケル傾向ノ一ツトシテ、要スルニ勞働者自身ノ力ニ依ツテ産業ノ復興ヲ急ガナケレバイケナイ、ソレガ民族ノ福祉ノ爲メ勞働階級ガ果スベキ大キナ使命デアルト云フ自覺ヲ持ツテ居ルノデス、其ノ自覺ノ上ニ立ツテ企業經營ヘノ參加ト云フ要求ガ、全國ノ各階級ニ而シテ非常ニ強ク現ハレテ來テ居リマス、企業經營ヘノ參加ト云フ、此ノ參加ノ思想、理論ノ根據ハ今大臣ガ御述ベラレタ點ノ中ニ立ツテ要求デアアル、斯ウ云フヤウニ私ハ考ヘテ居リマス、後商工大臣ガ御答辭ニ於テ更ニ私質問ヲ重ヌルノマシタカウ重テ御何ヒ致シマス、ソコデ早クモ此ノ勞働階級ノ民族幸福ノ理念ニ立ツテ、此ノ企業經營ヘノ參加ヲ促シテ少數ノ資本家側ハ、如何ナル手段ヲ打ツテ居ルカト云フコトデアリマス、日本ノ産業ノ復興ヲ促シテラナイ根本ノ原因ハ、一日ニ言フト資本家側ノ「サバタージ」デアリマス、勞働者ノ罪デハアリマセウ、而モ逆モ、勞働階級ガ自ラ生産ヲ起サナケレバイケナイト云フ此ノ努力ニ對スル反動トシテ、全國的ニ現ハレテ來タ爾著

ナ例ハ、未ダ勞働階級ノ自覺、社會ユト對スル階級ナリトシテ得ナイ所ヲ最モ幸ヒトシテ、實家側ニ組合ノ好イ所ノ御用勞働組合ヲ全國封鎖シテ作ツテ居ル事實デアリマス、北滿ニ於テモ或ル大キナ三井系ノ炭山ハ、産報ヲ其ノ勞働組合ニ名前ヲ懸ヘテ、此ノ姿ヲ模ヘタ勞働組合デ團體交渉ヲ契約シテシマヒマシタ、又函館ノ或ル大キナ「トウク」會社モ此ノ手ヲ打ツテ居リマス、九州到ル處ソレガ散見サレテ居リマス、東北ニ於テモ近頃ニ於テモソレガ散見サレテ居リマス、是ハ今後ノ日本ノ産業復興ノ上ニ於テ決シテ幸福ヲ齎スモノデハナイ、懸テ其ノ御用勞働組合ノ中ニ包含サレタソレ等ノ勞働者ガ、會社ノ爲メ闘サレタコトニ氣ガ付イタ時ニ、其ノ反感ト不幸ハ一時ニ爆發致シマス、其ノ爆發シタ結果日本ノ産業ノ復興ノ上ニ於テ、ドウ云フ不幸ナコトヲ齎スカト云フコトヲ考ヘタ時ニ、是ニ種ノ少數ノ支配者デアアル所ノ資本家側ハ自覺スベキデアアル、自己ノ責任ノ範圍内ニ於テ自覺スベキデアアル、同時ニ政府當局モ大臣ノ名ニ依ツテ地方長官ニ通ジ、或ハ厚生省ト商工省ト聯合シテ、地方ノ經濟團體ヲ通ジテ、資本家側ノ左翼ニ懸念ナル小手先ヲ使ツテ慰撫ハ、政府自ラノ手ニ依ツテ注意ヲ喚起スルト同時ニ、御用團體デアアル所ノ勞働組合ヲ作ルヤウナコトヲ阻止スベキデアアル、ソレハ偏ニ日本ノ産業ノ復興スル爲メアルト共ニ、日本ノ民族ノ精神ヲ守ル爲メ至ラニ重要デアルト考ヘマスガ、之ニ對スル

大臣ノ御答辭ニ依リマス

○青田國務大臣 正木君ガ今指摘サレマシタ點ガ實ヲ、私マダ不幸ニシテ實情ヲ聞イテ居リマセウ、併シナガラ各國

ノ勞働組合發達ノ歴史ヲ讀ンデ見ルト、何處ノ國ニモサウ云ツタ時代ガアリマスカラ、恐ラク過渡期ノ日本ニ於テモ斯様ナ例ヲ指摘シ得ルノダト思ヒマス、洵ニ遺憾ナコトデアリマスガ、左様ナ場合ニ政府ガ強權ヲ以テ資本家ニ臨ムコトガ宜イノカ、或ハ能ク事應ヲ明カニシテ徐々ニ之ヲ指導シテ行クト云フ方法ガ宜イノカ、其ノ方面ニ付テモ尙ホ考慮ノ餘地ガアルト思ヒマスガ、何レニレモ斯様ナ現状ヲ其ノ儘ニ見テ居ルト云フコトハ、今後ノ産業平和ノ上ニ面白クナイコトト思ヒマス、十分其ノ點ハ注意ヲ致ス積リデ居リマス

○正木委員 厚生大臣ニ對スル質問ノ最後トシテ御伺ヒ致シタイ點ハ、他僑ノ力ニ依ツテ軍人ニ對スル恩給ハ停止ヲ見タ譯デアリマス、之ニ對スルノト、官公吏ノ恩給其ノ他ニ對シテ厚生省ハ一ツノ委員會ヲ組織致シマシテ、是ガ具體的ノ研究ニ着手サレマシタ、ソコデ私ハ御伺ヒ致シタイノデアリマス、厚生年金ト社會保險トノ關係デゴザイマス、過去ノコトヲ私申上ゲル譯デアリマセウガ、日本ノヤウナ封建的ナ力ノ多大ニ強カツタ國ニ於テハ、保險制度ヲ通ジテ一番恩惠ヲ受ケテ居ツタハ誰カト云ヘバ、是ハ申上ゲルマデモナク軍人デアリマシタ、隨テ官吏デアリマス、然ルニ國ノ基礎トシテ、國ノ産業經濟ノ上ニ非常ニ大キナ貢獻ヲシテ居ラレマス所ノ勞務階級ハ一體ドウデアアルカト云ヘバ、大臣御承知ノヤウニ辛ウシテ昭和十六年度ニ初メ厚生年金制度ト云フモノガ設ケラレタ、此ノ厚生年金制度ノ目的ハ、養老ト傷害ト遺族ト三種トナツテ居リマス、而モ此ノ被保險者ハ、過去ノ數

字デアリマスルガ、數百萬ニ達シテ居ル譯デアリマス、是ハ私市上ゲル必要ハアリマセウガ、其ノ時源トシテ保護者ニ對シテ資本家四割、斯ウ云フコトニテハ私ノ調査ニシテモ、一

妻給基準ト云フモノハ、養老年
ニ於テ二十年デアリマス、而モ保
險者ハ五十五歳ニ達シナケレバ駄目
デ、斯ウ云フコトデアリマス、而モ平
均俸給ノ三分ノ一ト云フヤウニ規定サ
レテ居リマス、此ノ厚生年金ト從來軍
人、官吏ニ對スル現行恩給法トノ比較對
照ヲシテ見タ時ニ、如何ニソコニ封建
的ナ思想ガ此ノ保險制度ノ上ニ露骨ニ
現ハレテ居ツタカト云フコトハ、私申
上ゲル必要ハナイト思フノデアリマス、
ソコデ他方ノ壓力ニ依ツテ軍人ニ
對スル恩給ハ停止サレ、同時ニ官吏ニ
對スル恩給ト云フ問題ニモ、根本的ナ
「メス」ヲ加ヘナケレバナラナイ現狀ナ
ニ於テ、今政府ガ意圖シテ居ル社會保
險ト此ノ厚生年金トノ關係ヲドウ云フ
ヤウニ調整シ按配シテ行クノカ、此ノ
點ハ全國ノ勤勞階級ガ齊シク注意ヲ以
テ見テ居ル所デアリマス、隨テ私ハ此
ノ點ニ關シテ厚生大臣カチ率直ニ御所
見ヲ承ツテ置キタイト存ズルノデアリ
マス

○舊田國務大臣 此ノ問題ハ御承知ノ
通り政府ニ於テ社會保險審議會ヲ設ケ
マシテ、既ニ十日ニ第一回ノ會合ヲ開
キ、其ノ後ノ會合ノ結果、今小委員會
ニ於テ具體的ノ案ヲ研究シテ居ル最中
デアリマスガ、政府部内ニ於テモ此ノ
問題ノ取扱ハ社會全般ニ及ボス影響極

ス、軍人恩給ノ廢止ニ伴ツテ、文官恩給ヲドウスルカト云フ點ニ付キマシテハ、確定ハ致シテ居リマセヌガ、大體ノ空氣トシテ文官ニノミ恩

給制度ヲ維持スルコトハ宜シクアル
イト云フノガ絶對ノヤウデアリマス、
又軍人恩給ノ停止、文官恩給制度ノ廢止ニ伴フテ之ヲ社會保險制度ニ引直ス
トスレバ、技術上ノ程度ニ厚生年金
保險ト同ジヤウナ制度ガ適用出來ルカ
ト云フコトモ尙ホ研究中デアリマス
ガ、恐ラクサウ云フ途ハ開カレノデ
ヤナイカト想像サレマス、サウ云フ場
合ニ於キマシテモ、恩給ノ若年停止ト
云ヒマスカ、例ヘバ四十歳、或ハ四十
五歳以下ノ恩給權利者ハ其ノ年齡ニ至
ルマデ恩給ヲ受ケルコトガ出來ナイト
云フヤウナ制限ヲ設ケルコトハ、現在
ノ情勢ニ於テ必要ナコト考ヘラレマス、
又最近マデ行ハレテ居リマシタ軍
人恩給ト果シテ同額ノ保險金ヲ支拂フ
途ガアルカドウカ、恐ラクハ從來行ハ
レテ居ツタ恩給年金ヨリモ低イ保險支
拂ヲスルヨリ外ニ途ガナイノデハナイ
カト云フコトモ考ヘラレマス、併シ是
ハ何レモ只今ノ空氣中上ゲタノミデア
リマシテ、具體的ノコトハ更ニ數日
後ニ審議會ノ具體的成案ヲ得テ、政府
ノ決定ヲスル順序デアリマスカラ、今
日直グニ満足ニ御答ヘスルコトハ難カ
タイト思ヒマス

○正木委員 商工大臣、大藏大臣、總
理大臣ガ御見エニナリマセヌカラ、大
臣ニ對スル質問ヲ留保致シテ置キマシ
テ、私ノ質疑ヲ一應打切ツテ置キマス
○添田委員長 今ノ正木君ノ御注文ノ

シテ戴キマス、厚生大臣ハ豫算ノ本會
議ニ出テ來イト云フノデ今呼バレテ居
リマス、然ハ政府委員デヤツテ戴キタ

イト思ヒマス。ト山崎君
○山崎(常委員) 折角ノ御言葉デゴザ
イマスケレドモ、大體労働組合法ニ付
キマシテノ質問ハ同僚正木君カラ色々
詳シク御質問下サイイマジタノデ、私ハ
大體労働組合法案ト該般ノ労働政策ニ
付テノ御質問ヲシタイト思ヒマス。ノ
デ、一寸勞政局長デハ都合ガ悪イノ
デス、厚生大臣ナリ、或ハ總理大臣ナ
リ、農林、商工ト云フ方面ニ申出テア
リマス。デ其ノ方面デナケレバ一寸質
問ガ出来ナイノデス
○浜田委員長 デハ川崎君
○川崎(已委員) 私ハ厚生大臣ニ御尋
ネスルヤウニ腹案ヲ作ツテ參ツタノデ
ゴザイマスガ、只今本會議ニ參ツテ居
ラレルト云フ御請テアレバ、厚生省ノ
政府委員ニ御尋ニヨラシテ、大臣ニ對ス
ルモノハ後ノ機會ニ保留シタイト思ヒ
マス、労働組合法ノ内部ノ實質ニ關ス
ル二、三ノ點デゴザイマスガ、労働組
合法ヲ作ルニ付テ、労働者ノ顧問官
吏ニマデ及ボシヤウデゴザイマスガ、
郵便配達夫、停車場附ノ小運送
夫、裁判所ノ代書人ト云フヤウナ仲間
ニマデ組合法ニ加入サセルノデゴザイ
マスカ
○高橋政府委員 川崎委員ノ御質問ニ
御答ヘ致シマス、只今御述べナリマ
シタヤウニ、郵便配達夫及ビ其ノ他ノ
人々ニ對シテハ、本法ハ適用ガアル譯
デアリマス

○川崎 巳 委員 小作人及び耕作ニ當
ルテ雇ル農業者組合ト云フノモ、國シク
大ニザイマスカ
○高橋政府委員 御答ヘ致シマス、本
法ニ於ケル農村ノ小作人ハ、御承知ノ
ヤウニ地主カラ一定ノ額サノ土地ヲ賃
借致シマシテ、獨立ノ經營ヲ營ンデ雇

勞働者トハ、其ノ性質ガ若干異ルト思
ルノデアリマス、隨ヒマシテ本法ノ
ハレルノデ、本法ノ適用ナキモノトシ
テ居リマスガ、其ノ經濟上ノ實體ハ、
本法ニ規定シテ居リマスル勞働者ト非
常ニ近イ性質ヲ持ツタ居リマス、隨ヒ
マシテ本法ノ如キ立法ガ必要デアラウ
トハ思ヒマスガ、只今ノ所本法ノ適用
ハナイト云フ風ニ御理解願ヒタイト思
ヒマス、尙ホ附加ヘテ申シマスレバ、
前段ノ御質問ニ於テ、代書人ニ付キマ
シテモ本法ノ適用ガアルト申シマシタ
ガ、代書人ハ獨立ノ營業者デアリマシ
テ、雇傭主、使用主ガナイノデ、之ニ
ハ適用ガナイ、斯ウ云フ風ニ御訂正ガ
願ヒタイト思ヒマス

○川崎(巳)委員 ソコデ消防夫、巡查
等ニ至ツテハ、組合員ニ加入シテハイ
ケナイト云フ御趣意ノヤウニ承ツテ居
リマスガ、郵便電信等ノ配達夫、小荷
物ヲ運シダリ配達シタリスル仲間、是
ガ職業デモスルト、一般ノ民衆、或ハ
延イテハ公安ヲ害スル場合モ色々アル
ト思ヒマス、其ノ點ニナルト消防夫ヤ
何カト餘リ隔リガナイト思ヒマスガ、
當局ハ如何ニ御考ヘデゴザイマセウ
カ

○高橋政府委員 御述ベニナリマシタ
巡查、消防夫ハ、組合結成並ニ加入ハ
禁止シテ居リマスガ、郵便配達夫、小
荷物ノ配達夫ト云フ風ナモノニハ許サ
レテ居ル譯デアリマス、許サレテ居ル

モノガ「ストライキ」等ヲ起シタ場合ニ
ハ、非常ナ支障ヲ起スカラ、警察官、
消防職員トノ關係上之ヲ容認スベキカ
ト云フ。風ナ御新デアリマスガ、御述ベ
ノヤウニ郵便達夫、小荷物運達夫ガ
同盟罷業ヲ起シタ場合ニ支障ノアルコ
トハ、洵ニ其ノ通りデゴザイマス、併

シナガラ期ウ云フ公益事業 郵便船
夫ノ如キハ國家ノ事業デアリマスガ、
公益、公共ニ關スル點ガ強イノデ、命
令ノ定ムル所ニ依ツテ、サウ云フ風ナ
罷業ニ對シテハ相當ノ制限ヲ加ヘタ
イ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス
○川崎(巳)委員 次ニ團結權ノコトニ
付テ御伺ヒタイノデアリマス、團結
ヲシテ勞働組合ヲ勞働者ガ結成シテ、
鑛山ナリ、工場ナリヘ、此ノ工場デハ
組合員以外ヲ使ツテハイケナイ、斯ウ
云フ要求ヲシマスル時ニ、所謂當該勞
働組合獨占主義デ以テ押通サウトスル
時ニハ、ソナナ權利ヲ認メルト云フノ
デアリマスカ
○高橋政府委員 只今ノ御質問ニ御答
ヘ致シマス、サウ云フ風ナ、御述ベニ
ナリマシタヤウナ問題ニ付テハ、法律
ニ規定スルコトナク、其ノ問題ヲ現實
ノ其ノ場合ノ問題ニ任シテ置クト云フ
風ニ致シタイト思ツテ居リマス
○川崎(巳)委員 勞働組合ノ各種ノモ
ノニ付テハ、各ニ基本金、運動費等ガ
要ルノデ、積立金ヲ會員カラ徴集シ
テ、積立デアルコトハ當然ヤツテ居ルコ
トデアリマスシ、認メテ居ルコトデゴ
ザイマセウガ、外國ノ例ニ見マスル
ト、積立スル準備ノ爲ニ、其ノ時ノ
食料持リ目標トシテ、積立デアルコトヲ
禁ジテ居ル所カ少クナイヤウニ思ヒマ
ス、即チイザト云フ時ニハ弱者、所謂
勞働者ハ、實ニ團結シテ罷業スルノミ

フコトガ大部分進シテ來タヤウデゴザイ
マスルガ、ソレニ依ツテ勞務ノ衝突ナ
ドモ續メルコトモ出來マスシ、其ノ他
又勞働者ノ方ガ經營ヲシタリ、ドツカ
ノ新聞社デヤツテ居ルヤウニ、經營者
ヲ排除シテ代ツテシマフコト云フヤウナ
機會モ少クナツテ、兩方相助ケテ行ク
ヤウニナリマス、歐米ノ屋主ノ方ハ段々
紐ヲ緩メテ、勞働者ノ經營參加權ヲ
認メテ來テ居ルヤウニ拜見シマスガ、
日本デモサウ云フコトハ御考ヘニナリ
マセヌデセウカ

○高橋政府委員 勞働者ノ經營參加ノ
問題デゴザイマス、是ハ大臣カラモ御
答辯ガアリマシタガ、經營參加ヲ法律
ニ依ツテ強制スルコトハ致サナイデ、
勞働契約其ノ他ノ契約ニ趣サウ、而シ
テ勞働者ガ經營ニ參加スルコトハ望マ
シイコトデアアル、斯ウ云フヤウニ存ジ
テ居リマス

○川崎(巳)委員 ソレト日本内地ニ於
テ朝鮮人、支那人ノ勞働者ガ發端其ノ
他ニ勤イテ居リマシタガ、今歸リツ、
アリマス、是ガ他日日本ノ勞働事情ノ
要望ニ依リマシテ又來ルコトガアルカ
モ知レマセヌガ、サウ云フ場合ニ華人
ヤ朝鮮人ノ間ノ勞働組合ヲモ、此ノ法律
ニ依ツテ認メル御意思デゴザイマスガ
○高橋政府委員 御答ヘ致シマス、朝
鮮人、支那人ニ對シマシテモ、本法ノ
適用ヲ我ガ日本ニ於テハ認メヨウト存
ジマス

○川崎(巳)委員 更ニ此ノ問題ニ關聯
致シマシテ、日本ノ勞働組合ガ、單ニ
組合ノ聯合體ヲ作ルコトハ本法認メ
テ居ル所デゴザイマスガ、其ノ聯合體
デケデハマダ立チ行カヌデ、外國ノ
同種類ノ勞働組合若シハ其ノ聯合體
ト提携スル必要ガ或ル時ニハ起ルデヤ

ナイカト思ヒマス「ヴエルサイエ」デ格ヘ
マシタ國際勞働機關ノ規定ノ前文ノ中
ニモ、斯様ニ其ノ點ヲ認ツテ居リマ
ス一國ニ於テ人道的勞働條件ヲ採用
セザル時ハ他國ノ是ガ改善ヲ企圖ス
ルモノニ對シ障礙トナルベキニ依リ」
斯様ノ機關ヲ設ケルト云フコトデアツ
テ、之ニハ日本モ賛成シ、大正八年ノ
「ワシントン」デ開カレタ第一回ノ國際
勞働會議ニ代表ヲ派遣シテ參加サセ、
昭和十二年以マデ續イタト思ヒマス、
斯様ニ一ツノ國バカリデハアリマセヌ
デ、國際勞働機關ニ連綿スルコトヲ
御認メニナルカ、先年國際聯盟ヨリノ
脫退ニ於テ、日本ハ初メハ聯盟ハ脫退
シテモ、勞働會議ハ脫退セズニ居リマ
シタガ、ソレモ止マツテ居リマス、是
等ノ復活スル御意思ガオアリデセウ
カ、ソレヲ御伺ヒ致シマス

○高橋政府委員 我ガ國ノ勞働組合
ト、國際關係トノ繋リヲ持タセル意思
アリヤ否ヤトノ御尋ネデアリマスガ、
只今御承知ノヤウニ、國際關係ハ孤立
デゴザイマス、全歐國際關係ハ遮斷サ
レテ居リマスノデ、現在ノ問題ニナラ
ナイノデアリマス、唯將來國交ヲ許サ
レタ場合ニ、而モ條約ヲ成立スルカ
云フコトガアリ得ルト思ヒマスガ、只
今ハ特ニ本法ニ關シテハ、何等ソレト
ハ關係ガナイ譯デアリマス

○川崎(巳)委員 國際聯盟ニ附屬シテ
居リマスル國際勞働機關ハ、第二回目
ニ起ツタ世界大戰中ニ、色々變シ
テ居リマシテ、「スイス」カラ其ノ本部
マデモ引揚ケ、「カナダ」、米國、「イギ
リス」ナドデアアラノ仲間ダケ會合
ヲ致シテ居ツタヤウデゴザイマス、ソ
レトハ別ニ新シイ運動ガ起リマシテ、
去ル十月、十一月、バリ」デ大キナ會合
ヲ開イタコトハ當局モ御存知ノ通りデ
アリマス、ソレニハ以前ハ外ノ方ニ立
ツテ居リマシタ「ソワイエ」聯邦ノ代
表者モ加ハリマシテ、大イニ努力ヲシ
テ居ツタヤウデゴザイマス、其ノ議事
ノ經過、決議ノ模様等ハ當局御存知
ト思ヒマスカラ此ノ點ハ述べマセヌ
ガ、其ノ決議ノ中ニ、是カラ「ドイツ」
ノ勞働者ニ對シテモ、我々ノ方カラ手
ヲ伸ベテ行ツテ教授スル、段々ト條
件ヲ引上ゲテヤルヤウニシタイ、斯ウ
云フ項目ガアリマス、又他ノ項目ニハ、
「ドイツ」バカリデハナイ、日本ノ方ニ
モ左様ニシタイ、斯ウ云フ決議モ加ハ
リマシマスガ、モ少シ詳シク材料ヲ
持ツテ居リマスケレドモ時間ノ都合デ
止シマス、サウ云フ場合ニ向フカラ手
ヲ伸ベテ、日本ノ勞働組合ガ相當ニ健
全ニ發達シマシタ場合、之ニ引入レヨ
ウトスル場合ニハドンナ風ニサセル積
リデアリマスガ、今カラ其ノ豫想ス
ルコトモ餘リ遠クナイカモ知レマセヌ
カ、何ツテ置キタイ

○高橋政府委員 大分假定ヲ含シテノ
コトデアリマスガ、悲シイコトニ我ガ日
本ハ敗戰國デアリマシテ、御承知ノヤ
ウニ外交關係ヲ全部遮斷サレテ居リマ
ス、隨ヒマシテ勞働運動ト雖モ其ノ中
ニ入ツテ居リマスノデ、國際ノ正式
ニコチラニ招請ガアルト云フコトデア
ツテモ、之ヲ受ツシテ交際關係ヲ結ブ
ト云フコトハ、聯合國司令部ノ承認ニ
ナラナイ所デアルト思ツテ居リマス、
早ク國交ヲ回復シ加入スルコトヲ希望
シテ居ルノデアリマスガ、現在ノ所ハ
已ムヲ得ナイコトト思ツテ居リマス

○川崎(巳)委員 最後ニ罷案對策ト云
フコトニ付テ御尋ネ致シタイト思ヒマ
ス、罷案ヲ避ケル爲ニ勞働委員會ヲ設
置サレテ、ソレニ色々折ラセル仕
組ニナツテ居ルコトハ、此ノ勞働組合
法ノ大層良ク出來テ居ル點ノ一ツダト
思ツテ敬意ヲ表シマス、ケレドモ是ガ
徹底シナイト云フコトヲ私ハ痛感スル
者デアリマス、勞働委員會ガ調停スベ
シ、或ハ仲裁スベシト云フ所マデハア
リマスケレドモ、調停シ得ナカツタ時
ニドウスルト云フコトガナイノデス、
罷案デ大運動ガ起ツテ、軍隊マデ繰出
サナケレバナラヌヤウナ騒ギノ時ニ
ハ、調停機關ガナイカラ效力ヲ失ツテ
手ニ負ヘナクナツテ來タ場合デア
リマス、英國ナリ運輸交通ノ從業員ナ
リガ、左様ナコトニナツタ時ハドウ云
フ風ニ計ラヒマスカ

○高橋政府委員 罷案對策ノ一ツトシ
テ、勞働委員會ガ罷案ニ付キマシテ或
ル調停案ヲ與ヘタ場合ニ、ソレニ從ハ
ズ調停ガ成ラナカツタ場合ニ、何モ明
文ガナク罷案對策ニ依ル點ガアル
ノデハナイカト云フ御質問デアリマス
ガ、洵ニ其ノ通りデアリマスガ、調停
等ニ付キマシテハ本法ハマダ規定
ニ足ラナイ點ガ多クアルト思ヒマス、
隨ヒマシテ現行ノ爭議調停法ヲ近イ將
來ニ於テ改正致シマシテ、其ノ缺陷ヲ
補ヒタイト思ツテ居リマス、而シテ御
述ベノヤウな場合ニモ、調停ノ拘束力ノ
問題ノ一ツトシテ、其ノ中ニ考ヘテ見
タイト云フ風ニ思ツテ居リマス

○川崎(巳)委員 近ク御制定ニナレバ
ソレヲ待ツ外ゴザイマセヌガ、只今御
研究中デゴザイマセウカラ、其ノ時ノ
御參考ニ申上ゲテ當局ノ御意向ヲ伺ヒ
タイノデアリマス、北米合衆國ニ於テ
ハ此ノ場合ニ於ケル禁止命令ヲ、裁判
所デ出サユウニ特定シテ居リマス、是
ハ御存ジノ所ダト思ヒマス、所謂「イ
ンジャンクシヨ」ヲ掛ケルト言ツテ

居リマスガ、此ノ顯著ノ例ハ一般ノ公
益ニ關シマシテ社會不安ヲ來シ、公徑
ヲ著シク害スル場合ニ裁判所ガヤルノ
デゴザイマシテ、是デ名高イ實例ハ澤
山アリマスケレドモ、先代ノ「セオド
ル・ルーズヴェルト」ノ次ニ「タフト」ガ
アノ大統領ノ地位ニ就クマデニハ、名
裁判官トシテ名ヲ擧ゲテ居ツタカラ
デ、「シカゴ」ノ鐵道大「ストライキ」ヲ
アノ所轄ノ裁判所ニ居リマシテ、公安
ヲ害スルト云フ理由デ以テ禁止サレタ
ト承ツテ居リマス、只今ハ食糧ガナク
テ困ル、石炭ガナクテ困ルノデアリマ
スガ、此ノ炭礦夫ヤ鐵道從業員ガ、若
シ「ストライキ」ヲシタシタナラバ、
日本ハ一部分ニ食糧ガアツテモ他ノ所
ニ運ベナイ、益々飢饉ニ迫ツテ來ル、
又汽車ヤ食糧ヲ運ブ石炭ヲ掘ツテモ、
鐵道員ノ罷業デ輸送力ニ故障ガ起レバ
又飢饉ニ迫ル、斯様ナ場合ニハ國家ノ
治安ニ關スルコト甚大ナルモノデゴ
ザイマスルガ、之ニ對シテ「インジャ
ンクシヨ」禁止命令ヲ出ス權利
ヲ裁判所ニ與ヘルカ何カシナケレバ繼
マリガ付クマイト思フ、此ノ勞働法案
ニ依ルト雖モ治安ヲ害スルコトヲシタ
勞働組合ニ對シテハ、裁判所ハ解散命
令ヲ出スツ云フノデアリマスガ、解散
命令ヨリモ、其ノ以前ニ罷案ヲ止メサ
セルコトヲ最後ノ鍵トシテ握ツテ居ナ
ケレバ、治安ガ維持サレナイト思ヒマ
スガ、當局ノ御所見ハ如何デアリマス
カ

○高橋政府委員 只今「アメリカ」ノ
「インジャンクシヨ」ノ例ヲ説イテ、
近イ將來ノ爭議調停法ノ改正ニ付テノ
御意見ヲ承リマシタ、洵ニ有益ナル御
質問トシテ參考ニ致シタイト思ヒマ

ス、御述べノヤウナ非常ニ限ラレタ必
要ノ場合ニ於テハ、將來改正スル場合
ニ其ノ調停法ニモ禁止命令ト云フモノ
ガ適用出来ルヤウナ條文ヲ置キタイト
思フテ、折角考慮中デアリマス

○川崎(巳)委員 次ニ同盟罷業ニ依ル
暴動ノ起ツタ時ニハドウスルカト云フ
處置ニ付テ伺ヒタイ、是ハ内務省司法
省ノ問題ニナルカモ知レマセウガ、便
宜上厚生當局ノ御意見ヲ承ツテ置キマ
ス、罷業ガ生易シイ時ナラバ色々ノ解
決方法モアツテ解決スルコトガ出来マ
セウガ、サウ云フ時ニハ感情問題ガ變
方ニ起ツテ、是ガ激化シ、暴動ノ起ル
コトガアリ得ル、殊ニ嶺山ハ人里離レ
タ山奥デアリマスカラ、特定ノ、小サ
ナ町ナドハ滅茶々ニスルコトモア
ル、炭礦ノ多イ米國ノ中西部デハ之ニ
手古摺リマシテ、巡查ノ手デハ及バナ
イノデ、州兵ヲ派遣スルコトガ要ニア
ル、ソレデモ仕様がナイ時ニハ正規兵
ヲ派遣スルコトモアルヤウデアリマ
ス、所ガ日本デハ今や巡查ハ甚ダ微弱
デアリシ、憲兵ハナクナリ軍隊モナ
イデアリマスカラ、左様ナ暴動ノ場合
鎮壓ニ付テドウ云フ手段ヲ執ルカ承リ
タイノデアリマス

○高橋政府委員 暴動ニ付テノ御話デ
アリマスガ、厚生當局ト致シマシテハ、
使用者ノ側モ労働者ノ側モ、正シキ本
法ノ精神ヲ能ク理解シテ、爭議ハ成ベ
ク起ラナイト云フコトヲ念願シテ居リ
マス、特ニ労働委員會ト云フ新シイ制
度ヲ設ケマシタ所以ノモノモ、斯カル
コトノナカラシコトヲ切願シテ、本法
トシテハ類別ノナイ民間カラノ有力者
ヲ擧ゲテ組織シ、而モ規定モ非常ニ事
細カニ規定シテ、此ノ委員會ノ發動ニ
依ツテ罷シムベキ労働界ノ事件ガ起ラ

ナイヤウニ致シタイト念願シテ居ルヤ
ウナ譯デアリマス、ソレヲシモ切切ツ
テ尙且ツ悲シムベキ状況ガ起リマシタ
ナラバ、現在ノ警察力ヲ以テ之ヲ鎮メ
ルト云フ風ニ、出来ルダケ救シテ行キ
タイト云フ風ニ存ジテ居リマス

○川崎(巳)委員 左様ノ極端ノ場合
ハ、想像スルモ甚ダ救起ノ難イ事ト避
ケタイト思ヒマスガ、實際ニ於テハ往々
餘所ノ國デ起ルコトモアルノデ、ソ
レデ申上ゲタノデアリマスガ、否餘所
ノ國バカリデハナク、日本ニ於テモソ
レノ類似ノモノガ最近起ツタノデハナ
イカト思フ、現ニ露工大臣ガ貴院カ
デ説明サレタ所ニ依ツテモ、終戦後華
人、鮮人ノ暴動ガ炭礦等ニ起ツテ、始
末ニ負ヘヌノデス(ト云フ風ナ話
ガアリマシタ、ソコデ日本人労働者自
體ノ暴動モ起ルカモ知レマセウガ、華
人、鮮人ノ労働者モ混ヘレバ階分ソレ
ガアルドラウト思フ、ソレガ暴動デナ
クトモ、今ハ鎮撫力ガ殆ド薄弱無力ニ
ナツテ居ツテ仕様がナイ事情ニアルノ
デ、今炭礦労働ト云フヤウナモノガ始
末ニ負ヘナクナツタドラウト思ヒマ
ス、ソコデ現ニ私ハ嶺山ノ事例ヲ持ツ
テ居リマスガ、茲ニ一ツ簡單ナ最モ
小規模ナモノヲ申上ゲマスルト、茨城
縣ノ海岸地方ノ常磐炭ノ方面ニ或ル町
ガナツテ、其處ニ一、二箇月前デアリ
マスガ、芝居ノヤウナモノガアツタ、
所ガ華人労働者ガ其處デ大キナ騷ヲ出
シタリナドシテ暴レ廻ハルノデ、市カ
ラ特派シテ居ル巡查ガソレヲ制シタ、
サウスルト巡查ガ一人カ二人デセウカ
ラ暴レル方ハ數人デソレヲ制シタ、
又又戰勝國ト云フ氣ニナツテ亂暴
スルモノデスカラ、巡查ヲ酷目ニ遣
ハシタ、サウスルト地方事務所ノ所長

ガ其處ニ居リマシテ、餘リ酷イカラ巡
査ノ方ヘ幾つか班ヲヤウナ態度デ仲裁
ヲシタ、ソレデモ中々鎮カナイノデ、
駐屯兵ノ米國兵隊ヲ遣シテ來テ置ツタ
ケレドモ、諸兵士厄介ダト思フテ華人
労働者ヲ押ヘ付ケモシナカッタノデ、
ゴチヤノ、ニナツテ解散シタ、所ガ今
度華人労働者ガ日本ノ官廳ノ一部分デ
アル地方事務所ヘ有ノ華人ガ二人來
テ、所長ニ面會ヲ強要シテドカノ、入
ッテ來タ、所長ガ先刻歸ッテ汗ヲ拭キ
ナガラ椅子ニ坐ツテ居ルノヲ見付ケテ
呼子ヲ吹イタ、サウスルト華人二、三
十人ガドカノ、入ッテ來テ、部下ノ大
勢居ル前テ所長ヲ取圍ンデ袋叩キニシ
テシマッタ、ソレデ所長ハ痛カッタシ
ンテラウケレドモ涙ヲ笑ヒ聲ニ紛ラシ
タ、斯様ナ治安ノ維持セラレナイコト
ガ既ニ今日起ツテ居ルノデ、是カラ華
人、鮮人ヲ入レテ労働組合ヲ作ラセル、
サウシテ其ノ山ハ我々ノ仲間デケシカ
是カラ使ハヌヤウニシテ賃ヒタイト云
フ要求ヲシテ、或ル村里ノ炭礦ヲ占領
スル、ソノナコトヲシタラ今ノ警察力
デハトモモ仕様がナイ、警察力ト云フ
モノハ當然アリマスケレドモ、騷擾ハ
令當局ノ仰シヤルヤウナ生易シモノ
デハナイ、駐屯軍ノ居ル所ナラバ、大
キナ暴動ハ駐屯軍ニ壓シテ、其ノオ
手傳ヒシ得テ、空中カラ飛行機ヲ飛バ
シテ威力ヲ示シテ置クヤウナコトモアリ
マスガ、其ノ駐屯軍ヲバ何十里モアル所
カラ來テ置ツテ、日本ノ治安ニ與カッ
テ實ト云フコトハ、日本人トシテ好
マナイ所デアリマス、警察官ノ手デヤ
リ得ル程度ナラバ問題ハナイノデス
ガ、地方ノ警察デハ人手ガ使カシカ居
ナイノデスカラ、抗夫ガ「ストライキ」
ヲ起シ、多數ヲ待ンデ暴動ヲ起ス、暴

性ノ暴動ニ對シテハ到底無力デセウ、
ソレニ外國カラ輸入シタ主義者モア
リ、混亂シタ主義者モ居リマスカラ、
ソレニ日本人モ居ルデアリマセウカラ
混亂想ヲバシテアル、是ハ懸念ノ問題
ダト思ヒマス、サウシテヤハリ現在ノ
内務省關係ガデ鎮メ得ル確信ガアリ
マセウカ、アレバ其ノ御見込ヲ伺ヒタ
イ

○高橋政府委員 朝鮮人若シテハ華人
ノ入ッテ居リマス所ノ事業場ニ於ケル
爭議ハ、御述べノヤウニ相當深刻性ヲ
持ツテ居ルノデアリマス、是ガ取締ハ
中々困難、感ズル點デアリマス、隨ヒ
マシテ其ノ見地カラ救シマシテモ、朝
鮮人並ニ華人労働者ヲ一刻モ早ク我が
國內ヨリ出スルコトヲ必要ト存ジ
マス、運輸省トモ協議ノ上聯合軍ト諒
解ヲ得マシテ、船腹ノ許ス限リ迅速ニ
多量ニ之ヲ本國ニ歸ス手段ヲ今講ジテ
居ル最中デアリマス、雖デ我が日本カ
ラ朝鮮人、支那人ノ在住ノ者ノ居ラナ
クナルコトヲ希望スルモノデアリマ
ス、其ノ間ニ於ケマシテ色々ノ深刻ナ
ル爭議ノ起ツタ場合ニ、我が日本ノ實
力トシテハ只今ノ所警察力ヨリ是レ以
上期待スベキモノハナイノデアリマ
ス、散漫國ノ現狀ヨリ已ムヲ得ナイ所
ト存ジマス、併シシナガラ非常ニ事態急
ニシテ、再暴軍大ニシテ、警察力ノミ
ヲ以テシテハ治安ガ保障ナイト云フ場
合ニ於ケマシテハ、聯合軍ニ御願ヒシ
テ是ガ鎮壓ニ當ルト云フ風ナコトモ、
想像シ得ルト云フコトヲ御諒承願ヒタ
イト思ヒマス

○川崎(巳)委員 事情ハ分リマシタ、
聯合軍ガズツト未來永劫居テ呉レバ
ソレモ出來マセウガ、其ノ假定ハ一寸
離カシイト思フ、華人、鮮人ノ抗夫ニ

今大急ギデ本國ヘ歸ツテ賃フコトガ手
續中ナコトモ、私モ見テ居リマスガ、
ソレデハ我方デ勢力不足ナ場合ニ、彼
等ノ輸入スルト云フ御積リハ只今ナイ
ノデアリマスガ、御方針ハ如何デアリ
マセウカ

○高橋政府委員 段々日本人ノ労働者
モ勤務意欲ガ昂揚シテ參リマスレバ、
我が日本人ダケデ、遠キ將來ハイザ知
ラズ、差當リノ所ハ間ニ合フ、斯ウ考
ヘテ居リマス

○川崎(巳)委員 次ニ労働組合ノ實情
デゴザイマスガ、政府ハ大層先定リラ
シタ労働條件ヲ此處ニ出シテ居ルニ拘
ラズ、日本ノ労働運動ノ實情ハ中々ソ
コマデ行カヌヤウニ思ヒマス、ト云フ
ノハ労働者ノ數ト組合ノ數トハ甚ダ隔
ツテ居ツテ、労働組合ニ加入シテ居ル
者ノ數ハ極メテ貧弱ナモノデス、ソレ
デ極メ新シイ所ハ私存ジマセウガ、厚
生省カラ資料ヲマデ戴イテ拜見シテ居
リマセウガ、昭和十三年、十四年、十
五年ノ三箇年ヲ見マスト、労働者總數
ニ對シテ労働組合ニ加入シテ居ル者
ハ、十三年ニ於テハ五分、十四年
來ニ於テハ四分一厘、更ニ十五年ニ於
テハ二分一厘トナツテ居リマス、是ハ
職力段々深刻ニナツテ來マシテ、勞務
報國會其ノ他ノ活動ガアツタノデ、勞
働組合運動ナドハ下火ニナツタノニモ
依リマセウガ、労働者自體ノ立場トシ
テハ餘リ組合アツテ欲シナイヤウニ思
フガ、此ノ労働法ガ出來タナラバ政府
デ餘程御獎勵ニナラナケレバ組合カ出
來ナイ、モリ(ト云フ風)盛上ッテ來
テ出來テ居ルト云フ形ト違ヒマスガ、
此ノ觀察ハ當局ニ於テハドウ御覽ニナ
リマスガ

○高橋政府委員 我ガ日本ノ過去ノ勞

動者ノ數ハ極メテ貧弱ナモノデス、ソレ
デ極メ新シイ所ハ私存ジマセウガ、厚
生省カラ資料ヲマデ戴イテ拜見シテ居
リマセウガ、昭和十三年、十四年、十
五年ノ三箇年ヲ見マスト、労働者總數
ニ對シテ労働組合ニ加入シテ居ル者
ハ、十三年ニ於テハ五分、十四年
來ニ於テハ四分一厘、更ニ十五年ニ於
テハ二分一厘トナツテ居リマス、是ハ
職力段々深刻ニナツテ來マシテ、勞務
報國會其ノ他ノ活動ガアツタノデ、勞
働組合運動ナドハ下火ニナツタノニモ
依リマセウガ、労働者自體ノ立場トシ
テハ餘リ組合アツテ欲シナイヤウニ思
フガ、此ノ労働法ガ出來タナラバ政府
デ餘程御獎勵ニナラナケレバ組合カ出
來ナイ、モリ(ト云フ風)盛上ッテ來
テ出來テ居ルト云フ形ト違ヒマスガ、
此ノ觀察ハ當局ニ於テハドウ御覽ニナ
リマスガ

勞働組合結成ノ歴史ヲ續ツテ見マス、
勞働組合ノ盛ンデアリマス「イギリス」
等ニ比較スレバ、必ズシモ組合ノ結成
サレタ數並ニ之ニ參加シタ勞働者ノ數
ハ多クナインデアリマシテ、其ノ點ハ
御述ビ「通りデゴザイマス、併シナガ
ラ「ボクダム」共同宣言ニ依ツテ我ガ日
本ノ行クベキ途ガハツキリシテ居ルノ
デアリマス、斯ウ云フ情勢ノ下ニ於キマ
シテハ、恐ラク將來ハ相當活潑ニ組合
モ結成サレ、之ニ加入スル勞働者ノ數
モ殖エテ來ルノデハナカラウカト考ヘ
テ居リマス、本年十二月二十日マデニ
厚生省ニ到著致シマシタ報告ヲ綜合致
シマス、ソレマデニ結成サレマシタ
組合ガ六十五ゴザイマス、サウシテ組
合員ノ總數ハ約七萬數千ト云フ風ニナ
ツテ居リマス、併シナガラ結成準備中
ノモノガ其ノ他ニ族出シテ居リマス、
隨ヒマシテ日ナラズンテ此ノ組合ノ
數、並ニ之ニ加入スル勞働者ノ數ハド
ンドン殖エテ行クダラウト思ヒマス、
大體ノ狀況ヲ申上ゲテ御答ヘニ致シタ
次第デアリマス

ノ向上ヲ圖リマス共ニ、經濟ノ興隆
ニモ寄與セシムルト云フコトガ狙ヒデ
アリマス、隨テ此ノ勞働組合法ノ骨子
ヲ成スモノハ、即チ團體ノ團結權デア
リ、同時ニ交渉權デアリマス、同時ニ
使用者側ト間ニ於ケル團體協約權デ
アルノデアリマス、然ラバ此ノ團體協
約ヲナスコトニ依ツテ、人格ノ平等
等ノ立場ニ立ツテ産業ノ興隆ニ寄與ス
ルト云フコトハ、取りモ直サズ現在ノ
我ガ民族ノ幸福ヲ圖リノデアリマシ
テ、日本全國ニ於ケル勞務階級ハ、斯
カル意圖ノ下ニ、産業ニ寄與スル爲ニ
全國的ニ今勞働組合ノ結成ヲ急ギ、又
勞働組合ノ結成ヲ終ツテ居ルノデアリ
マス、唯、厚生大臣ト間ニ於キマシテ
モ私ハ質疑ヲ重クナノデアリマスガ、
此ノ團體ノ協約ヲナス場合ニ當ツテ、
最モ問題ニナリ得ルモノハ勞働條件デ
アリ、其ノ勞働條件ノ過半ヲ占メルモ
ハ即チ勞働資金デアアルノデアリマ
ス、然ルニ現在ノ内閣ハ價格系列ニ對
スル技術的ナ處置ヲ満足ニ執ツテ居ラ
レマセス、インフレーション防止ニ對スル根
本ノ施策モ明示致シテ居リマセス、隨
テ勞働組合カ其ノ使用家又ハ使用團體
ト團體協約ヲ締結致シマス爲ニ一ツノ
基準目標、方針ト云フモノガ實ハ樹立
致サナインデアリマス、今月十二日
ノ勞働資金ハ、二月後ニ於テハ必ズシ
モ妥當ニアラズト云フノガ、現實ノ日
本ノ物價ノ狀態デアリマス、隨テ又一
方資本家側カラ見タ場合ニ於テモ、生
産ヲ再開シテ日本民族カ要求致シマス
生活必需品、或ハ農機具、或ハ鐵山ニ
於テ使ヒマス「ローフ」其ノ他ノ機械等
ヲ生産致サウト致シマシテモ、此ノ「イ
ンフレーション」防止ニ關スル政府ノ根本的ナ
方針ガ明示サレズ、勞務階級ニ取ツテ

ハ俸給資金、其ノ他ノ基本的ナコトヲ
明示サレナイ限り、屢々大蔵大臣ハ生
産ノ興隆ヲ圖ルコトガ當面最モ急ヲ要
スル課題デアアルト云フコトヲ仰セナ
ラレテモ、ソレハ現實ノ問題トシテハ
不可能ニ近イコトニナツテ居ルノデア
リマス、隨テ之ニ對スル大蔵大臣トシ
テノ所信ヲ的確ニ御述ビ下サレコト
ハ、全國ノ勞務階級ガ今後自己ノ團結
ヲ通ジテ、日本ノ生産興隆ノ面ニ於ケ
ル寄與スベキ方針ヲ明示サレルコトニ
ナルト共ニ、資本家團體ト致シマシテ
モ、自己ノ生産事業ヲ通ジテ産業ノ振
興ニ寄與スル方向ヲ明カニサレルコト
ニナラウト思フノデアリマス、ドウカ
此ノ點十分御諒承下サイマシテ、明確
ニ斯クスレバ斯クナルノダ、先程厚生
大臣ハ斯様ニ申サレマシタ、資金ノ根
本問題ニ付テハ方針ガ立タナインノダ、
其ノ時「ニ依ツテ致シテ行クヨリ仕
方ガナインノダト云フコトデアッタノデ
アリマス、ドウカ明確ニ御所信ヲ述ベ
ラレマセス、希望致シマス

○滋澤國務大臣 只今ノ御問ヒデアリ
マスガ、是ハ中々難シイ問題デゴザイ
マシテ、私自身モ實ハサウ云フ方面ハ
特ニ勉強シテ居リマセス爲ニ、其ダ御
答ヘシニクイ問題ダト存ジマスガ、仰
セ「インフレーション」如クニ、日本ノ是カラ先
ノ勞働組合トソレカラ企業家ト間ノ
協約、是ノ根本ヲ成ス大キナモノハ勞
働條件デアアルト云フコトハ御尤モデア
リ、其ノ條件ノ特ニ大キナ部分ガ資金
ノ問題デアアル、ソレノ基準如何、殊ニ
最近ノ「インフレーション」ノ過
程ニ於テハ是ハ決メラレナイデハナイ
カ、之ニ對スル基本方針ハドウカ、斯
ウ云フ御話ノ「インフレーション」ガ進行シ
ツ、アルト云フコトハ否定シ難イ所デ
アリマス、終戰前ニ於キマシテハ大キ
ナ一ツノ需要者ガアリマシタ、ソレガ
ドン「需要致シマスカラ物ノ生産ガ
出來タノデアリマス、此ノ殆ト全部ノ
生産ヲ繼續シテ居リマシタ需要者ト云
フモノガ、一遍ニボツトナクナツテシ
マヒマシタ、其ノ關係終戰後ハ凡
シノ生産工場ニ於キマシテハ、ドウシテ
宜イカ分ラナクナツテシマヒ、其ノ繼
續ガナクナツテシマヒマシタ、隨テ一
時全ク麻痺狀態ニ入ツタト云フコトハ
御想像ノ通りダト思ヒマス、ソコデソ
レ何處マデモ「インフレーション」ニ
ナラシメナイ爲ニ公定價格ヲ作り、各
種ノ方策ヲ立テテ戰時經濟ヲ運行シテ
參ツタノデアリマスガ、御承知ノ通り
終戰ノ少シ前カラ是ガ守レナクナリ、
ソコニ大キナ破綻ヲ來シテ居ツタコト
モ御承知ノ通りダト思ヒマス、ソシテ
終戰後此ノ僅カナ期間ニ於キマシテ、
直チニ公定價格ヲ外セト云フ聲ハ澎湃
トシテ起ツタノデアリマス、是ハ單ニ
工業的ナ生産物ノミナラズ、凡シハ青
果物ヲ通ジ、又生活必需品ヲ通ジテ、
其ノ聲ハ澎湃トシテ起ツタノデアリマ
ス、之ニ對シテハ我々トシテハ威ル意
味ニ於キマシテ、政府全體ガ執ルベキ
措置ニ對シテ果シテ萬全デアッタカド
ウカト云フコトハ、私見トシテハ多少
ノ疑ヒヲ持ツテ居リマス、終戰後コソ
或ハ大キナ意味ニ於テノ大統制ガ必要
デアッタト云フ風ニ考ヘテ居リマス、
併シソレハサウデアッタニシテモ、事
實上ノ問題トシテソレハ統制スルニハ
如何ニ統制スルカト云フ問題ト、ソレ
カラ會テノ物價ニ關シマス法令ノ錯
雜シ複雑サハ實ニヒドカッタノデアリ
マス、是ガ整理ヲ先ツシテ如何ナルモ

ノヲ先ツ統制スベキカ、如何ナル點ニ
於テ統制スベキカ、如何ナルモノハ放
任スベキカ、如何ナルモノハ本當ノ自
治ニ任シテ宜イカト云フヤウナ點ノ整
理ヲ、先ツシナケレバナラナクツタ
思フノデアリマスガ、不幸ニシテ戰前
カラ政府ハ物價ニ對シマシテハ、實ハ
統一シテ取扱ツタ所ハナカッタムデア
リマス、是ハ甚ダ率直ニ申上ゲマスガ、
事實デアッタト思ヒマス、自然ノ生産
物ハソチラデアル、總テガ皆運所デ
ヤツテ居ル、而モ物價問題ハ非常ニ面
倒臭イモノデアリマスカラ、皆ガ本氣
ニナツテ取組マウト思ハナカッタヤウ
ナ所ガアツタノデアリマス、此ノ點ハ
洵ニ中譯ナカッタト感ジマス、ソコデ
其ノ點ニ鑑ミマシテ實ハ此ノ内閣ニナ
ツテカラ、農林省及ビ商工省ト御相談
ヲ致シマシテ、實ハ共同デ大藏省ガ幹
事トシテ、ソコニ物價部ヲ造リマシテ、
茲デ應々本格的ニ物價トブツツカツテ
見ルト云フコトニナツタ次第デアリマ
ス、現在探ツテ居リマス方針ト致シマ
シテハ、今マデノ物價ハ單ニ公定價
格ヲ造ツタニ過ギナイノデアリマシ
テ、物價ヲ如何ニスベキカト云フ本當
ノ研究ガ、實ハマダ日本トシテハ足
リナカッタト云フコトヲ告白セザルヲ
得ナイノデアリマス、所ガ最近ニ於キ
マシテ、殊ニ食糧ノ絕對的不足ト云フ
ヤウナコトガ大キナ原因ニナリマシ
テ、「インフレーション」ノ進行ハ強ク
ナツタ、其ノ時偶々斯ウ云フ日本トシ
テハ劃期的ナ法案ガ出來、ソコニ勞働
條件ヲ決メナケレバナラヌト云フ所ヘ
參リマシタ爲ニ、此ノ點ガ非常ニ拙イ
時期ニ來タノデアリマス、結局問題ハ
「インフレーション」ニ對シテ如何ナル手ヲ打ツ
カト云フコトデアリマスガ、是モ眞ニ

難シイ問題デアリマシテ、是ハ單ニ通貨ノ面カラミ押ヘルコトハ、單純ニハ出來ナイコトハ御承知ノ通りデアリマス、ソコデ私ハ始終生産々々ト申シテ居リマシガ、是ハ大ニ意味ノ生産デアリマシテ、其ノ中ニ本當ノ生産ヲ純粹ニ増加スルコト、或ハ偏シテ居ル物資ヲ本當ニ出シテ賣ソコト、供給ヲ確保スルコト、ソレカラ輸入ノ問題、ソレカラ再生産ノ原料ヲ取テ更ニ造ツテ行クコト、總テデアリマスガ、今マデノ公定價格其ノ儘デハ、幾ラ造レト云ツテモ事實上經理ノ合ハナイカラ出來ナイデアリマス、ソレデヤ之ヲドウ外シテ何處ヘ持ツテ行カト云フコトニナリマシテ、一ツノ問題ニナリマス、實ハ答ヘラレナイノガ現狀ヲ思ヒマス、ソコデ私達ノ今ノ考ヘ方トシマシテハ、コ、暫クノ間仕方ガアリマセヌカラ、公定價格ナリ何ナリ外シマシテ、サウシテ或ル段階ヘ持ツテ行ツテ一ツノ段階ヲ造ル、ソレ以上ハ上ゲナイト云フ所ヘ我ハ努力ヲスル以外手ハナイノデアリマス、今茲デ戰前ノ物價トカ、今マデアリマシタ公定價格ヘ下ゲヨウト云フ努力ハ、到底無駄ダト思ヒマス、サウデナシニ、或ル程度マデ上ゲテ、ソコデ止メル、ソレハ結局今ノ主要食糧ノ價格ヲ基準トシテ所、何處カヘ持ツテ行ツテキツチリソレニ系列ヲ造ル、所謂失調ヲ起サナイヤニスルコトガ大切ダト思ヒマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ是カラ努力ヲスル、唯今直グニ茲デ以テ物價ヲドウ云フ風ニスルカト云フコトヲ仰セラレマシテモ、私ニハ今御答ヘガ出來ナイ、直グニ是ハ斯ウスルト云フコトハ御答ヘ出來ナイ、唯問題ハ多少ノ期間ヲ得マシテ、生産ト

睨ミ合セ、茲デ以テ一ツノ均衡ヲ取ルト云フコトガ必要ナノデアリマス、此ノ均衡ニ凡ル努力ヲ拂ツテ、均衡サセテソコデ止マルト云フコトニ持ツテ行カナイトイカヌ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、今ノ御問ニ對シテ甚ダ不満足カモ知レマセヌガ、現在トシテハサウ御答ヘスル外ハナイト存ジマス、ソコデ、ソレデヤ基準ガ取レナイデヤナイイカト云フ仰セデアリマス、サウ云フ意味カラ申シマス、極ク短期間ニ於ケル現在ノ基準ノ取り方ト致シマシテハ、甚ダ難カシイ問題デアルト言ハザルヲ得ナイト存ジマス、御満足ヲ得ラレナカッタカモ知レマセヌケレドモ、御答ヘト致シマス

○正木委員 率直ニ申上ゲマス、何ダ分シタヤウナ分シナイト云フ結論ニ實ハナルノデアリマスガ、不幸ニシテ私學問ガナイ爲ニ、大臣ノ今ノ展開サレタコトガ或ハ分シナイノカモ知レマセヌガ、一寸私共ニハ分シナイノデス、一口ニ言フト斯ウ云フコトニナリマセウカ、今大臣ガ言ハレタヤウニ、私ハ戰後ニ於テコソ、私ノ今ノ當時考ヘタ打ツベキ手ハ、高度ノ國家ノ計畫性ニ立ツテ大ニ統制ノ棒ヲ打ツベキ筈ダ、斯ウ云フ風ニ實ハ私考ヘテ居ツタ、所カ戰爭終結ノ前日本ノ政府ノ執ツタ官僚統制ノ誤ノ失敗ガ、人民ノ猛烈ナ不平等反感ニ遭ツテ、其ノ攻撃ニ依ツテ一々日本民族ノ上ニ大キナ不幸ヲ齎シテ思フノデス、是ハ學問デナクテ、實際ノ姿ガサウダト思フノデス、ソコデ今全國ノ勞働階級ト云フカ勞動階級ガ自己ノ社會ノ向上ノ爲ニ、同時ニ其ノ生活ヲ護ル爲ニ團結ヲシテ、而シテ團體ノ交渉權ヲ持ツテ、

今地方ノ上爭議ガ同時ニ全國ノ二捲起ツテ居ルノデアリマス、此ノ聲議ノ姿ヲ眺メテ見ルト、ソレガ其ノ地方、其ノ土地ノ事情ニモ依リマセヌガ、區々デアリマス、例ヘバ佛給ノ三倍値上ヲ要求シテ居ル所ガアルカト思ヘバ、三倍値上ヲ要求シテ居ル所モアル、二倍値上ヲ要求シテ居ル所モアル、區々デアリマス、而モ「インフレ」ヲ進行ト云フモノハ急速ナ「デフレーション」ヲ來テ居リマス、是ハ正確デ信用スルニ足ルト言ヘバ足ル、足ラナイ言ヘバ足ラナイノデアリマスガ、今東京デオ米ガ最高七十圓シテ居ルト言フ人モアリマス、五十五圓ダト言フ人モアリマス、オ酒一升ガ二百三十圓ダト言フ人モアリマス、種々様々デアリマス、併シナガラ聯合軍デ賣ツテ居リマスルハ、煙草ガ三十圓デアリマス云フコトダケハ間違ヒアリマセヌ、日本ノ政府ガ出シテ居リマスル光ガ大抵十圓カラ十四、五圓ノ間ヲ上下シテ居ルコトモ間違ヒアリマセヌ、私ハ月半分ハ北海道ニ歸リ、半分ハ東京デ暮シマスルガ、東京ニ居ツテ此ノ東京ノ物價ノ姿ヲ眺メテ北海道ニ歸ルト、一箇月前ノ札幌ノ價格ト云フモノハ、一箇月後ニ行ツタノデハ正當ナ價格デハナクナツテ居ルノデス、北海道ニ於テモ、札幌市ヲ中心ニシテ物價ノ上ケマスト、オ米ガ一俵今十二圓四錢シテ居リマス、今年ノ春マデハ三百五十圓カラ四百圓デアリマシタ、五升要所請馬鈴薯デアリマスガ、北海道デアレドモ馬鈴薯一俵、札幌市デ今自五十圓カラ六十圓ヘマセヌ、隨テ折角勞動階級解放ノ爲ノ「ボツダム」宣言ニ依ツテ規定セラレタ勞動組合法案ト云フモノガ出テ、團體協約權ヲ作ラウトシテ、理應アル資本家

團ト理解アル勞働組合トガ契約ヲシヨウトシテモ、此ノ本質ノ問題ガ解決サレナイ限り、契約ノシヨウガナイノデス、ソコデ資本家カラ言ハセムナラバ、平和産業ニ如何ニ寄與シヨウト努力シテモ、前途ニ對スル見通シガナイ限り寄與ノシヨウガアリマセヌ、勞働組合モ亦前途ニ對スル見通シガ立タナイ限り、之ニ寄與スルコトハ出來ナイノデアリマス、ソコデ今アナタハ或一定ノ線デ價格ヲ抑ヘルノダ、斯ウ云ハレマスルガ、其ノ時期然ラバ如何、是ガ當然私ハ問題ニナツテ來ルト思フノデス、隨テ今ノ内閣ハ世間デ言ハレテ居ルヤウニ中間内閣デアル、此ノ中間内閣ガ果シテ此ノ行ク所ヲ知ラナイ速急ナ「デフレーション」ヲ行ク此ノ「インフレ」ヲ、根本ノ三喰止メルコトガ出來ルカドウカ、併シ世間デドノヤウナコトヲ現内閣ニ言ハウトモ、私ハ現内閣ノ責任ニ於テ根本ノ三手ヲ打ツナケレバイカナイノデアリマス、私ノアナタ方ニ申上ゲルコトハ、率直ニ言ヘバ我々日本民族ハ、是レ以上悲惨ナ目ニ遭ヒタナラバ、我々民族ニ互ヒガ、互ヒニ喰ヒ合ハナクテハナラヌト云フ程悲惨ナ狀況ニ迫ラレタデアラウト云フコトノ見通シハ、誰人モ想像ガ出來ルノデアリマス、其ノ悲惨ナ狀況カラ救フ爲ニハ如何ニスルカ、此ノ酒々ト進行スル「インフレ」ヲ喰止メルト云フコトト同時ニ、平和産業ヲ急速ニ振興スル、ソレガ爲ニ全國ノ勞働階級ガ眞ニ民族ノ意識ニ燃ニ立ツテ、産學ノ中ニ自ら飛込シテ、勤勞階級ノ力ニ依ツテ産業ノ興隆ニ寄與スルト云フコトデナケレバナラヌト思フノデアリマス、此ノ考ヘ方ハ少クモ全國ノ自

覺シタ勤勞階級ハ必ズ持ツテ居ルト思フ、決シテ社會ノ公器タル新聞從業員ノ諸君ガ、伊達ノ道樂デ勞働組合ヲ組織シタノデハナイ、交通機關ニ從事シテ居ル從業員ノ諸君ガ、伊達ノ道樂デ勞働組合ヲ作ツタノデハナイ、各々現在ノ民族更生ノ爲ニ、勤勞階級ノナスベキ責任ノ範圍ニ於テナサナケレバナラナイト云フ、一ツノ名譽ト責任感ヲ以テ私ハ作ツテ居ルモノダト思フノデアリマス、所ガ不幸ニシテ本議會開會以來、政府カラ的確ナ責任アル「インフレ」防止ニ對スル根本方針ヲ承ルコトガ出來ナイト云フコトハ、何レノ面カラ言ツテモ、私ハ日本民族ニ取ツテ大キナ不幸ナコトダト考ヘテ居リマス、然ラバ其ノ時期如何ト云フ問題ニナリマスガ、御答ヘシテ戴ナケレバ已ムヲ得マセヌガ、只今大臣ガ御述ベニナツタ程度デハ、私ハ全國民ガ納得出來ナイノデアリマス、豫算總會ニ於テモ、本會議ニ於テモ、此ノ問題ガ實ハアナタカラモ商工大臣カラモ、明確ニ明示サレテ居ラナイノデス、居ラナイ爲ニ全國民ハ納得出來ナイノデアリマス、納得出來ルヤウナ分リ易イヤウナ方法デ御答辯ヲ願ヘレバ結構ダト思ヒマスガ、ドウカ一ツ御答辯ヲ御願ヒシタイト思ヒマス

○渡邊國務大臣 今ノ非常ナ御熱心ナ、又殊ニ勞働組合ヲ結成スル從業員ノ愛國ノ熱情ニ燃ニテ御話ハ、非常ニ感銘ヲ承ツタ所デアリマス、現在ノ實情ニ依ツテ新シイ物價ノ水準ヲ制定スルト云フコト、ソレハ結局物價ノ相対互、又實金其ノ他ノ調整ヲ取ツテ之ヲ維持スルコトニ努力スルト云フコトガ主眼デアリマス、之ニ依ツテ生活ヲ安定サセ、勤勞意欲ガ出、生産意

欲方出ル、斯ウ云フ風ニシタイト云フノガ我々ノ念願アリマス、唯仰セノ如クニ現在物價ノ激騰ガ所々ニ奔騰シテ居ルト云フコトモ事實デアリマス、是ハ全ク失調ノ爲メデアリマス、サウシテ之ニ對シマスル一番ノ問題ハヤハリ食糧問題デアリマス、食糧ノ問題ノ在リ方如何ガ、之ヲ根本的ニ解決スルノデアリマス、御話トシテ、又政策トシテ進メテハ述べラレテナカタカモ知レメセウガ、政府全體ノ考ヘテ居ルコトハ、此ノ一點ニ盡キルト思フノデアリマス

○正木委員 私ノ大蔵大臣ニ對スル質問ハ是デ打切りマス

○添田委員長 大蔵大臣ガ御出席ノ間ニ、何カ御尋ネノアル方ハ、此ノ際順序ニ拘ラズ御許シテモ宜イト思ヒマス

○小林(鐵)委員 私ハ正木君ノ御話ニ對スル只今ノ御答辯デハ、「インフレ」防止ニ付テハ、色々手ハ打ツテ居ルケレドモ、確信ガナイト云フ風ニシカ、私共ニハ聞エナイノデアリマスガ、「インフレ」ハ「インフレ」トシテ進ムモノト假定致シマスルト、労働者トシテハ、協約ヲ致シマスニシテモ、企業者トシテ労働者ト協約ヲ結ビマスニシテモ、ソコニ一ツノ基準線ガナケレバナラヌト思フノデアリマス、ソレニ付キマシテハ、物價ノ昂騰ニ拘ラズ、實質上ノ賃金即チ「ミナル」ノ賃金ハ移動致シマスニシテモ、一定ノ生活水準ヲ維持スル爲ニ要スル實質上ノ賃金ヲ變ヘナイ爲ニ色々方法ガゴザイマス、御承知ノ通り「スライディング・スケール」ナドト云フ方法モゴザイマス、何カサウ云フ方法ヲ採用スル必要ガアルト存ジマス、此ノ前ノ「ヨーロッパ大

戰後」ノ「ドイツ」ニ於キマシテモ「インフレ」ハ進行シテモ一九二二年頃マデハ唯其ノ進行ニ任セテアレヨノコト言ツテ居ツテ、別段對策ヲ講ジナカタヤウデアリマスガ、一九二三年頃ニ至リ、或ハ金本位ニ直シ場合ノ比率デ計算スル「ゴールド・レヒエス」或ハ係數ヲカケテ計算ノ基礎ヲ明カニスル「インデックス・ツアール」サウ云フヤウナ方法ニ依ツテ「インフレ」ガ進シテ物價ガ移動スルニモ拘ラズ或ル一定ノ動力ナイ水準ヲ確保スル爲ニ色々方法ガ講ジラレタノデアリマス、日本ニ於テ果シテ「インフレ」ハ進行ガ避ケ難イモノデアルト致シマスナラバ、何カソコニ價ノ變ラナイ賃金ヲ決メル方法ヲ今ニシテ採用スル必要ガアルト存ジマス、現ニ今問題ニナツテ居

リマス農地調整法ニヨル土地價格又ハ小作料金納ノ問題デモ、現在ノ價格決メラレテ、ソシテ實際授受スル時ニハ千分ノ一ノ價額シカナカタ云フヤウナコトガアリマシテ、經濟秩序ノ破壊デアリマス、之ヲ防止スル爲ニ何カソコニ基準ニナル方法ガ政府ニ於テ考ヘラレテ居ルデアリマセウカ、如何デアリマセウカ、今ノ調子デ無準備ノ儲デ進シテ行キマス、公債ノ發行等ニ於テモ應募者ガナクナルノデハナカ、尤モサウ云フ風ニナレバ、其ノ價ノ非常ニ低落シタ貨幣ガ買収シテシマヘバ、公債ガ一應ナクナツテシマフカラ宜シヤウデゴザイマスケレドモ、ソレデハ國家ノ財政ノ運用ガ出来ナクナツテシマヒマス、一九二三年末ニ至リテハ、「ドイツ」デハ公債ノ應募者ガナクナツテシマヒマシタ、窮餘ノ結果實物表示ノ公債、「ザハ・アンライエ」ト云フモノヲ發行シマシタ、例ヘバ石

炭何「トシ」ト明示シタ「コーレン・アソライエ」石炭公債、或ハ水力電氣何「キロワット」ト表示シタ「ワツサ・クラフト・アンライエ」水力電氣公債ガ出テ盛ンテ工業家ニ歡迎サレ、政府ガ之ニ依ツテ辛ウジテ歳入ヲ得ルニ至ツタノデアリマス、右ノ如キ實物賃金、實物公債又ハ實賃金確保ニ付キ、又「インフレ」對策ニ付キ何カ御考ヘハナイノデアリマセウカ

○滿澤國務大臣 私ハ甚ダ學問ガナイノデサウ云フコトハ存ジマセウカ、隨分ソレハ面白イヤリ方ダト思ヒマス、之ヲ賃金ニ及ボスカドウカト云フ問題ニナリマス、寧ロ厚生省ノ方ノ問題カトモ思ヒマスガ、サウ云フコトニ付キマシテモ、一ツ研究シテ見タイト存ジマス

○小林(鐵)委員 尙ホ關聯致シマシテ、只今政府ニ於テハ財産稅並ニ戰時利得稅等大額ノ課稅ガ計畫サレテ居ルサウデアリマス、ソレデケノ犧牲ヲ御拂ヒニナリマスナラバ、其ノ本ニナル貨幣制度ノ根本ニ斧鉞ヲ加ヘラレテハドウデアリマセウカ、アレダケ取ツタトシマシテモ、貨幣其ノモノノ價ガ浮動シテ安定シナカタナラバ、又第二段ノ手ヲ加ヘナクツタナラマ、ソコデ今直ぐ金本位ニ還ルト云フコトハ到底不可能ダラウト思ヒマスガ、全然日本ノ責任ニ於テ米貨表示ノ公債ヲ發行スル譯ニ行カモノデセウカ、勿論現在ハ國際貿易ハナク、隨テ圓ノ弗圓「レイト」ハナイノデアリマスケレドモ、進駐軍公表ノ通り「ドル」ガ日本ノ十五圓ト假定致シマスレバ、千五百圓デ百「ドル」ヲ表示スル、公債ヲ發行スルノデアリマス、若シ此「レイト」ガ變ツタナラバ、「ドル」ヲ基準ニシテ、其

ノ時ノ価値デ以テ返ス、斯ウ云フ公債ヲ發行シテハドウデセウカ、又現在マデノ公債モ此米貨公債ニ乘換テ許ストスレバ、其ノ「レイト」デ少クモ通貨ハ安定スルト思ヒマス、何カサウ云フコトニ付テ往年ノ「ドイツ」ノ「レンテ」マルク「ト」云ツタヤウナ方式デ「ドル」ト「リント」スル、直接ニ「リント」スルコトハ、或ハ出来ナクデモ、日本ニ於テ米貨ヲ以テ表示シテ通貨ヲ安定サセルト云フヤウナコトハ、御考ヘニナツテ居ラヌノデアリマセウカ

○滿澤國務大臣 通貨ノ問題ハ非常ニ重要ノ問題デ、無論色々點ヲ考ヘテ居リマス、殊ニ今仰セラレマシタ米國ノ關係デアリマスガ、結局日本ノ經濟ソレ自身ハ是ダケ終メラレタ日本ノ國土ノ中デ、ソレデケデ生キテ行クト云フコトハ難カシイノデアリマス、結局ドウシテモ海外カラ原料ヲ取ツテ輸出スル、又ソレニハ「クレヂット」ガ必要ニナル、其ノ「クレヂット」ヲ取リ方如何ニ依リマシテ、餘程經濟ト云フモノノ立直リガ早クナリマス、私共ノ今考ヘテ居リマスノハ、サウ云フ狀態ニ一刻モ早ク持ツテ行キタイト云フコトデアリマス、ソレニハ今マデノ戰時的ナ財政デハ承知シナイノデアリマ

ス、兎ニ角一應ハ綺麗ニシテ、ハツキリシタイ、向フテシテモ其ノ努力ヲ買ツテ貰フ、全然減茶苦茶ニシテ置イテ金ヲ貸セト言ツテモ金ヲ貸シマセウ、サウ云ツタヤウナコト全體ヲ能ク見マシタ上デ、向フテシテハ其ノ意ノアル所ニ向ツテ行キマセウシ、日本全體トシテモソレデ持ツテ行カナケレバナラヌト思フノデアリマス、サウ云フ意味ノ一ツノ過程ト致シマシテモ、自分デ出来ルモノハ自分デ整理スルト云フコ

トノ努力デケハ必要ダト考ヘテ居リマス、其ノ努力如何ニ依リマシテアチラモサウ云フヤウナ考ヘニナツテ來ルト信ジテ居リマス、今ノ御考ヘ何レモ御尤デゴザイマスノデ、十分研究スルコトニ致シマス

○小林(鐵)委員 私ハ「クレヂット」ヲ設定シナケレバ、今ノ米貨公債ガ發行サレナイモノトハ考ヘナイノデアリマス、現ニ「ドル」ト「レンテ」ガ本當ノ價值デナクテモ、一對十五ト云フ價值ガアルノデアリマスカラ、ソレヲ基準ニスレバ何カ據ル所ガアル、今ノ日本ノ通貨ト云フモノハ、全然金本位ヲ離脱シテ紙幣ト云フモノハ何モ「ベース」ガナイノデアリマス、裏付ガナイノデアリマス、何ニ比較シテモノヲヤクテ居ルノカ分ラナイノデアリマスカラ、ソレデ「クレヂット」ヲ設定シナクテモ、今ノ案ノヤウナコトハ實行サレサウニ私ハ思ヒマスガ、如何ナモノデアリマセウカ

○滿澤國務大臣 十分ソレハ研究スルコトニ致シマス

○川崎(巳)委員 私ハ簡單ナ事務ニ付テ、一言大蔵大臣カラ御答ヘ願ヒタイト思ヒマス、是ハ質問ノ性質ニ鑑ミマシテ、此ノ間答デケハ速記録ニ載セナイコトトシ、又新聞記者諸君ニ致シマシテモ外ニ發表セヌヤウニ、委員長ノ御取計ヒヲ希望致シマス

○添田委員長 ソレデハ速記ヲ中止致シマス

(速記中止)

○添田委員長 速記ヲ始メマス、新聞社ノ諸君モ只今ノハドウゾ秘密ノ問題トシテ御取扱ヒヲ願ヒマス

見ガアリマシタガ、殊ニ正木サンハ實
本主義カ社會主義カト云フコトモ仰シ
ヤツタ、今ハ社會主義デナケレバ救ヘ
ヌト云ツタヤウナ意見ガ勞働組合方面
ヤ社會黨方面ニ於テハ盛シナツテ居
ルシ、又一般大家モソレニ共鳴シテ居
ルト云フヤウニ、非常ニ信念ヲ缺イテ
居ル、又社會主義ヲ主張スル者モ、昨
日マデハ皇道主義ヲ唱ヘ、國家主義ガ
盛シナナルト國家主義ヲ唱ヘテ日ノ丸
ノ旗ヲ振ツテ居ツタ、斯ウ云フ時局ニ
ナレバ又社會主義ヲ唱ヘル、是デハ勞
働者モ非常ニ迷フト思ヒマス、私ハ勞
働者ヲ救フコト云フコトハ單ニ物ノ面ダ
ケデハ救ヘヌト思フ、ソレハ下手ヲス
ルト却テ墮落サシテ、共ニ亡ビル道ニ
行クダケダ、今大藏大臣ハ食糧ノ問題
ダケデト仰シヤツタガ、私モ固ヨリ物
ト云フモノハ大切ダト思フ、併シ勞働
者ノ幸福ト言ハズ、全國民ヲ入レテ、
更ニ大キク言ヘバ全人類ノ幸福ガドウ
シタラ得ラレルカト云フコトヲ考ヘマ
スト、決シテ物ダケデハイカヌ、或ハ
組織ガアルト云フダケデモイカヌ、ソ
レ以上ノモノガ大事ナ問題デアル、
「イエス」デモ難シヤツタ孔子様デモ言
ツテ居ルヤウニ、慈悲トカ、愛トカ、
仁義トカガナケレバ勞働組合ヲ作ツテ
モ魂ガ入ツテ来ナイ、ドウモ組織ダ
ケ作ツテ何ノ指導ガ出来マスカ、唯形
ダケ作ツテ魂ヲ入レナイ、是デハ階級
闘争ガ烈シクナツテ、敗戦亡國ノ結果、
益々産業ハ萎靡シ悲慘ナルコトニナル
ト私ハ思フ、斯ウ云フ直感ガスル、之ニ
對シテ今後ノ經濟復興ノ途ハ色々經濟
上、技術上ノヤリ方ノ上手下手モアル
デセウガ、根本ハアナタノ祖父サンガ
經濟人トシテ最後ニ孔子ノ仁ヲ御説キ

ニナツテ居ル、ソコマデ行ク、經濟ハ
皆私ハ愛ダト思フ、宗教的ノ信念マデ徹
シナケレバ、眞ノ經濟ノ安定ト云フモノ
ハアリ得ナイ、經濟ヲ通ジテノ國民ノ幸
福ト云フモノハ得ラヌト思フ、ソレ
ニ付テ一ツハ今課題ニナツテ居ル重大
ナ問題、是ハ宜イ加減ナコトデハ片ガ
付カヌ、私ハ「ボリシエウイズム」ノ革命
ニ至ルカ、サマナケレバ、天子様ヲ擁
シテノ日本の革命ヲ斷行スルカ、ソ
レ以外ニ途ハナイト思フ、今ノ内閣ノ
如キ無信念ノ宜イ加減ナモノハ吹飛シ
デシマフ、デアルカラ大藏大臣モ眞ニ
國家ヲ思ヒ、アナタノ天才ヲ發揮シ
テ、日本ノ爲ニ御奉公ササラウト思フ
ナラバ、私ハ道義性ノ重大サヲ深く御
考ヘ下サツテ、先ヅ根本ノ肚ヲ決メナ
ケレバイカヌ、ソレニ付テ從來ノ「ブ
ルジョア」的ノ考ヘ方ヲ捨テテ、而モ
社會主義デハイカヌ、ソレハ日本ノ國
體觀ニ徹スルコト、國體の信念ニ徹ス
ルコトダ、先ヅソレニ付テハオ釋迦サ
ンデモ道ヲ説クニハ裸ニナツテ居ル、
功利主義ヲ其ノ儘ニシテ置イテハキリ
ガナイ、段々慾ガ深クナル、極端ナ功
利主義ヲナクシテ減私奉公ノ道ニ徹ス
ルヤウニナラナケレバイカヌ、大藏大
臣、愛ノ道ヲ説ケ、今大勢ノ者ハ食フ
ニ困ツテ居ル、暴動ノ前後、革命ノ前
夜デアル、其ノ時ニ經濟ノ先達アル
大藏大臣ハ、私ハ理想トシテハ「イエ
ス」ノ道、釋迦ノ道ヲ經濟人トシテ御
執リニナリ、一切無所有、裸ニナリ、
全國民ニ裸ニナツテ、俺モ親ノ財産ヲ
受ケ繼イデ、トシテ「拍子」大藏大臣
ニナツタノデアアルガ、自分モ難局ニ處
シテ深く考ヘル、唯徒ラニヤリ方ノ上
手下手ダケデハ收マラス、皆ナガイシ
チキヤヤツテ 宜イ加減ノ胡麻化シデ

ハイカヌ、斯ウ言ツテアナタモ國ヲ愛
スル至誠ガアルナラバ、財産ヲ投ゲ出
シナサイ、資本家モ目覺メ、勞働者モ
唯階級的ノ利己主義ヲ斷絶シテ聞ヒ取
ルト云フコトダケデハ駄目ダト言ツ
テ、勞働者ヲ叱リツケナサイ、勞働者
ニ迎合スルヤウナコトデハ日本ハ亡ビ
ル、サウナレバ「ボツダム」宣言ヲ履行
スルコトモ出来ナケレバ、國際平和ニ
寄與スルコトモ出来ヌ、私ハ此ノ點ニ
付テ言ヒタイノデスガ、唯勞働者ノ解
放ト云フコトハ組織ヤ物ノ點ダケデハ
イカヌ、サウ云フコトヲ御考慮ツ
テ、大藏大臣、出来レバ「僕ハ大藏
大臣ガ財産ガアルカナイカ知ラヌガ、
一寸ハアルダラウト思フ、一寸ハアツ
ラモソレハ多寡ノ問題デハナイ、精神
ノ問題ダカラ、思ヒ切ツテソレヲ投ゲ
出ス、ソレデ裸ニナリ、資本家ノ手本
ヲ示ス、アナタガ資本家カドウカ知ラ
ヌガ、マア資本家ノ孫位ノ所デセウ、
サウシテ日本ノ經濟人ハ斯ウ行クベキ
ダ、資本家ハ全ク奉仕的ノ考ヘデ、仁
愛ノ精神ニ徹シテ此ノ國難ニ御奉公ス
ル、勞働者モ權利ダケヲ主張スル取込
主義デハイカヌ、勞働者ノ方モタシ
ナメデ之ヲ「リード」スル、其ノ根本ノ
指導精神ハ資本主義デハナイ、西洋流
ノ社會主義デハナイ、況ヤ「ボリシエ
ウイズム」デハナイ日本ノ國體ノ指導
精神ニ基イテ、平和的ノ指導原理ヲ勞
働階級ニ對シテ、ハツキリトアナタハ
經濟的ノ指導者ノ立場カラ御示シヨ願
ヒタイト思フ、ソレガ日本ヲ復興スル
根本ニナルノデハナイカト私ハ思ツテ
居ル、其ノ邊ノ所ヲ宜イ加減ニシテ置
イテハ、迎モ駄目ダト思フ、此ノ儘デ
行ケバ國體モ怪シクナリ、下手スレバ
「ボリシエウイズム」ノ革命ニナルカモ

知レヌ、自由主義者ハ社會主義ニ對
リ、社會主義ハ共產黨ノ溫床ニナル、
酒々タル外國ノ壓力ト又國內ニ於ケル
人心ノ顛覆ト相俟ツテ、私ハ「ボリシエ
ウイズム」ノ革命ニナラナイト保障
出来ナイト思フ、ソレ程時局ハ私ハ深
刻ダト思フ、ダカラ此ノ重大ナ立場ニ
オイデニナリ、又サウ云フ政治的ノ深
サモ御理解願ヘルアナタハ、良キ素質
ヲ持ツテ居ルト思フ、大藏大臣ノ祖父
サンノ滋澤榮一氏ハ、仁愛ノ道ヲ最後
マデ説カレタ、今仁愛ノ精神ニ徹シテ
政治ガ行ハレテ居ルカト云フト、實ニ
インチキ極マル、無責任ナンド、宜イ
加減ナンド、又質問スル者モ答辯スル
者モ議會人皆宜イ加減ナンド、何トカ
言ヘタ義理ハアリハシナイ、何ヲ言ツ
テ居ルノダ、フザケテ居ル、過去ノコ
トヲ洗ツテ見レバ、東條内閣ノ時ハ東
條ニ便乗シテオ世辭ヲ言ヒ、チツトバ
カリノ役割ヲ貰ハウト思シテ居ツタ、
ゾレガ敗戦亡國ノ今日熱ヲ上ゲ、社會
主義ニ媚ヲ賣ツテ居ル、實ニ重大ナ時
デアルカラ、大藏大臣出来ラナラバ裸
ニナツテ、全國ノ資本家ニ範ヲ示シテ
戴キタイ、是ハ釋迦ノ立場、「イエス」キ
リスト」ノ立場、或ハ眞ニ日本ノ國體
ノ理想ヲ自分ガ行ズル其ノ立場ニ立ツ
テ、經濟人ニ説キ導キヨシテ戴キタ
イ、斯ウ念類スルノデスガドウデス
カ、精神の根本ノ問題、輕視シテ、
唯組織ナカバカリ論議シテ居ルノハ
駄目ダト思フノデスガ、御感想ヲ承リ
タイ、出来レバ大率直ニ裸ニナツテ
ヤル、サウシタ御言葉ヲ願ヒタイノデ
ス、サモナケレバ辭メテ貰ツタ方ガ宜
イ、斷ジテ出来ナイナラバ新日本ハ救
ヘナイ、裸ニナツテヤツテ貰ツテモ
ドウカ分ラナイ位重大ナ時期デス

國民ハソレヲ待望シテ居ル、唯一人裸
ニナルト云フコトハ死ネト云フコトヂヤ
ナイ、切腹セト云フノデハナイ、裸
ニナツテ一切ヲ捧ゲ、自身ガ真心ニ徹
シテ國家ニ御奉公スルト云フ其ノ趣旨
ニ立ツテ戴キタイ、ソレガ國家ヲ救
ヒ、ソレガ光トナル、私ハアナタヲ期
待スルガ故ニ、アナタノ肉體ノ中ニ良
キ血ガ流レテ居ルコトヲ深信スルガ
故ニ、希望ヲ以テ御願ヒスルノデス
ガ、ドウカ一ツサウ云フヤウニオヤリ
ヲ願ヒタイノデス
○遊園國務大臣 只今ノ御話有難ク承
リマシタ、私ハ或ル意味ニ於テ前カラ
相當ノ決心ハ持ツテ居リマス、唯實現
ノ方法其ノ他總テノ點ニ於テ、私ハ卑
怯ナコトハシナイ積リデアリマス、ソ
レダケ申上ゲテ置キマス
○赤尾委員 モウ一ツ御尋ネシマス
ガ、此ノ間新聞ニ發表シナリマシタガ、
兒玉爵士夫ト云フ者ガ支那デ三十三
億ノ金ヲ儲ケタサウデス、サウシテ三十
億ノ財產ガアルサウデスガ、大藏省ノ
許可ヲ得テ運シタ金ガ一億圓トカ發表
サレテ居ル、ドウシテ一體ソナナ若僧
ニ何億萬ト云フ金ガ出来タノカ、僕等
ハ小遣ニモ困ツテ居ルノニ、果シテ
テシマツタ、我々ガ迷惑シテ居ル、國
家主義ヲ看做シテ居ル者ガ何億ノ富
ヲ作ツタ、何モナイ我々デモ少シハイ
ンチキヤヤツテ儲ケテ居ルノデハナイ
カト思ハレマスカラ、我々自ラ自分達
ノ立場ヲ辯護スル上カラモ、又大キク
言ヘバ國民道德ノ立場カラ考ヘテ、是
ハ小サナコトデハアルケレドモ、放ツ
テ置ク譯ニ行カヌ、コンナ馬鹿ナコト
ヲヤツテ居ルカラ戰爭ニ負ケテシマ
フ、海軍ガヤラシタカラ海軍ノ責任デ
アルカモ知レナイガ、大藏省ノ許可ヲ

得テ一億以上持ツテ來タ、是ハ本人が
發表シタモノナ、マツカーサー」カラ
召喚狀ガ來テカラ發表シテ居ルノダカ
ラ、嘘ヲ言ヘバ却テ不利ニナルト思フ
ノデス、ソレガ本當カドウカ

○滋澤國務大臣 私ハ其ノ新聞ヲ讀ミ
マセヌデシタガ、最近ニ於テサウ云フ
コトガアツタコトハ全然アリマセヌ、
餘程古イコトデアラウト思ヒマセヌ、
ソト今全部爲替管理ヲヤツテ居リマス
カラ、サウ云フコトハ、ナイト思ヒマ
ス

○赤尾委員 ソレハ重大ナコトデス、
ドウ云フ譯デ兒玉君ダケニ一億圓金ヲ
運バシタカ、ドウ云フ經緯デ許シタ
カ、御調ベヲ願ヒタイ、私ハ嘘カ本當
カ分リマセヌガ、嘘ノヤウダシ本當
ヤウダシ、ドウモハツキリシナイ、
國民ノ多クノ話題ニナツテ居リマシ
テ、國民思想ヲ惡化スル一ツノ原因ニ
モナツテ居リマスカラ、一ツ御調査ヲ
御願ヒシタイノデアリマス

○添田委員 川崎君、先刻ニ引續イ
テ御質問ヲ願ヒマス
○川崎(巳)委員 簡單ニ厚生大臣ニ
二、三ノ點ヲ御伺ヒシタイト思フノデ
アリマス、今同ノ臨時議會ハ其ノ初メ
ニ當リマシテ、前月ノ二十七日ニ開院
式ノ勅語ヲ賜ハリマシタ、其ノ勅語ノ
中ニ「朕ハ國務大臣ニ命シテ衆議院議
員選舉法ノ改正其ノ他緊急ナル議案ヲ
帝國議會ニ提出セシム」斯ウ云フ御言
葉ガゴザイマシテ、選舉法ノ改正ノ次
ニハ、其ノ他緊急ナル議案ヲ帝國議會
ニ提出スルヤウニ御命ジニナツタトス
ウアルノデアリマス、ソコデ其ノ翌日
總理大臣ガ施政方針ノ演說ヲセラレマ
シタ、緊急ナル議案ト云フノハドンナ
コトカラ總理大臣ノ御言葉ニ依ツテ判

斷シテ見マス、斯様ナコトニナル、
拔書ヲ讀ミマス、「是等軍復員者、海外
引揚者並ニ產業職者、其ノ他終戦ニ
伴フ失業者ハ數百萬ニ及ブト豫想セラ
レ、是ガ職業ヲ保障スルコトハ極メテ
緊急且ツ切要ナル國務ニ屬スル」勅語ノ
御言葉ニアリマス緊急ナル議案ト云フ
ノハ、之ニ關スル議案ト解スルノガ至
當ト思ヒマス、尙ホ續イテ「此ノ失業
問題ニ付テハ、政府ニ於テ復興ニ要ス
ル土木建築及ビ農林、水産ノ開發等諸
事業ノ急速ナル實施」云々、此ノ失業
救済ノ方法モ大體此處デ御示シナツ
タノデゴザイマス、然ルニ私共ノ手許
ヘ提出セラレタノハ、是カラ先會期ガ
延長ニナツテドシナ議案ヲ提出サレ
カ未來ノコトハ分リマセヌガ、此ノ儘
デ濟ムナラバ所謂三大法案ヲ提出サ
レ、アト附屬ノ小ツボケナ豆粒ノヤウ
マモノガ幾ツカ出テ居ルダケデス、三
大法案トハ選舉法以外ニ御存ジノ農地
調整法ト此ノ勞働組合法、ソレガ果シ
テ最モ寸刻ヲ爭フ優先ノ緊急議案デ
アラウカドウカト云フコトガ、私共ノ
疑問ナノデゴザイマス、ソシテ其ノ緊
急ナ問題トシテハ、復員軍人及ビ海外
ノ引揚者トアリマスガ、其ノ復員軍人
ト兩方合セルト、其ノ數ガ七百三十萬
ニナルサウデス、之ヲドウスルカ、急
イデ實ハヘバナラヌ、是ハ昨日御存ジ
テ決メタ所デゴザイマス、ソコデ軍人
ダケノ三百何十萬人ノコトニ付テモ中
中抄ヲナイ、早ク歸スヤウニト云フ熱
望ガ方々ニ起キテ居ルノデアリマス
ガ、其ノ軍人ニ付テハ「マツカーサー」
司令部カラノ命令ガアリマシテ、軍人
ノ恩給ヲ撤廢セヨト云フ話デ、是ハ二
月一日マデニソレヲ行ハナクチャナラ

ヌコトニナツテ居ル、是ハ日限ガ限ツ
テ居ルノデスカラ、緊急中ノ最モ緊急
事ト思フノデアリマス、先頃文部省ニ
於テハ「マツカーサー」司令部ノ命令
ニ依ツテ何カラ調査シテ差出セト云フ
ニ、エライ暇ガ取レタ、「スピード」ヲ
好ム司令部デハ待チ兼ねナ、其ノ當時
局長ヲ免職シタト云フヤウナ事件モ
アルノデゴザイマス、左様ニ二月一日
以前ニ恩給停止ニ關スル善後策ヲ講ゼ
ナクチャナラズ、其ノ恩給ノ約九割五
分ハ軍人デ、年額實ニ二十五億ヲ豫想
セラレルト云フノガ、當時情報局總裁
ノ談話トシテ發表セラレテ居リマシ
タ、斯様ナコトハ本會議其ノ他ニ於テ
政府當局ノ答辯ガアリ、殊ニ最後ノ日
ノ陸軍大臣ノ答辯ニモ、其ノコトハチ
ヤント手ヲ打ツテ居リマスカラ御心配
アリマセヌト云フヤウナ御言葉モアリ
マシタ、然ルニ斯カラ緊急ナコトニ付
テハ、會期ガアトモウ三日シカナイノ
ニマデ出ナイノデ、御勅語ノ緊急ナル
議案ヲ國務大臣ニ命ジテ帝國議會ニ提
出セシムト云フコト、一寸副ハヌヤ
ウニナツテ、甚ダ長多イコトデヤナイ
カト思ヒマスガ、此ノコトニ付テノ所
感ヲ承リタイ、軍人恩給ノコトニ付テ
ハ左様デゴザイマスガ、アトハ戰爭
及ビ戰災デ職業ヲ失ヒ、物價ノ暴騰其ノ
他ニ於テ國民ノ不安ハ甚ダシイモノデ
スガ、是ハ先程二、三ノ方カラ最モ熱
心ニ御述ベニナツタノデ略シマス、其
ノ方ノ手續モマダ一向出來テ居ナイ
シ、此ノ議會ニ提出サレナイ、厚生大臣
ガ貴族院ニ於テ十二月四日ニ御説明ニ
ナツタ所ニ依ルト、離職者ハ實ニ一
千五百萬人アル、是ハ復員軍人ニシテ
何ガ是レ、他ニ官吏ノ縮減等ニ依
ル知職層ノ失業ガ凡ソ四百四十萬モ

ル、斯ウ云フ事態ニナツテ居ルノデア
リマス、是モドウスルカ、失業者ダツ
テ一箇月モ二箇月モ食事セズニハ居
レナイノデアリマスカラ、軍人ノ恩給
ノ處分ト共ニ、知識階級ノ失業者ノ恩
給等ニモ多少何等カノ影響ガアリ、隨
テ何カ方法ヲ執ラナクチャナラナリ、
ソテ來ルノデアリマス、厚生省ノ立場
ニシテソレヲドウナサルカ、ソコデ厚
生省トシテハ勞働組合法ヲ出シタノデ
ヤナイカト云フケレドモ、勞働組合ハ
大層進歩シタモノデ、寧ロ行過ギタ位
歐米先進國ノ血デ以テ闘ツテ取ツタ勞
働條件ノ一番宜イ所ヲ皆之ニ盛ツタ
ス、選舉法モ同様デゴザイマスルシ、
農地法モ左様デゴザイマスガ、併シ
地方ヘ行ツテ見、又都會デモサウデ
ゴザイマスガ、婦人ニ聽ケバ、我々選舉
權ナシト云フモノヨリモ、ソレハ後々
デ宜イケレドモ、今當リ一升ノ米、
一合ノ食用油ヲ賣ツタ方ガ宜イノダ、
斯ウ云フコトヲ言ツテ居リマス、勞働者
ニシマシタ所ガ、勞働組合法モソレハ
結構デ、後々ハ宜イダラウケレドモ、
今ノ物價ノ暴騰ヲ抑ヘテ呉レナケレバ
困ル、成程筋肉勞働者ハ一日三十圓、
四十圓ト云フノデ多クノ金モ取ツテ居
リマスルケレドモ、是ガ關ノ物バカリ
買ツテ居ル、先刻ノドナタカノ御説
ヤウニ、酒ヲ飲ミタイト云フト一升二
百圓モスルト云フヤウナ話デ、林檎一
ツ買フニモ四圓、五圓ト云フヤウニナ
ルシ、鱈一尾ガ十圓ニモナル、斯ウ云
フコトデ、幾ラ賃金ガ高クテモ社會不
安ハ止マヌノデアリマス、斯ウ云フコ
トコソ總理大臣ノ御示シニナツタ所ノ
緊急ノ國務ニ關スル措置デヤナイカト
思フノデス、勞働法案ヲ提出シテ下サ

ツタノハ惡イコトデヤナク、非常ニ感
謝致シマス、其ノ内容モ甚ダ宜イコト
ニ思ツテ敬意ヲ表シマスルガ、ソレデ
ケデアツテ、斯様ナ緊急對策ガ一向ニ
御提出モサレズ發表モセラレナイノハ
ドウ云フ譯デアリマス、其ノ事情ヲ
伺ヒタイト思フノデアリマス

○青田國務大臣 川崎君ノ御尋ネノ點
ハ、失業對策等ニ付テ何等法律案モ豫
算案モ出テ居ナイ、サウ云フ點ハアル
ナツテ居ルカ、斯ウ云フ御質問デア
ルト了解致シマスガ、恩給廢止ニ付テ
後措置ニ付テハ、豫算ヲ多額ニ請求ス
ル必要ノナイ方法ニ依ツテ善後策ヲ立
テテ居リマス、唯恩給廢止ニ付テ方法
ヲ執ルノニ、勅令ヲ命令令ヲ必要トス
ルヤウナコトガ或ハ起ルカモ知レマセ
ヌガ、ソレモ場合ニ依ツテハ何等ノ立
法手段ニ依ラズシテ、其ノ儘社會保險
制度ニ移スコトガ出來ルカモ知レマセ
ヌ、此ノ點ハマダ十分研究致シテ居リ
マセヌガ、恐ラク勅令ノ程度デ濟ムノ
ハナイカト思ヒマス、時間ニ申シマ
スト斯ウ云フコトニナリマス、御承知
ノ通り恩給ノ支拂ハ三箇月毎ニ致シテ
居リマスガ、本年末日マデノ恩給支拂
ハ、來年ノ一月十日頃カラ始マルノデ
アリマス、サウシテ若シ恩給ガ存續ス
ルナラバ、來年ノ一月以後三月マデノ
恩給ハ來年ノ四月以後ニ拂フ、斯ウ云
フコトデアリマス、隨テ明年一月以後
ニ恩給ヲ失フ人ハ、三月頃マデニ之
ニ代ルベキ何等カノ方法ヲ立テテ、來年
度勿レ其ノ第一期分ヲ支拂フコトガ出
來ルナラバ、恩給ガ存續シタト同ジ時
間ニ一定額ヲ受取ルコトガ出來ルノデ
アリマス、併シ恩給停止ノ指令ヲ受ケ
マシテマダ日モ淺イコトデアリマス
カラ、社會保險會議會ト云フモノヲ作ツ

テ、専門家が合於於前二回會
議ヲ開キマシテ、具體的ノ案ヲ速カラ
ズ出來テ來ルト思ヒマス、其ノ案ガ適
當ナモノデアルナラバ、政府トシテハ
社會保險制度ヲ以テ原給制度ニ代ル方
法ヲ執ル、之ニ必要ナ豫算ハ、來年總
預算モ行ハレバ、其ノ總算以後、
若シ普通ニ帝國議會ガ審問ケルコト
ガ出來ルナラバ、明年一月以後ノ會期
ニ於テ必要ナ豫算ヲ提出シテ、恐ラク
ハ三月末日マデニハ議會ノ協賛ヲ經ル
コトガ出來マスカラ、來年四月勿ク必
要ナ資金ヲ出スコトガ出來ル、斯ウ云
フ案デ、今回ノ臨時議會ニハ其ノ豫算
ヲ請求スル手續ヲ執ラナカッタノデア
リマス、尙ホ失業問題ニ付キマシテハ、
本會議ニ於テモ極大體ノ全貌ヲ中上
ゲタノデアリマスガ、河川及ビ港灣、
道路等ノ改修新設ニ伴フ計畫ハ、既ニ
内務省カ立案ノ上大藏省ノ方ニ廻シ
テ居リマス、併シ其ノ大體ナ豫算ハ此
ノ短期ノ議會ニ請求スルニハ不適當ナ
點モアリマス、今度ノ議會ニハ出
サナカッタ豫算アリマス、尙ホ農林省
ノ計畫シテ居リマス農地開墾及ビ干拓
計畫ニ於テモ、相當ノ經費ヲ必要ト致
シマス、數億或ハ十數億ニ至ル經費ヲ
必要トスルノデアリマスガ、是モ藏入
其ノ他ト混同セテ豫算ヲ作ル必要ガ
アリマス、此ノ議會ニハ提出ヲ致
サナカッタノデアリマス、先程御話ノ
通り、現在失業シテ居ルト覺シキ數ハ、
全國ヲ通ジテ約四百萬ニモ上ラハトス
ルノデアリマスガ、勤勞者ノ手ヲ通ジ
テ職ヲ求ムル者、若シハ横須賀ニ行
キマシテモ、横濱デモ、東京デモ、到
ル處人ヲ求ムル貼札ガ出テ居リマス、
ケレドモ職ヲ求メテ來ル人ガナイノデ
アリマス、職ヲ求メテ來ル人ガナクテ、

職ニアブレタト云フ現實ノ人ヲ擱マヘ
ナイ限り、實ハ失業手當ヲヤラウニモ、
保險ヲ掛ケヤウニモ方法ガナイノデア
リマス、是ハ甚ダ矛盾シテ情勢デアリ
マス、十二月一日ニ施行致シマ
シタ戸口調査ニ依ツテ、失業狀態ノイ
マ少シの確ナモノガ程ナク出テ參リマ
ス、ソレガ出テ來レバ、凡ソドウ云フ
方面ニドレダケノ失業ガアルト云フ
コトガ分リマス、失業ガアルト云フ
完了スルマデハ、的確ニ何處ニドレダ
ケノ失業ガ居ルカト云フコトノ調査
ガマデ出來ラナインノデアリマシテ、
必要ナ手ヲ打ツ基礎材料ガナイ、斯ウ
云フ譯デアリマス、併シナガラ現在東
京市ニモ續續市ニモ、「カド」階級以
下ノ生活ニ困ツテ居ル人ガ相當ニ居ル
コトハ、是ハ現實ノ事實デアリマス、
是ハ打ツチャツテ置ク譯ニ行キマセ
ヌ、ソレガ爲ニ最近大藏省トモ話合ヒ
テ致シマシテ、恐ラクコ、數日、少ク
トモ一週間以内ニ、是等ノ生活貧窮者
ニ對シテ具體的ニ是ダケノコトヲスル
ト云フ案ヲ發表スルコトニ進行中デア
リマス、サウ云フヤウニ、一面ニ於
テハ職ヲ與ヘ、一面ニ於テハ職ニアブ
レテ貧窮ナ状態ニアル者ニハ、政府ト
シテ豫算ノ許ス限り相當ノ援護ノ手ヲ
伸ベル、斯ウ云フヤウナ考ヘ方デ居リ
マスガ、國庫殆ド破滅ニ瀕シテ居ル現
狀ニ於テ、十分ナ金額ヲ支出スルコト
ノ出來ナイコトハ、甚ダ遺憾デアリマ
スケレドモ、併シ政府トシテ出來ルデ
ケノ方策ハ執ツテ行キタイ、斯様ニ考
ヘテ居ル次第デアリマス

者ガ少イノハ事實デ、是等ノ人々ガ何
ニナルカト云フト、所謂大道ノ閑商人
ニ原料ヲ賣付ケタリ、運シタリ、其ノ
手傳ヒヲスル、其ノ方ガ途方モナイ儲
カリ方ヲスルモノデアリマス、其
ノ方ニ趨ツテ居ルモノ一ツノ原因デア
ルト思ヒマス、併シ是等只今馬鹿儲
ケシテ居ルモノノ先永ク續ク譯デモ
ナシ、前途暗澹タルモノデアリマス、
斯様ナ點一尾十圓、或ハ齒磨一袋何圓
モスルト云フヤウナ馬鹿相場ヲ付ケテ
居タラ、賣ル者モ買ル者モガ共倒
レニナルデ、是ハ甚ダ不健全ナ現象
ダト思ヒマス、之ヲ根本的ニ
直ス邊ハ、所謂平和産業ヲ復興スルニ
アル、品物ヲ賣買セセルコトニアル、
軍需産業ヲ悉ク破壊セラレタノミデ其
ノ轉換ガ十分ニ出來ズ、平和産業ガ起
ラナイノデ、ソコデ正當ナ勞働者ノ勞
力ヲ發揮スル場所ガナイコト思ヒマ
ス、炭礦ノヤウニ倍額ノ賃金デ人ヲ募
ツテ居ル所カアリマス、其處
ニハ餘リ行カナイ、ソレダカラ意ヲ
ニ致シテ、平和産業ヲ急遽ニ復興スル
コトヲ圖ルノガ、此ノ不健全ナ狀態ヲ
破ル一策提テデアル確實ナ途デアルト
思ヒマス、品物サヘアレバ物價ガ暴落
値ヲ呼ブモノデハナイノデスカラ聞
止ミマス、勞働者ニ至ルマデ聞以ヒマ
デ加ヘテ、一箇月ノ生活費ガ何百圓ナ
ケレバ暮セタイ今日ノ狀態ニ於テハ、
幾ラ勞働組合法ヲ作ツテ、高イ賃金ヲ
取ルヤウニ團結サセテ團體交渉ヲ與
ヘテヤツテ見タ所ガ、喉ノ渴イタ者ニ鹽
水ヲ飲マセルト同ジデ、一向ニ役ニ立
タヌト思ヒマスガ、平和産業復興ノ途
ニ付テ、是ハ厚生省ノ專門ノ仕事デモ
アリマス、マイガ、ドウ云フヤウニ手ヲ
打ツタイラツシヤルノデゴザイマセウ

カ、之ヲ御伺ヒ致シマス
○青田國務大臣 川崎君ノ御話ノ通
リ、問題ハ政府全體ニ係ルコトデアリ
マシテ、厚生省ノ所管ト云フ譯デア
リマセヌガ、川崎君ノ御承知ノ通り、
今日平和産業ヲ開始シヨウトスルノニ
一番困難ナコトハ、前途ノ見通シガ付
カナイト云フコトデアリマス、仕事ヲ
始メル人ハ、前途ノ見通シガ付カナケレ
バ生産意欲ガ起ラナイ、前途ノ見通シ
ヲ付ケテ仕事ヲ始メヨウトシテモ、資
材、燃料總テガ窮乏シテ居ル、御承知
ノ通り石炭ノ問題ヲ御考ヘニナリマシ
テモ、今普通ノ工場ニ石炭ハ一塊リモ
廻リマセヌ、半減シナケレバナラヌト云
フ狀況デアリマス、普通ノ平和産
業ニ石炭ヲ配給スルコトハ非常ニ困難
デアル、然ラバ原料ガアルカ、棉ガアル
カ、「バルブ」ガアルカ、鹽ガアル
カ、各種ノ原料ヲ尋ネテモ、原料ノ窮
乏ハ殆ド其ノ極ニ達シテ居ルノデゴザ
イマス、ソレデアリマス、原料ノ問
題ヲ先ツ解決シナケレバ工場ガ動カ
ナイ、工員ガ集ルカト云フト、中々工
員ノ募集ニ困難デアリマス、仕事ヲ始
メル爲ニ金銀ノ途ガ開カレテ居ルカ、
是モ今日ノ金融界ノ現狀カラ言ヘバ、
平和産業ノ先ノ見通シノ付カナイ今
日、準備資金ニ相當ノ金ヲ融通スルコ
トサヘモ困難デアル、サウ云ツタヤウ
ナ幾多ノ問題ガ錯綜シテ居ルノデアリ
マシテ、其ノ一ツノ條件ヲ解決スルコ
トサヘモ容易ナラヌ事情ニナツテ居
ル、必ズシモ政府ノ簡單ナ施策ノミデ
平和産業ガ直グニ復興スルコト云フ見
通シハ付カナイノデアリマス、一ツノ
途ハニ困難ヲ克服シツ、之ヲ常軌ノ狀
態ニ復シテ行タ、何シロ非常ニ大キナ

病氣ニ罹ツタノデアリマス、其ノ
後後ハ中々簡單ニハ回復シナイ、是ガ
腹痛カナンカナラバ注射一本デ癒リマ
セウ、併シ十數年、多年ニ亘ル長イ出
血ヲ以テ今日ノヤウナ狀態ニナツタ日
本デアリマス、其ノ後後ヲ餘程價
重ニヤラナケレバ、元ノ身體ニ返ラナ
イト云フコトガ常識トシテハ考ヘ得ル
コトデアリマス、併シ折角御話ノ趣意
ニ依ツテ産業復興ノ爲ニ、出來ルデ
ノ努力ヲシナケレバナラヌト考ヘテ居
リマス
○川崎(巳)委員 時間ガ過クナリマシ
タカラ、私ハアト一ツダケ伺ツテ質問
ヲ打切りタイト思ヒマス、ト云フノハ
少シ露骨ナ御尋ネニナリマスガ、此ノ
立派ナ労働組合法案ヲ御作りニナツタ
ニ付キマシテハ、外ノ農地法及ビ選舉
法ナドノヤウニ、政府バカリノ考ヘデ
ヤツタノデナシニ、労働法制定議會ニ
掛ケテ其ノ答申ヲ俟ツテ更ニ練ツテ御
決メニナツタノデ、其ノ手續モ洵ニ立
派デ之ニ敬意ヲ表シマス、併シコ、デ
同ヒタイノハ、今ノ産業モ興ラナイノ
ニ先ツ勞働者ノ方ヲ立派ニ位置ニ付ケ
テヤルト云フコトハ、惡イコトデア
イガ御用意ガ宜シキコトデアリマシ
テ、却ツテソレガ運用ノシヨウニ依ツ
テハ邪魔ニハナリハシナイコト思フ
デアリマスガ、ソレハ僥倖キ、此ノ勞
働組合法案ヲ立法案スル趣意ハ、申
シニキコトデスガ、自設のテアルカ
他動的テアルカト云フコトヲ伺ヒタ
イノデアリマス、一ボツダムニ宣言ニ
依リマスレバ、河野君ガ本會議ガ議上
ガマシタヤウニ「日本國政府ハ、日本
國國民ノ間ニ於ケル民主主義の傾向ノ
復活強化ニ對スル一切ノ障礙ヲ除去ス
ベシ」斯ウアリマスカラ、是ハ大體御

管轄ノ勞働問題ニ適用スレバ、斯様ナ
勞働組合法ヲ是ダケデモ作ルコトニナ
ルノハ當然ト思ヒマス、所ガ立法ノ動
機ガ單ニソレダケデアリカ、ソレトモ
恩給法ノヤウニ、若シハ財産説、戰
時利得稅ヲ云々セヨト云フ事柄ノヤウ
ニ、何處カラカ御指令ガアツテ、サウ
シテ發案シタノカドウデアリカ、御指
令ガアレバ其ノ指令ナルモノハ議會ノ
協賛權モ押潰ス、實際ハ別トシテ……
現案ニナリマスガ、松本國務大臣ハ貴
族院ノ或ル會議ニ於テ、「マツカー
サー」司令部ノ權力ハ天皇及ビ日本政府
ノ權力ヲ拘束シ其ノ權下ニ置ケレド
モ、司法權ハ抑ヘラレナイヤウニ思フ
ト、斯ウ言ツテ居ラレマスガ、然ラバ
立法權ハドウデアリマセウカト云フコ
トガ私共疑問デアリマス、ソコデ若シ
何處カ他所ノ力デ以テ命セラレテ居ル
ノナラバ、詳シイ第何章第何節ト云フ
コトハソレハ厚生省等デ以テ仕上ラシ
タノデ、是ハ政府ノ御發案ニ違ヒナイ
ケレドモ、何カ三箇所カ五箇所カ骨子
ヲ示サレテ、ソレニ依ルト云フコトナ
ラバ、ソレハ立法府デ以テ修正ナリ否
決ナリ手ヲ著ケルコトガ出來ナイ、斯
ウ云フ問題ニナツテ來マスノデ、左様
ナコトヲ差支ヘナイ限リ私共立法府ニ
立ツ者ノ參考ノ爲ニ御話ヲ願ヒタイト
思ヒマス

●菅田國務大臣 只今ノ御質問ニ御答
ヘ致シマス、既ニ「ボツダム」宣言ニ依
ツテ九月二日以後、日本ノ將來ハアノ
十三項目ニ副ウテ行動スル必要ヲ生ジ
タノデアリマスカラ、當分ノ間ニ副
ハナイ方向ニ行クコトガ出來ナイコト
ニナツテ居ルノハ川崎君ノ御指摘ノ通
リデアリマス、隨テ近キ將來、出來ル
ダケ早ク所謂民主化ノ爲ニ、近代精神

ニ則ツテ勞働ノ問題ヲ調節スル必要ヲ
生ジタコトハ、誰モ承知シテ居ツタノ
デアリマス、私ガ就任致シマシタ當時
ニ於テモ、左様ナ考ヘヲ持ツテ居ツタ
ノデアリマスガ、殊ニ内閣成立ノ二日
後ニ「マツカーサー」元帥ト幣原總理ト
ノ會見ノ際、必要ナル改革ヲ行フベキ
五項目ヲ先方カラ申出シタノデアリマ
ス、其ノ五項目ノ一ツトシテ、勞働階
級ト産業平和ノ維持ノ爲ニ勞働組合法
ヲ制定スルコトガ望マシイ、ト云フ文
句ガアリマシテ、其ノコトハ當時ノ新
聞デ御覽ニナツタ通りデアリマス、併
シナガシ此ノ勞働法ノ立案ニ當リマシ
テ、一々ノ箇條ヲ先方カラ指圖シタト
云フヤウナ事實ハアリマセス、當時經
濟ノ部門ヲ擔任シテ居リマス一人ノ
「アメリカ」軍人ガ、勞働立法ヲ提案ス
ル前ニ一應通告ヲ受ケタイト云フコト
ヲ申込シテ居リマス、其ノコトハ必ズ
シモ此ノ法案バカリデハアリマセス、
現ニ衆議院ニ提出サレテ居ル總テノ法
律案ハ、皆之ヲ詳細ニ聯合國司令部ニ
通報シテ居ルノデアリマス、通報スル
コトガ義務ナリトサレテ居ル、サウ云
フ意味ニ於テ勞働法案モ、衆議院議員
選舉法改正案モ同ジ立場ニアリマス、
併シナガラソレヨリモ、選舉法ヨリモ
一層重大ナ關心ヲ持ツテ、勞働法案ノ
成行ニ注意ヲ與ヘテ居ルカニ想像サレ
マス、サウ云フ意味ニ於キマシテ、非
公式ニ厚生省ノ者ト先方ノ者ト數回ニ
互リ會談ヲ重ネタコトガアリマス、サ
ウ云フ譯デアリマスカラ、實質的ニハ
「マツカーサー」司令部ガ、日本政府及
ビ立法府ノ行動ヲ拘束スルコトニナリ
マセウ、ケレドモ此ノ會談ニ於テ勞働
法案ニ修正ヲ加ヘルコトガ出來ナイカ
ト言ヘバ、ソレハ議會獨自ノ見解ニ於

テ、修正案等ヲ御出シニナルコトハ毛
頭差支ヘナイ、唯他日「マツカーサー」
司令部ニ於テ、此ノ法律ノ一部分ニ適
當ナラズト認メルモノガアレバ、彼等
ノ獨自ノ見解ニ於テ修正ヲ命ジテ來ル
コトハアリマセウ、併シ議會ガ法律案
ヲ審議スル、之ニ對シテ修正案ヲ出シ
得ナイトカ、修正ヲ加ヘ得ナイト云フ
コトハ絕對ニアリ得ナイト私ハ信ジテ
居リマス

○川崎(巳)委員 事情了承致シマシ
タ、ソコデ内容實質ニ關スル件デゴザ
イマスガ、是ハ政府委員カラアナタノ
御不在中御答辯ヲ得マシテ、又私ノ大
キナ「ポイント」ニ付テノ説明モ希望モ
申上ゲテ置キマシタカラ、ソレハ政府
委員カラ篤ト御聽キ取リヲ願フコトニ
致シ、此處デハ繰返サヌコトニシテ私
ノ質問ハ是デ終リマス
○添田委員長 ソレデハ本日ハ是ニテ
散會シテ、明日ハ午前十時ヨリ正確ニ
御出席ヲ願ヒマス
午後五時三十三分散會

昭和二十一年一月二十八日印刷

昭和二十一年一月二十九日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局